昭和24年3月19日第3種郵便物認可 昭和32年12月20日印刷 昭和32年12月25日発行 第38輯第12号(毎月1回25日発行)

建築と社会



日本建築協会

建築生産特集号

1957—12

室内の空気調和が簡単にできる



日立 エアーコンディショナー

パッケージ型

主な用途（保健衛生用）

一般事務室、ホテル、喫茶室
劇場、キャバレー、店舗
銀行、美容室、理髪室
手術室、療養所などの冷暖房

N－04 日立製作所

TRADE MARK



DOG

メンブレン式防水

の補強材料は30年の経厂を誇る

ドッグ印で!!

ドッグ印	アスファルトルーフィング
〃	アスファルトフエルト
〃	砂付ルーフィング
〃	メルタイトルーフィング
〃	キンマレアタイト（高級瀝青金麻布）
〃	ヘツシヤンファブリツク（瀝青黄麻布）
〃	コツトンファブリツク（瀝青綿布）
〃	白麻ファブリツク（瀝青苧麻布）
〃	ゲオンタイト（伸縮目地板）

地下鉄道、高架鉄道の如き激しい震動箇所でも弊社製品は完璧の防水効果を発揮して居ります

型録・見本・仕様書
御報呈上

日本工業規格表示許可工場

株式会社 工英社

大阪市西成区橘通9丁目24番地 電話天下茶屋㈹8861・8862番

LIGHTGAGE STELL

(ライトゲージ)
軽量形鋼

理想的不燃建築材

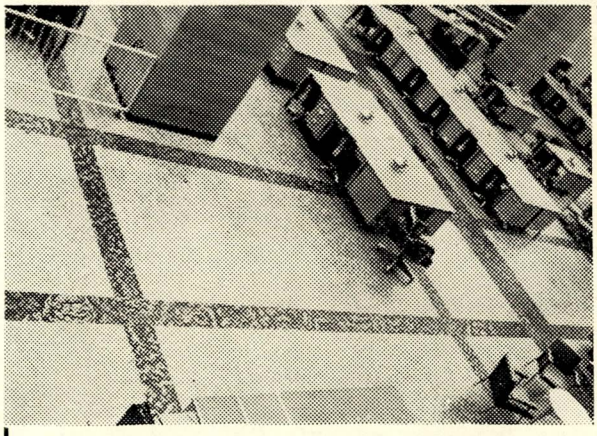
耐火　耐震・耐久
鋼材使用量の軽減
取扱簡易・工期短縮

簡易鋼矢板
(トレンチシート)

我が国唯一の設備
連続式冷間整形
ロール機による優秀製品

ガス・水道管等の
地下埋没工事の仮土止
河川工事の締切・干拓
及び護岸工事に最適

中乙島製鋼株式会社
大阪市東区糸天町4番地 TEL東(94)5031~5



床張材
リノリューム
リノタイル

新発売
Nリノタイル

ビニール製
スポンヂシート

◇ソフトな感触
◇優秀な耐久力
◇美しい色彩

東洋リノリューム株式会社

カタログ進呈

本社工場　兵庫県伊丹市伊丹558
電話伊丹(代)3531・大阪(48)4490
東京支店　東京都中央区銀座4丁目三和ビル
電話京橋(56)1701・2564
大阪事務所　大阪市東区瓦町2丁目三和ビル
電話北浜(23)0375~0379



シーリングパテ NO.1001

窓ガラス防水パテ，スレート又はボード類の間隙充填に



NO.195

吸音板，防熱板を天井壁面及びダクト面に



NO.601

工，竹工，合板に，水に強い，安い，使い易い

建築用セメダイン

セメダイン株式会社

本社　東京都千代田区神田　TEL ㊸3131
支店　大阪市南区大宝寺東　TEL ㉗3456

ヒッターライト

日立メラミン　プラスチックス　化粧板

日立電線

日製産業株式會社大阪営業所

大阪市北区神明町16（日製ビル）TEL (34) 1854. 6178（代表）

特許出願中

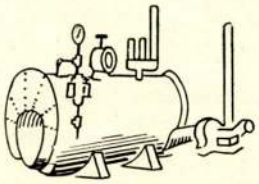
平川-MPボイラ

煙管式ボイラの「革命兒」現る！

経費節減 527万円の利益を生む

☆高性能・輻射型
☆石炭・オイル・ガス焚
☆1年間(7200時間)の燃料節約額
7′×30′ランカシヤボイラと比較して
527万円益
(但し E.E.2000kg/hr.
6000カロリー石炭6000円/屯
1日24時間1月25日として)

大阪府立工業奨励館
公式試験成績
汽缶効率 81.2%
石炭焚にて
排ガス温度 197℃

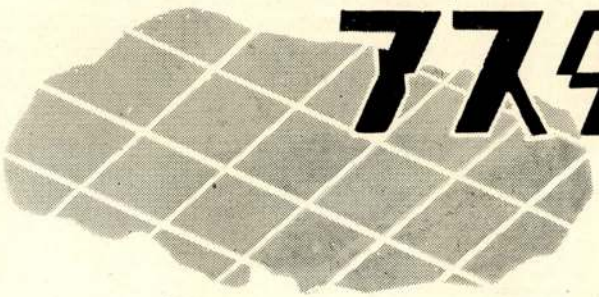


◁営業課目▷
平川～水管ボイラ、平川～機関車型ボイラ
平川～竪型ボイラ、外ボイラ全般・輸送機械

株式會社 平川鉄工所
本社・工場 大阪市大淀区大仁西2の1 電話福島㊺1975－8
東京営業所 東京都中央区八重州6の7 電話㉘5883・7787－8
九州出張所 福岡県小倉市富野545 電話 小倉⑤1362

最も進歩した建築には最も進歩した床材

ビニアスタイル (2粍厚)
アスタイル を



藤森工業株式会社
本社 東京都中央区日本橋通1－5（中内ビル）
専用電話 東京(28)6271～3番
大阪営業所 大阪市西区土佐堀通1丁目1番地（大同ビル709号室）
電話 土佐堀(44)0225・7569・3527（直通）3131（ビル交換）

（衛陶マーク）

東洋陶器の衛生陶器と附属金具

Toyotoki

（金具マーク）



新製品

S—170
スミ付ロータンク

弊社は本社・茅ケ崎の各衛陶工場及び金具工場共にＪＩＳの指定を受けた唯一の衛生器具総合メーカーです

品質管理の優秀な
東洋陶器製品をセットで御使用下さい

東洋陶器株式會社

本　社
小倉市篠崎町458
ＴＥＬ ⑤ 2481～5

大阪営業所　大阪市東区伏見町5の3　ＴＥＬ ㉓ 4518～9
各地営業所　東京・名古屋・小倉・広島・高松・札幌

茅ケ崎工場
神奈川県茅ケ崎市
ＴＥＬ 2105～8

ビニール製　壁・襖貼材料

ロンフイックス



特殊加工がしてありますから，どんな糊でも又素人でも容易に貼れます。
インク，油，手垢等の汚れも石鹸水できれいにとれて水拭が可能です。　（特許出願中）

床材料の決定版！

ロンリウム

（ビニール製）



東京地下鉄・東急，新車に使用されています。
それは感触が柔らかく，手入れが簡単でしかも毎日多数の乗降者に耐え得る等その特性が他の床材より優れている事が認められたからです。
標準寸法幅6尺×長30碼×厚2.5粍（1巻15坪）

川口ゴム工業株式会社

東京都葛飾区本田四ツ木町54　　電話葛飾（69）1946—9
（全国有名内装工事店に御照会下さい）　　（カタログ贈呈）

住宅美素工事の創始者

◉新築住宅に拭込手入のいらぬ美素工事
◉古い住宅が新築同様となる美素工事
◉20有余年実施、改良を加えた美素クリーム使用

ビルディングの床・ガラスの月極清掃工事

美素ワツクス・美素水性ワツクス使用

大阪市東区瓦町弐丁目
（三和ビル）

株式会社 **美素工業所**

電話 (23) 5888 / 4938 / (77) 8050

建物クリーニングとシリコーン防水

◉美素式ビルディング洗浄工事
◉建物外壁サンドブラスト工事
◉建物外壁各種吹付工事

シリコーン美素式防水工事

米国ダウ・コーニング会社製のシリコーンを原料
として作られた最新強力防水剤エバーシール使用
溶剤は高級溶剤を使用し屢黄色変化を来たす石油剤を使用せず

大阪市東区瓦町弐丁目
（三和ビル）

株式会社 **美素工業所**

電話 (23) 5888
(23) 4938
(77) 8050

会　告　1

定款一部変更実施の件会告

昭和32年10月24日開催の臨時総会において承認決議を得ました本会定款一部変更の件は，主務官庁に認可申請中のところ，昭和32年11月25日付で認可されましたので即日実施致しました。以上会告申上げます。

12月　会と催

忘年会
18日午後6時

アデユー1957年忘年懇親会開催

本会が昭和29年より，新しい企画として年に一度，各界老若の会員が年末の忙中に閑を得て一堂に集い，歓談の中に懇親を得る趣旨を以て毎年標記忘年懇親会を盛大に催して参りましたが，年々出席者も増加をみ，昨年は160余名の方々の御参加をいただいて幸い好評を得ました。

本年も昨年に劣らぬ企画の充実を計る一つの試みとして，会員による名人会の発表などを加えて下記により開催いたします。例年御申込みが遅れて，不本意ながら御断りする方々多数をみますので，何卒お早くお申込み下さるよう御案内申上げます。

記

1. と　き　12月18日（水）午後6時開会―8時30分閉会
1. ところ　お座敷北京料理 **来　山　閣** 2階大広間
（大阪市南区玉屋町8・相合橋北2丁・市電八幡筋西へ2つ目の辻北入る・電話㉖8181番）
1. 会　費　500円（別に補助があります）
1. 申　込　13日までに会費を添えてお申込み下さい。
但し定員（150名）に達した時は期日前でも締切ります。
1. プログラム
① 開会の挨拶　岡本　弘氏（忘年懇親会実行委員会主査）
② 挨　拶　会長　竹腰　健造氏
③ 会員名人会の発表
日本舞踊　長唄　新曲浦島　―(10分)―
踊　今村　騰氏（中央電気工業K.K.社長）
唄　河合貞一郎氏（K.K.大林組常務）
落　語　初代桂春団治口演の〝寄合酒〟―(10分)―
高橋　慶夫氏（K.K.大阪建築事務所専務）
④ のど自慢・かくし芸　⑤ 景品の抽せん
⑥ のど自慢・かくし芸の審査発表　⑦ 会員の交歓
⑧ 万才の三唱（本会名誉会員）
⑨ 閉会の挨拶　鷲尾　健三氏（事業委員長）

- 出席者全員及び抽せん当せん者に粗品及び賞品贈呈（会員有志の寄贈品）します。
- （お願い）
(イ) 準備の都合により当日会場での受付はお断りします。
(ロ) お申込みになられた方で15日までにお申出無く当日欠席された時は会費の負担をお願いします。

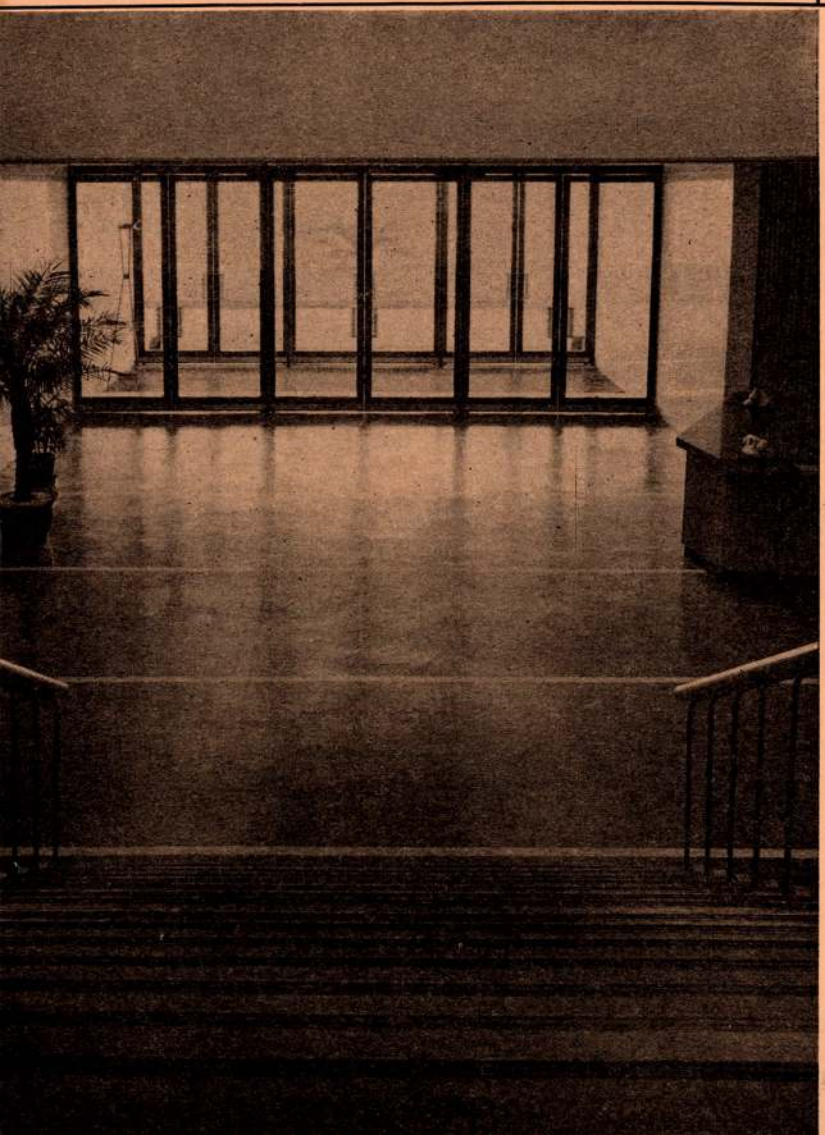
建築団体合同 新年交礼会開催

昭和33年の新年を迎えるに当り，建築関係者一堂に会して新春を寿ぎ交礼すると共に各自廻礼の煩を省くため，下記により関係団体合同の交礼会を開催致します。多数会員の方々の御出席をお願い申します。

記

1. 日　時　1月4日　1時—2時の間　随時
1. 会　場　大阪建設会館6階集会室（東区京橋4 天神橋南詰め）
1. 会　費　300円
1. 申　込　12月20日迄に会費を添えて各所属の会に御申込み下さい。
   締切日以後の御申込の場合は，交礼会名簿に記載洩れとなることがあります。
1. 共催団体　日本建築協会，日本建築学会近畿支部，大阪府建築士会，日本建築家協会関西支部，大阪建設業協会，関西建材協会

新年交礼会
33年1月4日
午後1時～2時



播磨造船所相生工場綜合事務所玄関ホール

ホール床
CB—3（アスファルトタイル）
CN—1（プラスタイル）横線

階　段
CA—2M（プラスタイル）

田島応用化工株式会社



株式会社　播磨造船所相生工場綜合事務所

設計施工　清水建設株式会社



新　桜　橋　ビ　ル　デ　ィ　ン　グ

施　工　　株式会社　　大　林　組

新桜橋ビルディング

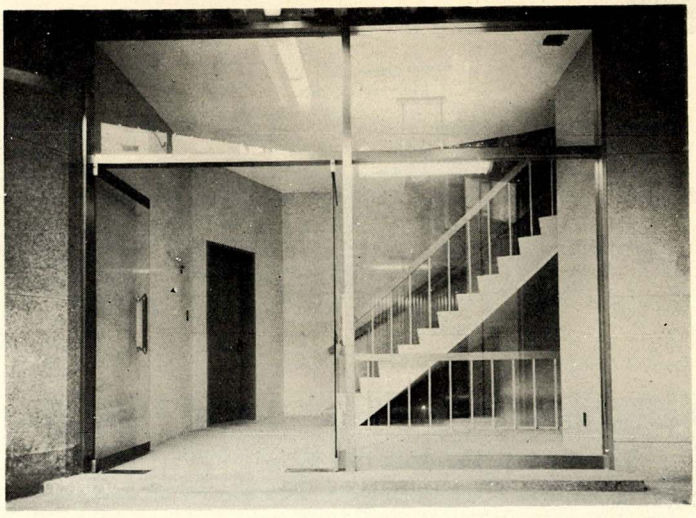
シヤタア工事施工　株式会社　鈴木シヤタア商会

温湿度調整装置
衛生水道工事
電気設備工事　施工　三機工業株式会社



大理石・テラゾー・セラストン

株式会社　矢橋大理石商店



塗装工事

竹林塗装工業株式会社

優れたナイロンカーペット！

Toray
Trade Mark



東レ ナイロン絨氈・緞通は100％スパン
ナイロン糸を使用したもので

★弾力性に富んでいます
★驚く程摩擦に強い
★吸塵性が非常は少ない
★虫の害を全く受けません

東レナイロン

絨氈・緞通

東洋レーヨン株式会社

発売元 株式会社泉商会
大阪市北区宗是町1（大ビル150号）
TEL （44） 2736～9

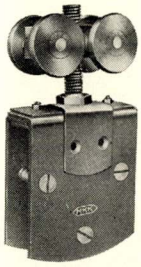
MKK

ドアーハンガー

本邦唯一の長尺レール {12尺 / 9尺



特長 在来の市販6尺レールに較べ継目が最小限度にすみ数多の継目によって、とかく運行の円滑と簡易取付を欠く憂いを解消し扉が軽快に操作できる。



種目

トラックレール ガイドレール カーブレール
6，9，12尺 6，9，12尺

木製扉用
鉄扉用 （スチールボール / スチールローラー入） 複車・単車ハンガー
重量型ハンガー
其の他ブラケット附属品一切

御用命は全国各地有名建築金物店へ御照会願います カタログ進呈



株式会社 三谷製作所

東京都足立区高野町二一八番地
TEL 足立 (88) 4048・4239

建築と社会

12

建築生産特集

表紙について

デザイン：岩本 博行

第2回写真コンクール佳作作品

撮影者：小林 貞彦（三和銀行建築課）

画 題：記 念 —— 神戸市本山町にて

建築と社会

第38集・第12号

売価 1部130円・送料共

昭和32年12月20日印刷

昭和32年12月25日発行

発行所 社団法人 日本建築協会

大阪市東区北浜3丁目37

電話 北浜㉓ 9648・9649・9640番

振替口座 大阪39975番

発行人 沖田誠一

編集人 松井昭光

印刷所 株式会社研文社

大阪市北区堂山町66

電話㊱2091～3番

印刷者 網野栄

1957年12月号目次

作品作風

新桜橋ビルディング…… 4

株式会社播磨造船所相生工場綜合事務所…… 8

スケッチブック

第3回工高生デザインコンクール入選作品……17

関西大学教育会館……22

建築の眼……24

本文

儀式：

建築儀礼について——民俗学の立場から——

林 宏……25

建築工事の祭式奠について……浅野 繁雄……29

工作・工具：

日本建築の工作や加工の変遷……浅野 清……32

工匠の用いた用具……相沢喜久太郎……35

職人：

建築生産に関し職人の実態の変遷……中出 定夫……37

職人の養成について……早川 嘉行……42

技術者：

大学卒業生の職場分布……巽 和夫……44

設備原論 Q・A 関西設備原論研究会

17. 中層アパートの各住戸の損失熱量はどれ程違うか……47

18. 壁体遮音の重量則とは何か……49

会員の声

住宅施策評論に一言……山地 英雄……51

本誌の表紙デザインに寄せて……向井 正也……51

書評

「建設業物語」……政岡 基次……52

会合便り……53

昭和31年度決算報告……57

「建築と社会」総目録……63



南　面　外　観

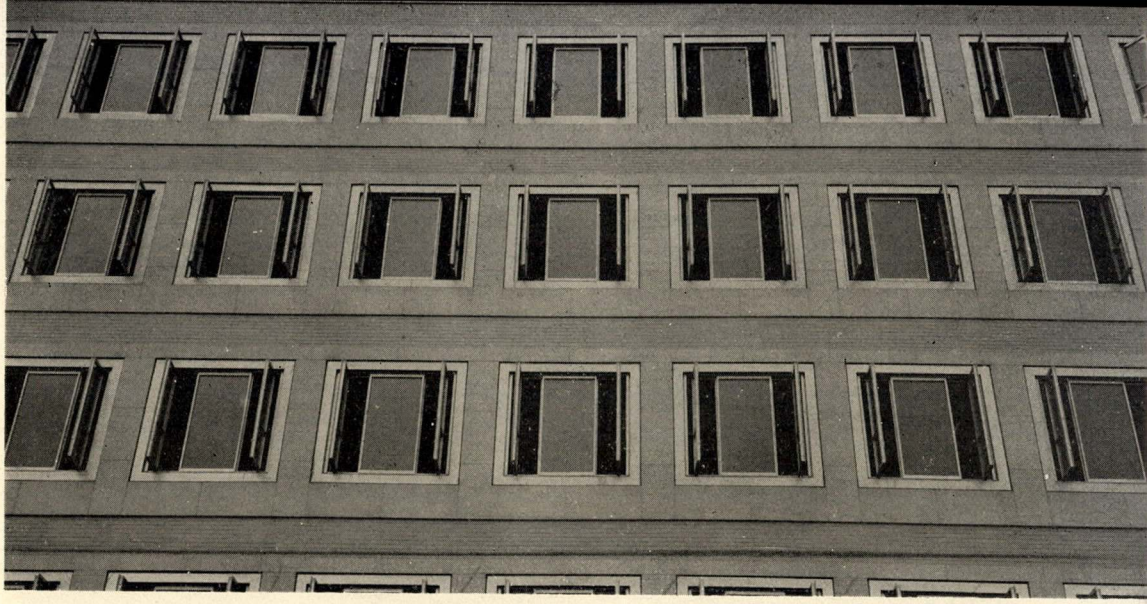
新　桜　橋　ビ　ル　デ　ィ　ン　グ

設計監理　日建設計工務株式会社

施　工　株式会社大　林　組

所在地	大阪市北区梅田町17－1	
工　期	昭和31年11月7日起工	
	昭和32年9月27日竣工	
敷地面積		265.29坪
建築面積		249.57坪
延面積		1,946.13坪
構　造	鉄筋コンクリート造	
基　礎	：既製コンクリート杭打	
階　数	地上7階・地1階・塔3階	
高　さ	パラペット上端まで87尺6寸	
	最高部	129尺7寸
外　装	花崗石・セラストン・二丁	
	掛タイル・モザイクタイル	
各階面積	地1階	247.78坪
	1階	212.44坪
	中2階	136.77坪
	2～6階	各246.10坪
	屋1階	56.24坪
	屋2階	31.20坪
	屋3階	31.20坪





外　観　詳　細

平面計画に苦心しました　——設計者のことば——　阪永金重

3角形の敷地へ，1階に銀行を，上部に貸事務所，地階にビヤホールを入れるという，大阪風にいえば商魂たくましい建物といえましょう。それだけに平面に苦心した建物です。

この敷地に1階の主部をなす銀行スペースをできるだけ大きくとること，計画前敷地角地にあったビヤホールは地階に入ってもらって130坪の面積を確保して，在来以上の成績を上げなければならないということから，当然三つの表玄関が東側の角地に集中して三角形の中央部に銀行の営業室がくるという案になりました。

東側のガラス張の玄関広間から地下へは真直ぐにビヤホールに通じます。道路から自然にビヤホールに吸いこまれるという寸法であります。広間中央に貸事務室と屋上ビヤガーデンに通ずるエレベータ2台があります。また左側へ廻りますと階段は貸事務所に通じ，自動扉が開いて銀行客溜となります。

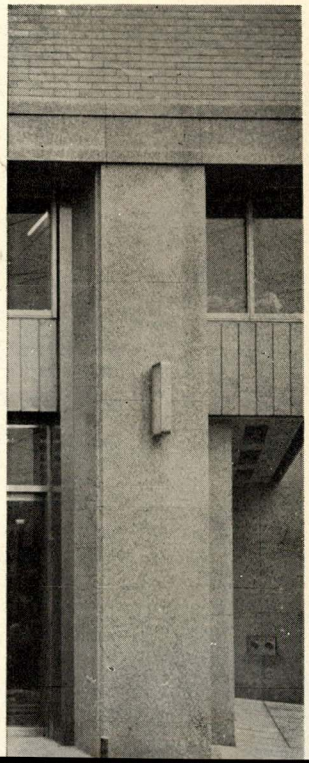
銀行の右側に日本で初めて計画されたドライブインの窓口があります。道路から直接通ずる屋内自動車通路から，直接アメリカ式の窓口から車に乗ったまま銀行預金ができる仕組になっています。

営業室の客溜には仕上はやわらかで，西端にはカーペットを敷いた応接セットをおき，東端にはお客が自由に書籍が読めるようにしました。天井からは音楽が流れます。

外観が場所柄，大いに張りきったわけですが，最終的に今のエレベーションになりました。目抜きの場所だけに塔屋を大きく作って上部は広告サインが取りつけられる予定です。駅からも，南北線からもよく見えましょう。

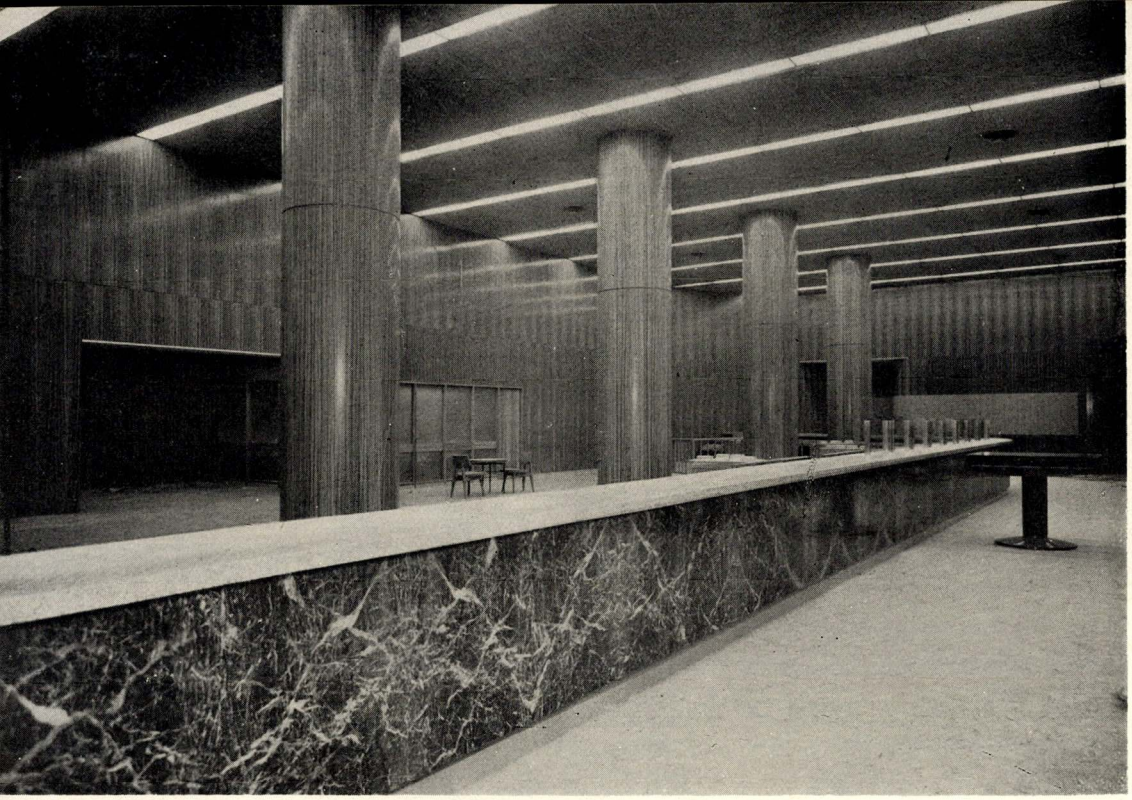
貸事務室の窓は一寸考えました。室内は完全温度調節がしてありますので，防音・防熱のエヤータイト2重ガラス入り，外開きスライド型でクランプなしでも開いた窓は風でもびくともしません。サッシュ枠は特別の取付で建物構造ができてからでも，はめ込み取り外しできるようにしてあります。

正　面　入　口

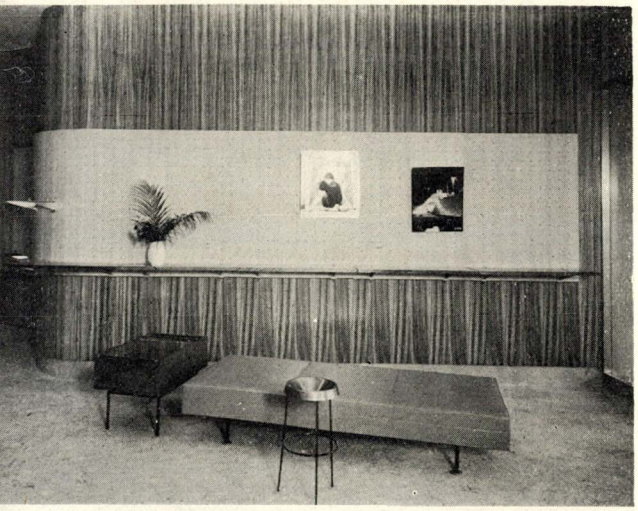


ビ　ヤ　ホ　ー　ル　入　口





銀行営業室



客溜の一部

施工者のことば

当ビルディングは桜橋交叉点の西北角，撥形異形の敷地を極度に，効果的に利用して建てられたもので，昨昭和31年12月着工。まず，シートパイル及び2本継ぎ24m，400本のコンクリート杭打を実施。敷地北西側は料亭等が露地一つを隔てて密集しているので土留切梁，矢板引抜きに伴う地盤の陥落防止等に細心の注意を払い，注水砂入等を厳重に実行した結果，道路，埋設管等にほとんど損害を与えることなく工事を進めることができました。

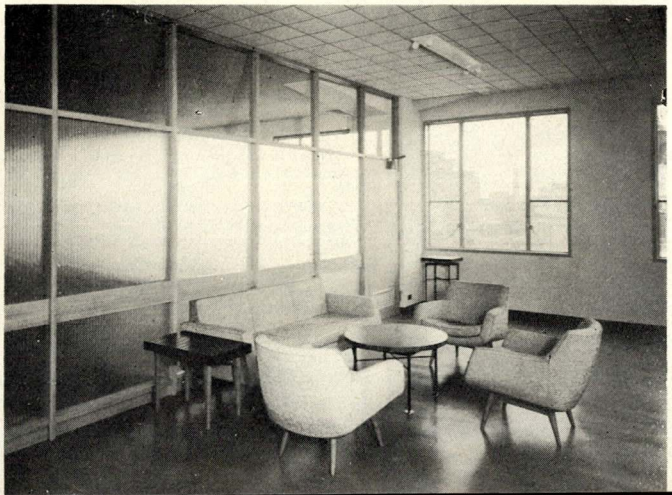
エンジンドアー装置，ドライブ・イン窓口，特殊二重窓ガラス，外装鉄部の銀色塗装等をはじめとし，極端に小さい空間としてまとめられた地下機械室，赤松建築事務所の意匠担当のビヤホール，全壁面ベニヤ羽目板貼の銀行使用部分等，数々の特長をもった建物であります。

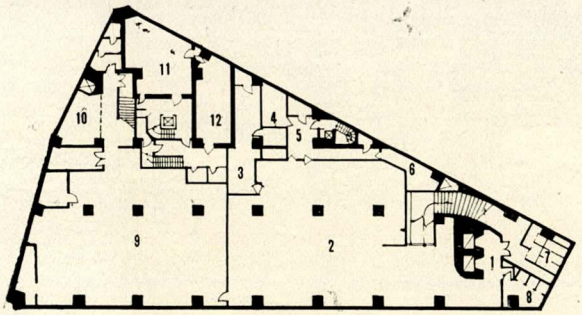
立地条件，建物の構造，短い工期等からみて難工事といわれていた仕事でありましたが，事故もなく予期どおり滞りなく工事を完成し得ましたことは，ひとえに関係各位の御理解，御援助の賜，従事者一同のひたすらなる尽力によるものと深く感謝しております次第であります。　　（大林組　溝口　政夫）

支店長室

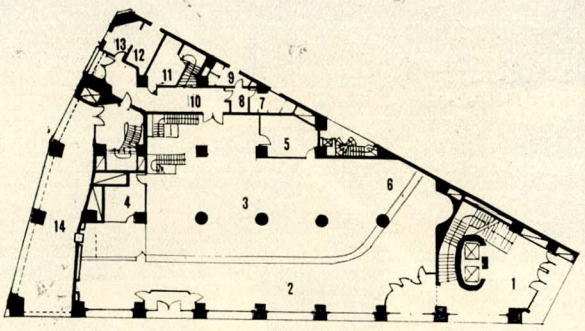


貸事務所の一部

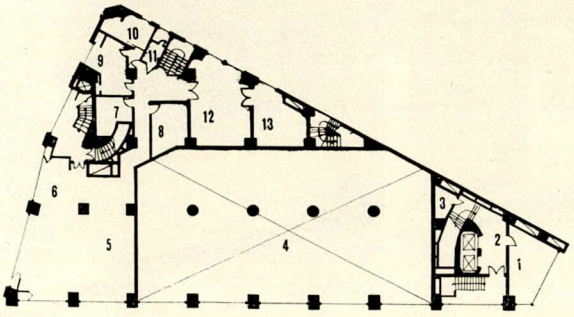




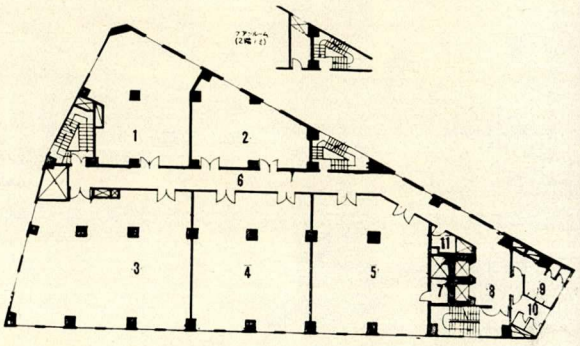
地　階　1. エレベータホール　2. ピヤホール　3. 料理室　4. 冷蔵庫　5. 作業室　6. 事務室　7. 宿直室　8. 便所　9. 冷暖房機械室　10. 電気室　11. 金庫室　12. 保護金庫室



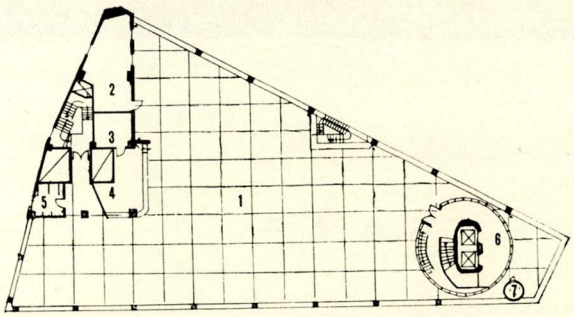
1　階　1. エレベータホール　2. 客溜　3. 営業室　4. 応接室　5. 支店長室　6. 出納室　7. 便所　8. 化粧室　9. 女子便所　10. 廊下　11. 電気室　12. 行員室　13. 受付　14. 通用口ならびにドライブ・イン入口



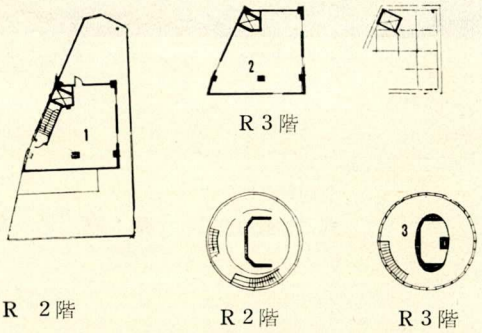
中 2 階　1. 貸事務室　2. エレベータホール　3. 物置　4. 吹抜　5. 会議室・大食堂　6. 食堂　7. 女子更衣室　8. 男子更衣室　9. 電話交換室　10. 休憩室　11. 便所　12. 予備室　13. 倉庫



2 ～ 6階　1. ～5. 貸事務室　6. 廊下　7. 物入　8. エレベータホール　9. 男子便所　10. 女子便所



屋 1 階　1. 屋上　2. 電気室　3. 冷蔵庫　4. ビール売場　5. 便所　6. エレベータホール　7. 排気ファン室



R 3階

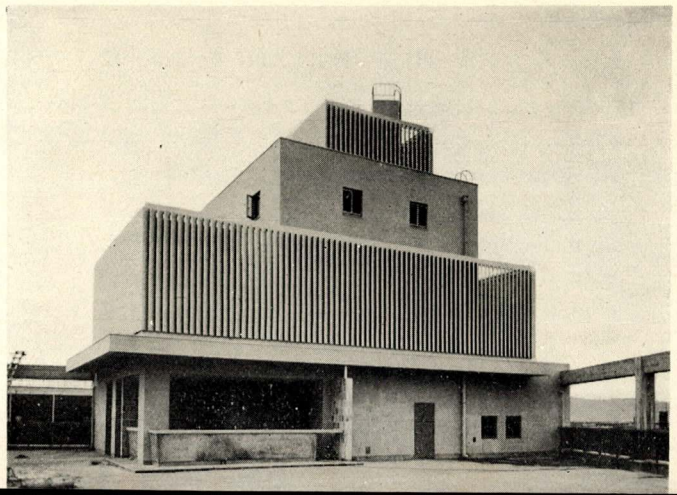
R 2階

R 2階

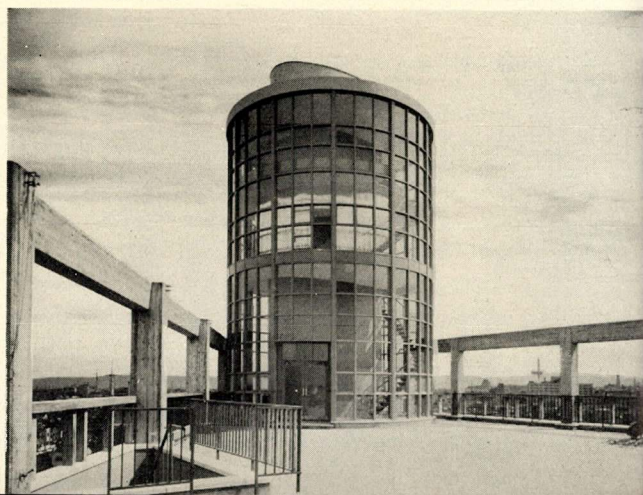
R 3階

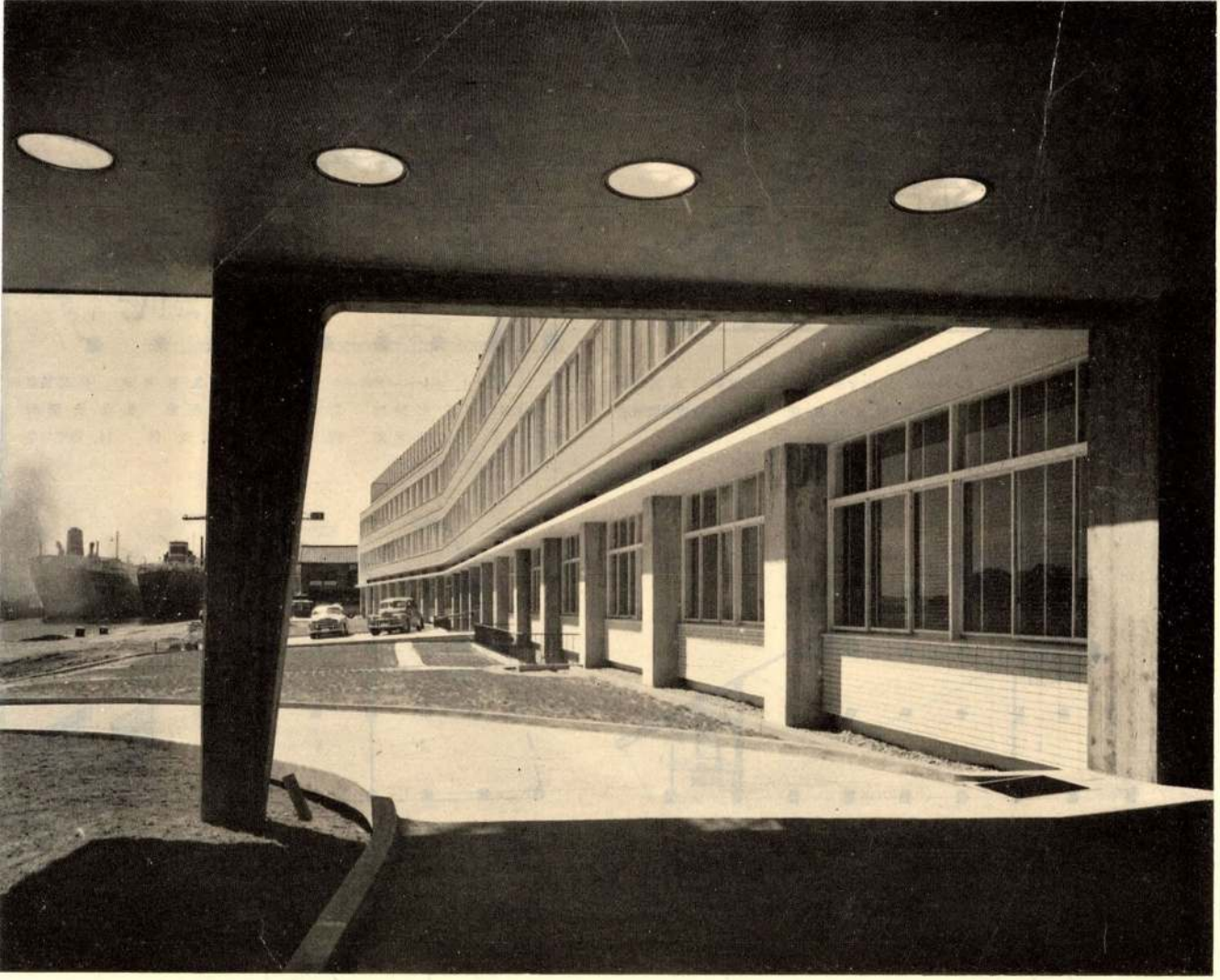
1. ダクトルーム　2. エアーワッシャ室　3. 展望室

屋上クリーングタワー



塔屋・展望室





車寄より望む

株式会社　播磨造船所相生工場綜合事務所

設計者のことば：

吉田　勇・山本　俊介

敷地は岩山を削いで埋立てた帯状の地形で，この建物は当初から横に長い形で計画されたが，着工後起った増築の要求は，エキスパンションジョイントを持つ延長160米という特異な形態を生む結果となった。機能的には右半分が管理部門，左が設計・研究部門と別れている。

外部は建物の長さを生かすとともに錆色の多い造船所を背景としていることから，色彩計画には特に慎重を期し，2・3階タイルには10B7/2を選んでスラブラインの白と対比させ，1階は柱(打放しコンクリート)の間をレモンイエロー系タイル5Y8/6とすることによって，高明高彩度の条件のなかで色相にコントラストを設定した。

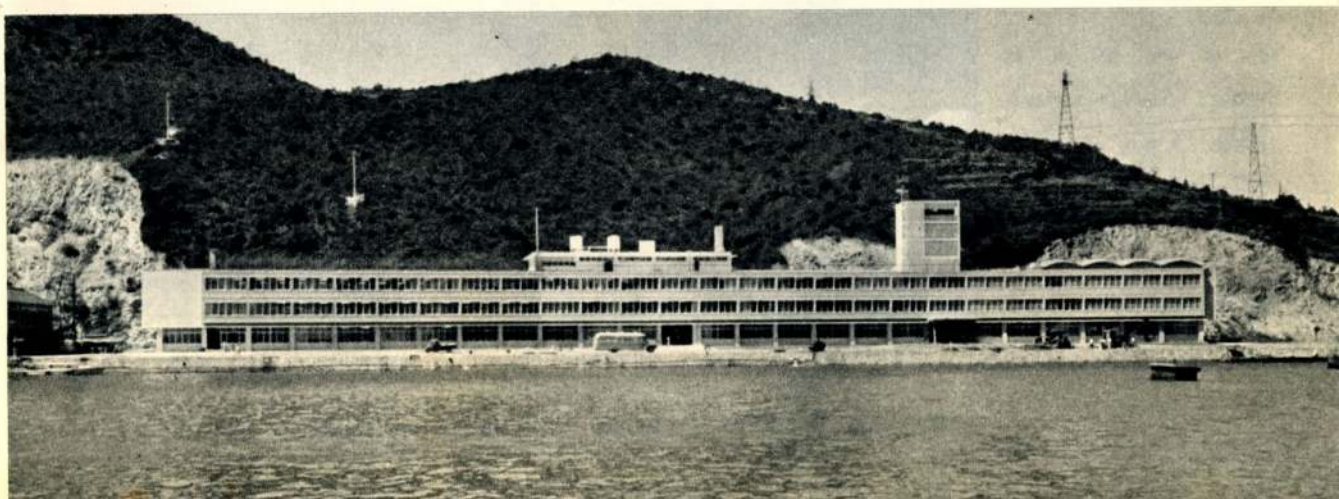
限られた予算で相当高度の内容が要求されたので，経済性には大いに意を用い，モデュールも現在の材料や生産過程からみてあまり無理のない3尺を採用し，耐震壁以外は乾式構造としたが，工期を短縮し比較的効果が上ったようである。



上：玄関ホール・階段
床　：アスタイル
側面壁：テラゾーブロック
正面壁：白ラワン繰型付板
クリヤラッカー仕上
天井：ホモトーン
クリヤラッカー仕上
階段踏面：コンクリートブロック
アスタイル貼

設計・施工　　清水建設株式会社

下：海よりみた正面全景





正　面　外　観　詳　細

1階柱：コンクリート打放し

1階壁：2丁掛タイル貼

2・3階壁：4cm角カラコンタイル貼

窓　　：スチールサッシュ

塔　屋：陶管ブロックにガラスはめ殺し

株式会社　播磨造船所相生工場綜合事務所



設計・施工　清水建設株式会社

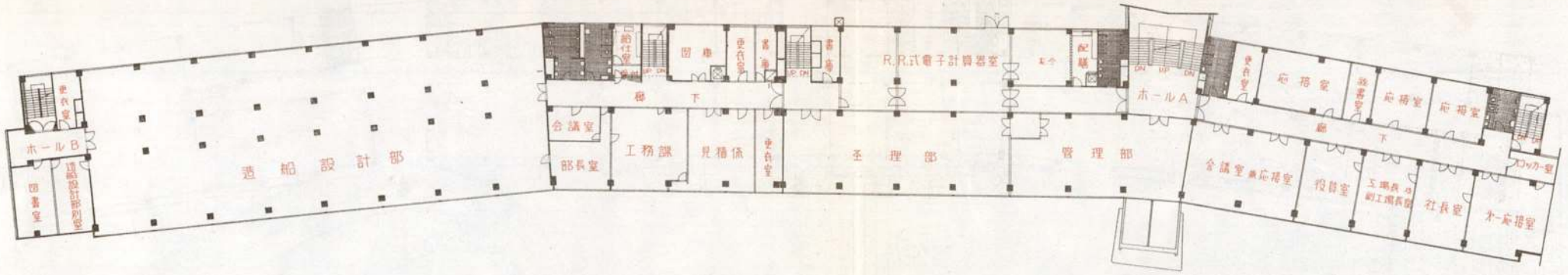
撮　影：恒成一訓



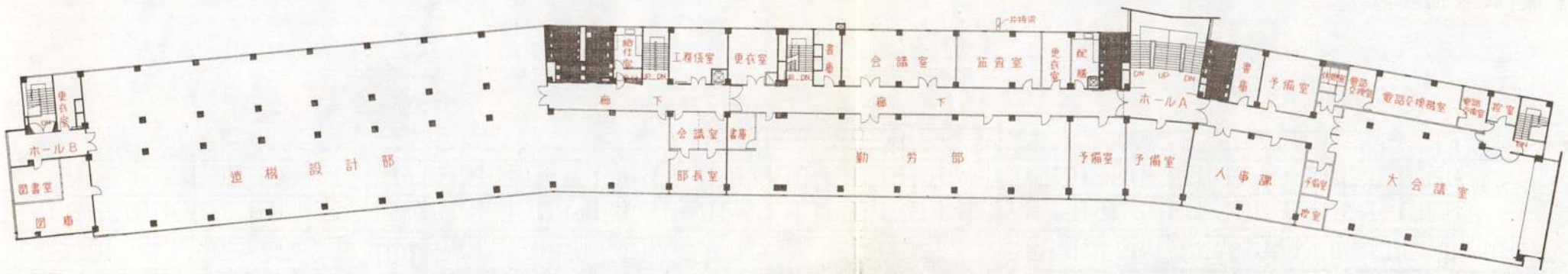
大会議室　床：アスタイル　柱型：蛭石モルタルスプレッドサテン仕上　天井：蛭石モルタルスプレッドサテン仕上

第一応接室　床：支那式緞通　壁：チーク合板艶消クリヤラッカー仕上(左側壁)および布張仕上(右側壁)
天井：吸音テックス張（中央）および白ラワン繰型付板クリヤラッカー仕上（右）

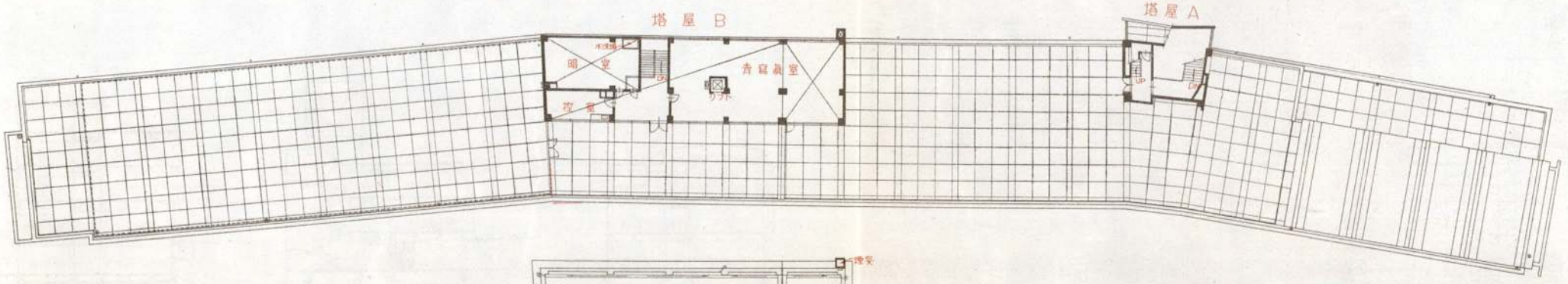




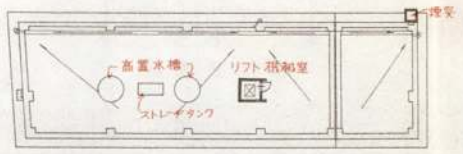
2 階 平 面 図



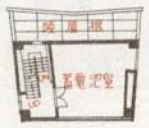
3 階 平 面 図



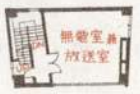
R 1 階 平 面 図



R 1 階



R 2 階



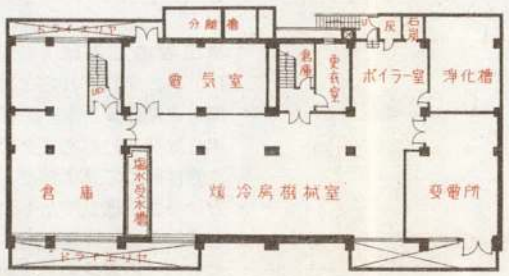
R 3 階



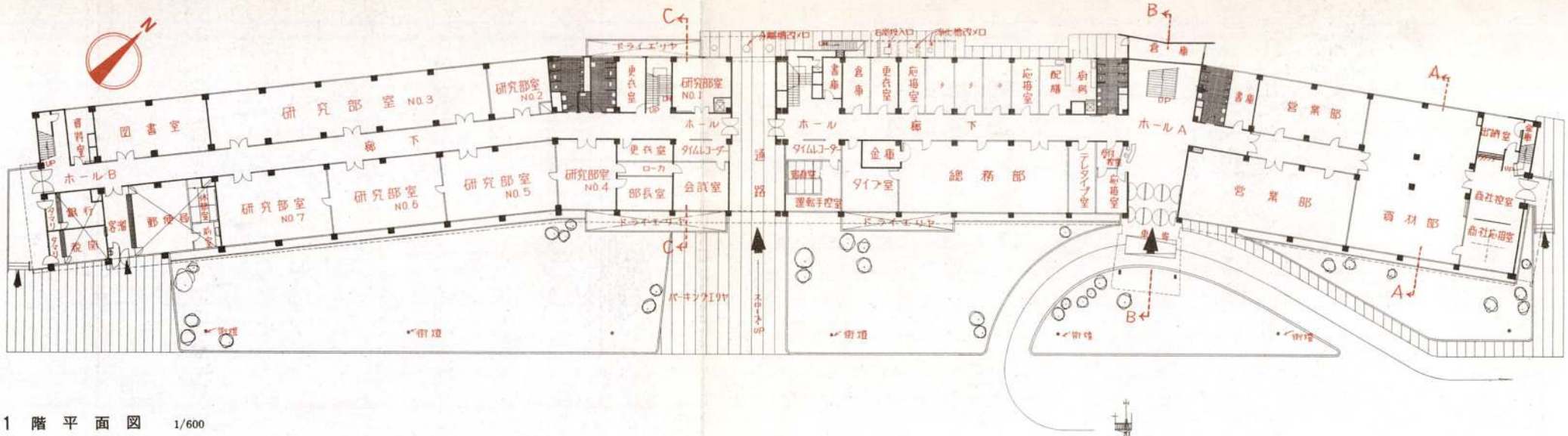
R 4 階

株式会社　播磨造船所相生工場綜合事務所

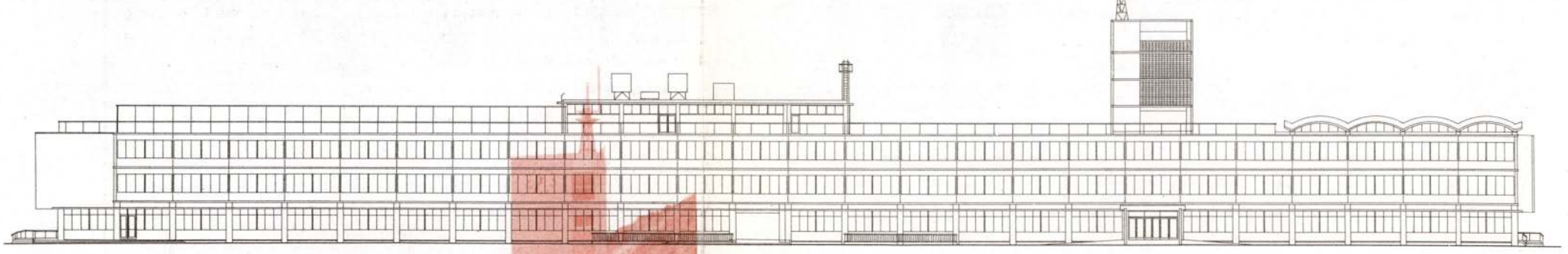
縮尺 1：600



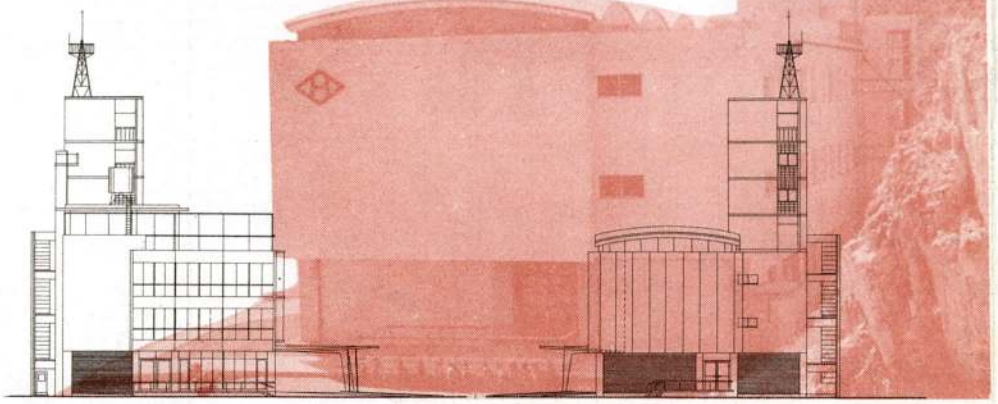
地　階



1 階 平 面 図 1/600

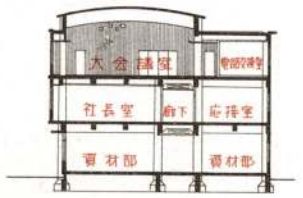


正 面 立 面 図 1/600

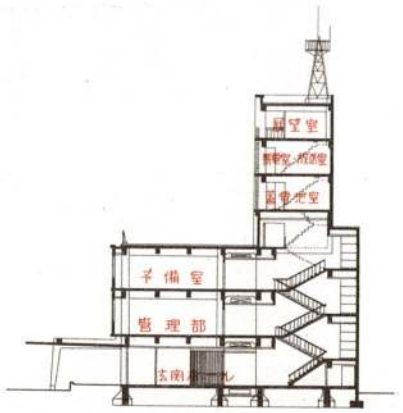


左 側 立 面 図 1/600

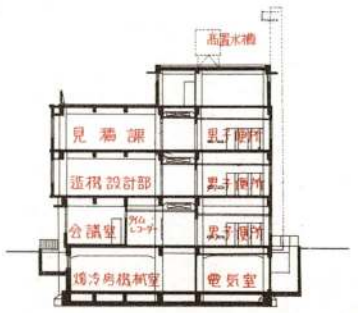
右 側 立 面 図 1/600



A－A 断 面 図



B－B 断 面 図



C－C 断 面 図 1/600

株式会社　播磨造船所相生工場綜合事務所

所在地	兵庫県相生市相生
工期	着工 昭和31年9月
	竣工 昭和32年8月
建築面積	884.00坪
延面積	2,943.40坪
構造	鉄筋コンクリート造
	地1階・地上3階・塔屋4階

設計施工　清水建設株式会社

施工者のことば：当工事は大別して一期と二期とに分れ，それぞれ逐次計画されたもので，従って工期も一期は5月末，二期は8月末とずれたが，地階部分は関連性があるため，一期を目標に施工した。地盤は極めて悪条件で，長手方向に一方は岩山，他方は海面を埋立てたもので，地下室根伐において最も苦労した。片側が海，しかも岸壁は捨石を積上げたもので，地盤の常水面は海面と同一で，他方が岩山であるため締切が難かしく，排水作業はポンプの台数を増すことにより切り抜けた。埋立部分はコンクリートパイル地形で，岩盤に達するまで打込んだ。シャーレン構造はXY両方向に曲面を持つちょうどドームを頭だけにしたような形で，仮枠が一寸面倒であったが，混凝土は打込を，梁下までとスラブ部分と二回にしたため，割合に狂いもなくでき上った。間仕切は乾式構造のため，仕上工期の僅少なのにもかかわらず早くでき，他の仕上も余り無理をせずに施工できた。仕上材料並びに工法では別段取立てたものもない。（金尾　寛）

SKETCH BOOK

設計要件

a. 敷　地　工業高等学校校内敷地
b. 建築面積　約２５０平方米
c. 規　模　所要室は自由とするが独立した建物とする。
d. 構　造　鉄筋コンクリート造平家建

審査会は昭和32年10月19日午後2時30分より，審査員，島田委員長，足立，池上，岩本，山根各委員および笹川委員（書面審査）および，浅田，乾小委員の出席を得て本会4階集会室において開催した。本年は当初よりの目標であった，北は北海道から，南は鹿児島までの全国の工高からの応募をみて，応募校25校，69点の応募作品が集った。審査方法については従来通りの荒選びを行い約四分の一適度の作品を残し，それより投票により，入選作品10点および准入選作品3点を選んだ。入選作品および准入選作品についての審査員各位からのご批評を要約して各作品の項に掲載した。

第３回
工高生デザインコンクール
入選作品

設計課題　学校図書館
主　催　日本建築協会

一　般　評

入選作は三つの傾向にわたっている。意欲的なもの。そのうち一つは部分の機能的変化・コントラストに重点をおくもの。もう一つはそれを捨てて単純な幾何学的集中を得ようとするもの。この二傾向のそれぞれ優れたものは選びえたとおもう。一方そうした方向――特に第一の傾向は，変化を求めて小課題のもつ空間的スケールを忘れやすい。デザインの力のある人ほどそうであって，浪漫的な動揺・劇的効果・多弁などに走りやすく，またその風潮に乗ぜられやすい。しかし，淡白に努力そのものを示したケレンのない作もたくさんある。それらのうち一見華々しくなくとも品位の高い素直な作は相当拾ったとおもう。この三つの傾向はそれぞれ長所があり，どれが本当というわけにはいかない。またこのコンクールはそういう一派の宣伝や裁断を目的としない。その点公平な結果を得たとおもう。

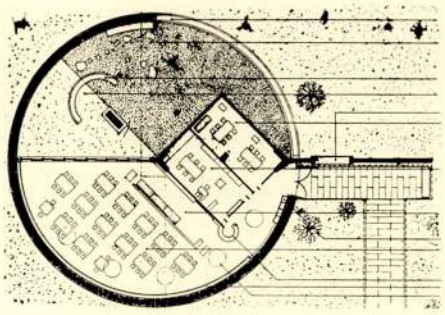
なお，所要室の各条件は応募校の状況により限定しないという方針だったので，各案の条件はあまり無理のない限り一応是認している。ほかには，あった方がよい附属室を抹殺しても幾何学的緊張の高いものを得ようとする態度が見られたが，明日にすぐれたものが予想される限り，過渡的段階としてそれを認めている。その方が募集要旨に即しているとおもったから。

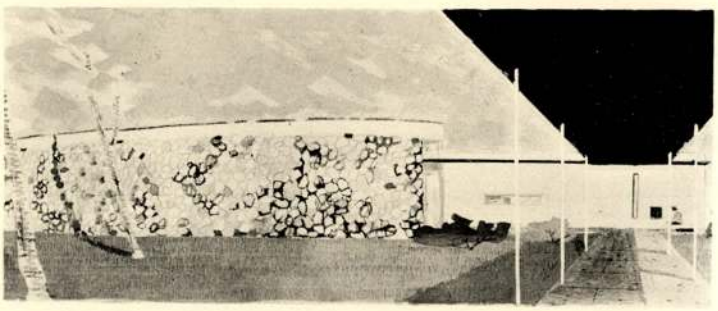
今回は応募も入選も相当各地方にひろがっている。このコンクールが全国的恒例として盛大になってきたことはよろこびに堪えない。今後一層の発展を望みたい。

以下に，入選作10点および准入選作3点を紹介し（順不同），それぞれの短評を附記します。

（島田　記）

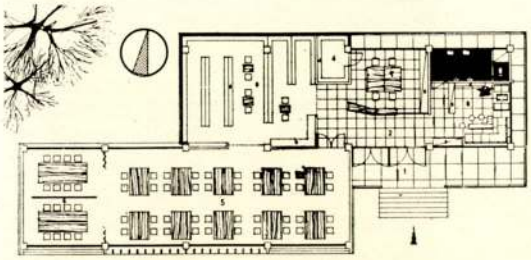
審　査　委　員　会

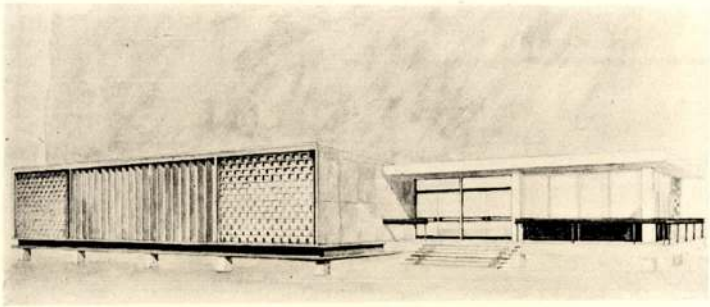




円形プランに単純な室構成と軸を貫いて平面を緊張させた，最も意欲的な作である。円弧を受持つ溝・入口の狭さ・はるか孤立する建物で便所がない・などの欠点もあり，また平面図柄の幾何学的構成が室空間のそれと結ばないで独走しているところは何よりも惜しい。そういう欠点にかかわらず，かっての機能的コントラストから抜け出そうとする意欲は大いに買わねばならぬ。図面技術も卓抜である。小課題の性質上，共同設計を予想していなかったが，それらの点で最も最高点を得た作の一つである。

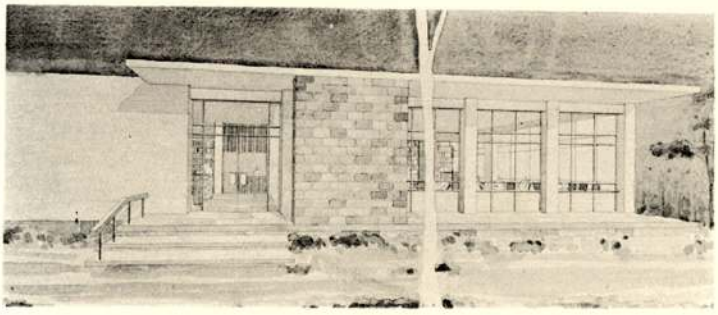
早稲田大学工高　4年　伊勢直昭　4年　千野敏明　3年　清水康造　2年　名古屋実

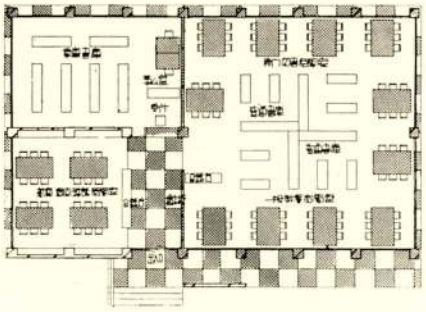




前記の伊勢君らの案と逆に，平面は方形室の組合せの微妙な変化を追ったもので，各室の出会う部分の空間処理が最もすぐれている。それでも閲覧室が奥に長すぎて不便だし，変化に執着して建物のスケールを忘れたようだ。このような小規模の建物に部分的機能の変化を盛りすぎるのは疑問で，そうした落選作が多かったが，そのやり方の中では最もよい作で，比例も整っていた。

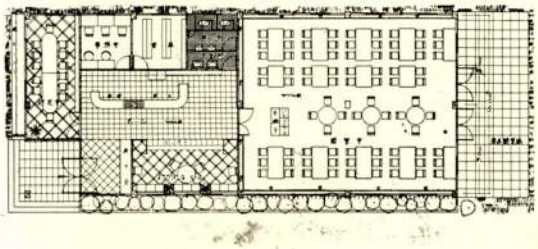
大阪市立第二工芸高　　4年　　井上　晴雄

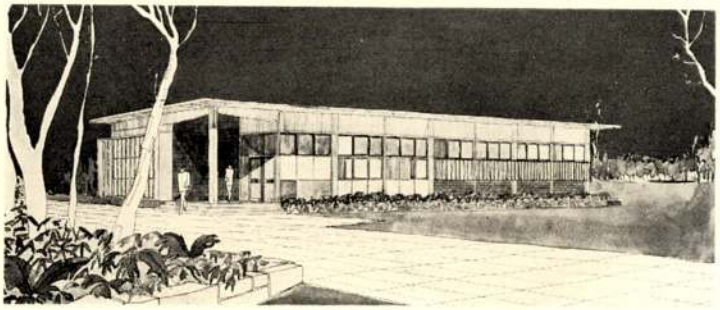




上の二例に較べ，平面はさらりとしてまとまりよく，最も素直な作である。図面技術はやや劣るが，その品格のある謙譲な気風が買われた。コンクールにありがちなシアトリカルな押しつけがないのは気持がよい。

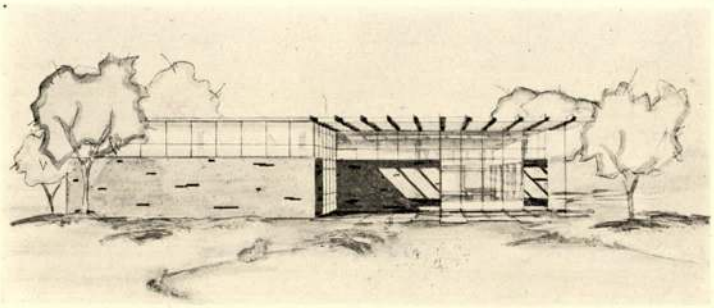
大阪市立西野田工高　　3年　　谷口　修

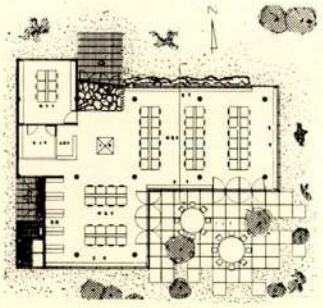




これも平面は素直にまとまっている。しかし詳細の描法は奔放，むしろ筆に任せた匠気が強すぎる。意欲的な点は伊勢君らの案に似ているが，その方ではわざと描法を押えて一層エネルギーを高めているのに反し，これは意欲が流れすぎる危険がある。うまいだけに，その匠気を押える力を望みたい。

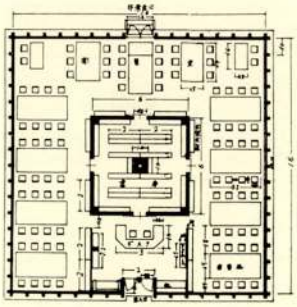
大阪市立都島工高　　3年　　北島　正行

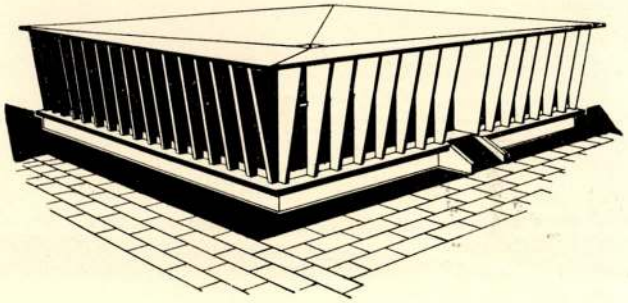




これも，谷口君の案に似て素直な平面で，淡白なおとなしい作である。はじめ目立たなかったが，票を重ねるうち進出して入選作となった。芝居じみたことや，知っていることをみな喋ろうとすることをしないでも，地味に真面目に取組んだものは，いずれ認められるものだ。しかしよく見ると，厚い腰壁が大部分を占めた外壁が片持梁の構造の下にあるなど，ただおとなしいだけでなく同時に疑問でもある。

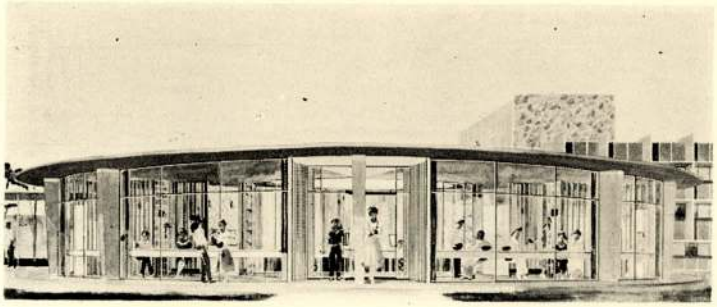
名古屋市立工芸高　　3年　　中浜　　章





書庫をコアにおいた野心的プランで，立面も整頓されている。しかしこの平面はやや概念的で，たとえば閲覧室の出入の開口などもう少し突込んで考えてほしい。

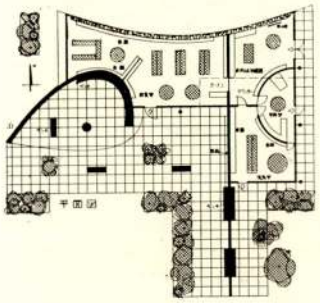
大阪府立布施工高　　3年　　玉正　照雄

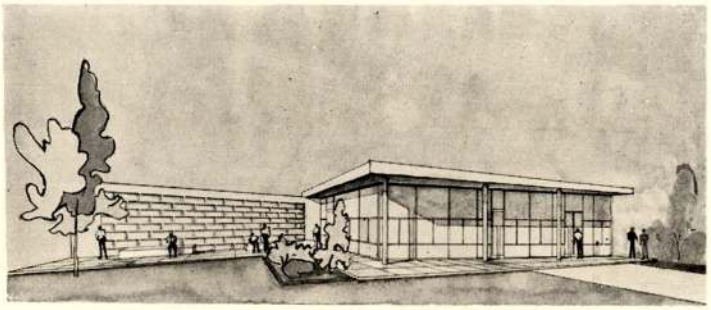


これも前者も，ともにその野心的なところが買われたようだ。ともに広島の児童図書館からもう一つ抜け出ようとしている。前者がやや概念的にコアを立てたのに反し，この書庫の扱いは面白く変っている。しかし屋根の架け方はともかく，光庭側の小室の扱いは苦しい。透視図は別人のようで，その面白さが出ず，もう少し色も形も整理してほしい。



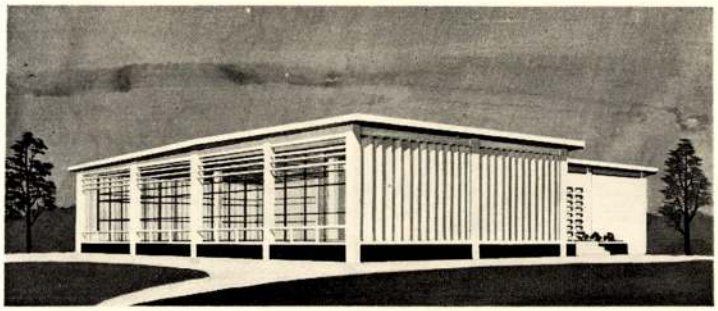
京都市立伏見高　　3年　　吉田　重昭

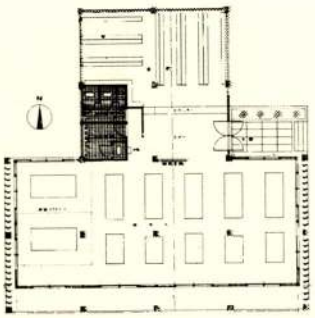




意欲的といえば最も意欲的。入選の境目にあったがその点で浮び上った。しかし小室をここまで曲げるのは，北島君案の評のところで述べたように，匠気走るのをよしとする危険に陥る。透視図で入口側のおとなしい方を選んだのは，どういうわけか，その点うまく行った。

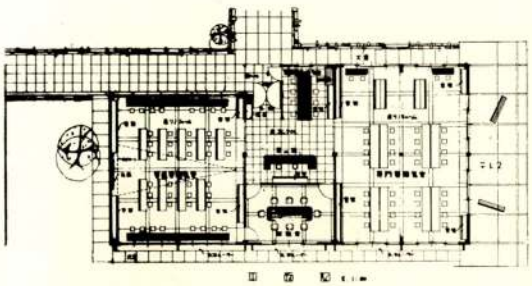
岡山県立岡山工高　　3年　　片山　鉄人

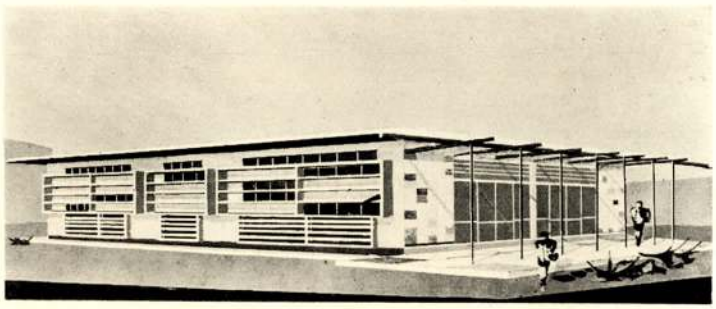




平面は奇のないおとなしいもの。実際建てばこれで結構なのだが，平面の図形上の比例は少しダルな感じがある。透視図も固くなって叮嚀に書いてあるが，やはりその感がある。2年生だそうで，そういうところは今後十分よくなるだろう。

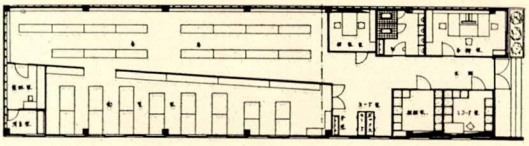
名古屋市立工芸高　　2年　　早瀬　竜三

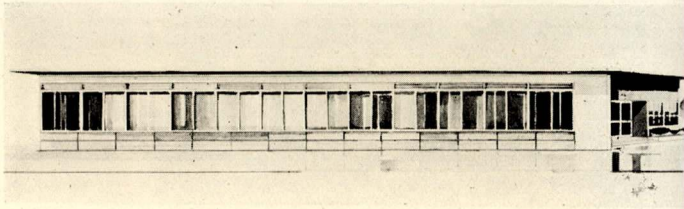




図面としては書き方が複雑で内容の整理が不十分。窓のデザインももっと整理してほしかった。やや散文的だが，大局を見ると素直な計画で無理がない。

岡山県立津山工高　　3年　　山崎　　巌



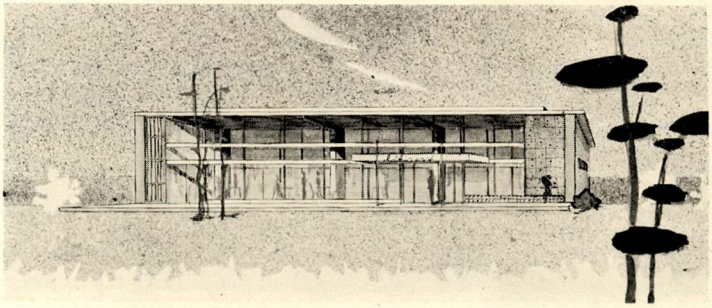


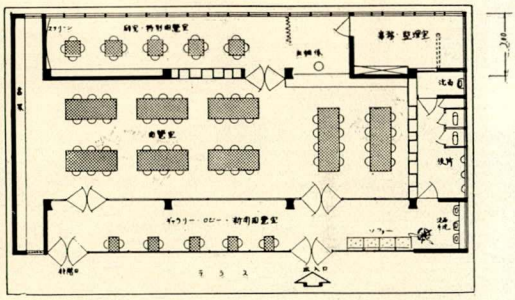
准入選3点

上記10点の入選作のほか，伊東君らの案，つぎの野辺君の案は最後まで残った良い作だが，ともに部屋が長細く使いにくく，平面の整理をもう一押ししてほしかった。

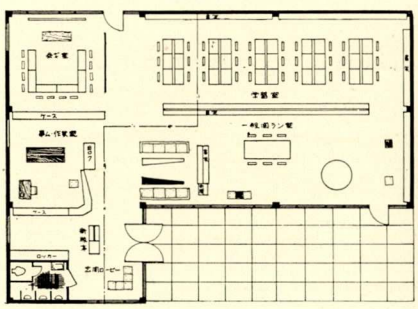
また下記の阿井君のは平面も立面もしっかりして，入選作に劣らぬものであつた。しかしその透視図は小さくて済む描き方で，別紙に大きくしてかえって間伸びがし，何も規定違反をすることはなかった。惜しいことである。

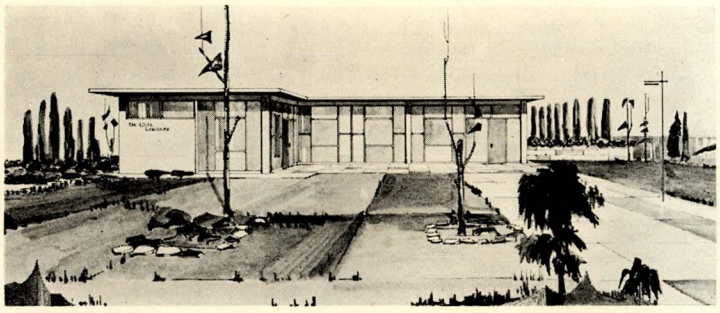
京都市立伏見高　3年　伊東　満・村岸修嗣郎





徳島県立徳島工高　3年　野辺　満雄





神奈川県立神奈川工高　3年　阿井　和男



西　面　外　観

関　西　大　学　教　育　会　館

設計施工　株式会社　大　林　組

設計担当　吉　岡　吉　雄

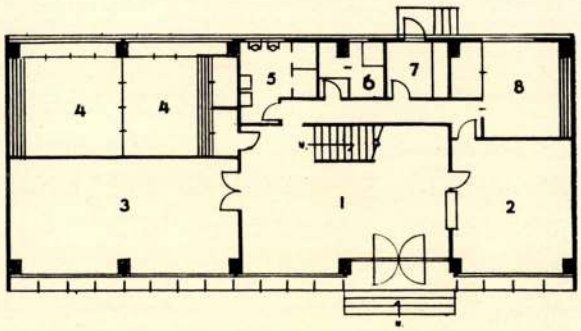
右　田　　広

現場担当　宝　来　一　郎

設計者のことば

旧千里山花壇の丘陵地に立てられ，眺望のよい環境に恵まれた土地である。大学の教育後援会の熱心なご推進によって実現され，完成後大学に寄贈された建物です。後援会の会合だけに限らず，広く在学生の集会にも利用され，または地方よりの受験生，および父兄のための宿泊設備をも準備されています。

平面はこれらの希望に基いて纒めたもので，100坪の面積を限られた中で決して特徴のある平面ではありませんが，一応使用者の要求を満すことが出来たと思っています。ルーバーはプレキャストコンクリートで調光のために取付けましたが，室内の雰囲気を柔げるのに効果的でした。工費の関係で設備が十分でなかったのが残念でした。



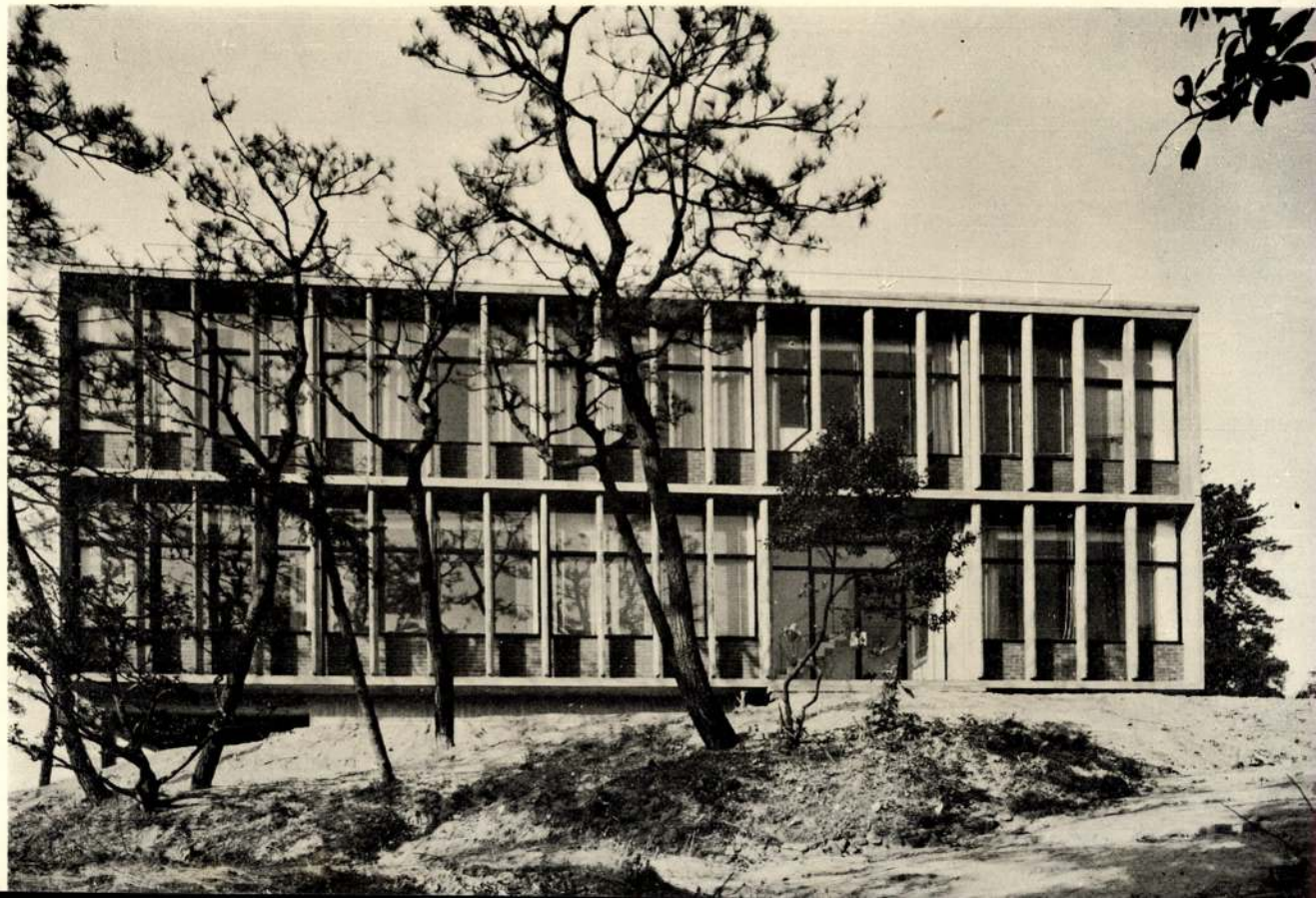
1 階

1. ロビー　2. 事務室　3. 小会議室
4. 和　室　5. 便　所　6. 浴　室
7. 湯沸室　8. 宿直室

建築位置	吹田市千里山花壇町	
建築面積	1 階	164.05 平方米
	2 階	167.25 〃
	延床面積	331.30 〃
構　造	鉄筋コンクリート造	
竣　工	昭和31年9月	

南面外観

外　装	コンクリート打放シ　エバータイト吹付
腰	焼過煉瓦積　スチールサッシュ黒色オイルペンキ塗
ルーバー	プレキャストコンクリート
屋　根	防水モルタル



猫　に　鈴　を　！

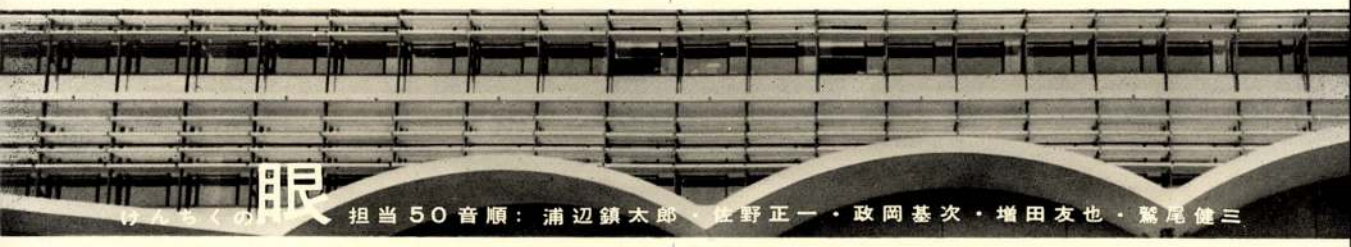
日本では，技術者が少く事務系職員が多すぎるというので，理科系の学校を大々的にふやすことになったらしい。ところが，その中に「建築」の名は見えない。原子核工学，電子工学，等々々。しかし，我々の周囲にある「我々の生活の場」では，昔のままのボロ家に電気洗濯機やテレビを持ちこみ，人間はそのスキマで生活している。これでよいはずはない。

我々は，「建築生産」とか何とかいう言葉を考え出した。けれども，「建築」は，他の人々から少しも一人前の産業とは見られていないらしい。問題は，周知の通り「社会が建築を見る眼」を改善することにある。この大事業を誰がやりとげるのだろうか。「建築」の中で，ワイワイ争つてばかりいてもイッコウはかどらない。みんな仲良く，「建築を見る眼」の教育に力をあわせようではないか。　(WK)

後進的な建築生産方式

「機械を使えば高くつく，手でやった方が安い」とは施工業者からよく聞く言葉である。しかも一流業者が現実の姿としてそれを必ずしも否定しない。土木業界では既にかかる時代おくれの事を信じる人はおらないが，建築業界では確心と実績をもって機械化の有利を叫ぶ処まで行っておらない現状なのであろうか？　これでは一口に土建界といっても土の方が建の方より先進的ということになる。

この機械化問題を更に追及すれば本質論ではなくて一つの操作のやり方に帰してしまう。下請制度とその単価，機械の稼動率，償却費の取り方，保全と管理法等の要素をどのような操作にするかで有利，不利が決定する。誠にもって初期資本主義社会が経験したであろうことを今日までのばしたままなのだ。近代工場の生産技師たちには見せられないのが建築現場という「建築生産工場」の姿である。いつの日にそのおくれが取りもどせるだろうか？　(US)



エ　レ　メ　ン　ト

建築物は注文によってはじめて生産にかかるもので，他の商品のように作りだめすることはできない。ここまでは船と似ている。建物は土地の上に建つ。建てる建物は同一であっても，土地は一つ一つ条件が異なる。このあたりから船と違ってくる。

全く同じものが二つとない以上，建築を多量生産の方式で生産することはできないであろうが，建築を形作っている個々のエレメントは，それが必ずしも困難ではない。建築というものがそれらの大きい数量を要求するものであるだけに，一層それが有利にできるはずである。このようにして可能なエレメントから整理統一され，さらにそれらが互に合体できるものはユニットとして拡大発展して生産されるならば，価格の引き下げ，精度の向上は期して待つべきものがあろう。　(MM)

技術というもの

技術は毎日毎日進歩している。ネジ一本の製作についての技術もあれば，あらゆる組立の技術を綜合してのアッセブリングの技術もある。すべて前を向いて進歩している。大きな技術は，その下部機構の技術の進歩の上にはじめてなり立つ。したがって大きな技術とはしばしば下部機構の技術を，いかに用立てるかの判断の場になりうるわけだ。下部機構に同じものを使っても，貧困な判断と卓越した判断とでは雲泥の違いとなるからだ。

しかし判断というのは一体なにを根拠にして，いずれを貧困といい，いずれを卓越といい得るかとなると，話はすこぶるアイマイになる。個々の技術が進歩すればするほど，アッセブリングのための判断は錯綜し，良否の判断はつき難くなる。いわんや良否ということ自体が，価値という問題にからんで，正体の知れぬものであるかもしれない。

かくして具体的であるべき技術の世界は，空漠とした抽象の世界へまぎれこんでしまう。私はまた振り出しに戻つて，技術とは一体何か，これから考え直さざるを得ない。　(SS)

建築儀礼について —民俗学の立場から—

林　宏

民俗学の立場から建築儀礼を概説するに当つて，まず集団の協力から始めて工事の順を逐つて，とくに信仰的な面から眺めていくこととしよう。紙数の関係上屋根葺についての記述は割愛する。

群の協力——一体普請あるいは屋根葺替を通じて見られる著しい現象は村人の協力である。僻遠の地では村全体の行事とさえ考えられて，各戸から2人以上参加する場合もある。たとえば備中上刑部村では家造りの手伝いには，各戸2人づつ出，京都上賀茂でも建前の折には男は勿論女も賄い方として出動し，当夜の祝膳は百人分も用意しなければならぬ。越前五箇村では毎年選び出される頭から村中に通知があり，無断で欠席すればハチブになつた。親類縁者の協力はいうまでもない。親類・村人は労力を提供するのみならず，見舞または祝として下地縄，用材，萱，酒，米，豆腐などを贈る。親類が主人と同じ立場で組を頼み，また大工を招く所もある（飛騨久々野村）。建築，葺替が村人の手で自給的に行われていた頃ほど村人の協力がより多く必要だつたことはいうまでもないが，工事が大工・左官など専業者の手に委ねられるようになつた今日でさえこうした協力がやや形式的に堕しながらも存続していることは，それが労力・資材の援助に留まらず，その蔭に目には見えない群の精神的な呪力を新しい家に封じ込めて永久的な繁栄を祈念する気持のあつたことは，モノモライその他の病気に隣近所7軒分の芋などを貰つて食べるとか，千人針に出征者の安全を祈るなどの習俗と相通ずるものがある。

地祭——柱石運び，用材の山出し，萱集めなどに続いて地鎮祭が行われる。地の神に土地をなぶり，あるいは占住する許しを乞う儀式である。大隅高山地方では，猟師が山中で泊る時は柴で入用の場所を打廻り山神から借受ける。同じく百引村では野宿の折人数に応じて必要な地に柴を挿して山神から借用する。これをそれぞれシバウチ，シバサシといい，柴には大体榊を用いるが，地鎮祭の原型と見られよう。巫女とか神主の見立てた吉日を選んで用地に塩を撒き御幣を立て，また5本の幣を中央と四隅に埋める所もある（下総海上郡）。大和一円ではコンジンサンの祟を避けるため入念な心構えが見られ，三輪明神のお札が大きな役割をつとめる。山城では方除の神として知られる赤山さんや城南宮のお札が祈請されて，四隅に立てた笹竹の全部，または1本に，また中央に立てた竹に竹皮で包んで取付けられる。これによつて四至を固める気持は後述の棟上の折のスミ餅やスマッコ粥にも見られる。日取は年内の吉日とされるが，京都や大和盆地では必らず年越（節分）の日に行われ，竹に張廻したシメ縄に柊の葉をつける所もある。ミコ，神主などに来てもらう家もあるが，以前は自分達だけで済ませる所が多かつた。大和十津川では家を建てる前に山伏を呼んで屋敷の真中に神を祀るが，これは祀るというよりは封じ込める感じが強く幣帛もフシの木を使い家はこの上に建てて全くの祀り流しである。そのためフシの木は薪には用いないという。

地搗き——東京の所謂ヨイトマケ，一般にはヂツキ，ドツキ，ドウツキ，イシバカチ，イシカチ，イシツキ，イシフセ，シンヤウチなどと呼ばれる。大黒柱の礎石から始めてイヌイの柱で搗納める場合が多いが，戌の柱に始まる所（摂津歌垣村）もあれば吉野郡天川村塩野のように「ここは乾のすまの石，祝うてたもれ皆の衆」と唄つて乾に始まり「ここは乾のすまの石，搗いて納めて末繁昌」と唄つて乾で納める例も見られる。地搗きは絶えず酒が出て終始賑かに目出度く歌い囃しながら行われ，人数の多いことを誇とし，地搗き棒の根元を持つ男子（京都北郊木野ではネドリ，博多地方ではシンヤモチ）は別として，綱の曳子は女が多かつた。力の足りぬ女子を力づけ拍子を合わせるためにも歌が必要だつた。地搗き棒はそ

の形から，タコと呼ぶ所が多いが，ベカ（阿波），シュモク（飛騨丹生川），テトギ（同久々野），ドウツキ（京上賀茂）などとも呼んでいる。3，4本の把手をつけあるいは櫓を組んで綱をつけ多人数で曳いたりする。外南部では千本搗きと呼び，京都修学院でもセンボツキと称しているのも多数の力を併せた名前であろう。この名称は祭の御供搗きにも用いられる（大和大安寺）。地搗き棒は所によつては苧や鋸屑で飾られ（飛騨白川），あるいは御幣が付けられる（越後南魚沼郡石打）。これだけでもこの棒の神聖さを十分立証するが，搗始めや搗終りに酒を供え，また白川郷では最後に大黒柱の位置に据えて酒や幣を上げてこれを囲んで酒盛する。用済み後も社の森に置いて来るといい，伊勢飯南郡では乾の隅に納めるという。神の依代としての此の棒の地位が窺われる。

手斧始——本式の着工前に吉日を選んで大工にチョンナハジメ，チョンノハジメ，チョウナダテ（丹生川），ツウノダテ（甑島），ティンダテ（沖縄）をして貰う。形式的に大事な柱を2，3度はつるとか，墨を打つだけの場合が多い。壱岐ではこの行事をコヤイリと呼んでいる。一体大工仕事には何処でも小屋を掛けるにしても，古代にあつては単なる仮泊のためだけではなくて敬虔な物忌があつたものと考えられる。今日でも棟梁がとくに重んぜられるのは，以前職人を使わなかつた時代にもこの物忌に代表者が置かれていた名残と思われ，神祭のそれと共通している。

建前・棟上——タテマエは本来柱立の作業をいうのであるが，今はムネアゲと同じに考えている地方が多く，ともに普請における最も重要な作業である。この際棟梁の占める地位は至高のもので，とくに重要な部分の組立以外は直接手を下さず，二番棟梁に組立技術の一切を任せて自らは仕事の手順や進捗状態の監督に当る場合が多い。棟上にはさまざまな儀式や餅撒，酒宴などの信仰的行事が付随している。棟上祭は天井の梁に仮に渡した板敷の上で棟梁・手伝棟梁だけで行われる場合が多い。京阪神では白木の角材に日の丸の扇子，御幣，苧を飾り，このゴヘイを棟梁，施主，手伝棟梁，左官の分まで作つて棟に凭せ祀る。円型に組合わせた扇子の真中にオタヤン（おかめ）の面をつけるのは，昔木曽川の架橋工事の折余り橋が流されるので棟梁が妻を人柱に立て，代りにお前をお多福にして祀つてやるといつたことから始まるともいう（京都一乗寺）。この他，神酒，洗米，塩，尾頭付焼物などが供えられ，また棟梁の曲尺，墨壺，かけやなども供えられる。槌を飾るのは地を固め，福を振出すためという（大和二階堂）。丹波知井でも扇子の他に，苧をつけた槌を大工が棟に上げ槌で三度打つ真似をしてからツチノモチを撒く。棟上の折，屋根の葺上りの際と同様に餅またはシトギ（粢）を撒く風は全国的に見られる。この餅は拾つて食べると達者になるとて我がちに争奪するのが村人達の大きな楽しみともなつている。餅撒きは棟上に祀つた神と共同飲食する点に重点が置かれたようで，撒くという仕方にも分配の気持が強調され，拾う側でも縁起にあやかる気持が強い。撒くだけではなく親類近所に配つて歩く所も少くないが，その趣旨は同一である。撒き方には種々の作法が見られるが，とくに四隅を重んずる点に関心が惹かれる。薩摩出水郡大川内では365箇の餅と銭の包を撒くが最初に大工が四隅に向つて投げるのをスミモチ，またはカドモチという。五島でも四隅からとくに大きいスミモチを撒く。三河北設楽郡でも四隅に向つて投げるが，四方のコンジンに供えるといい，棟梁自ら撒くことになつている。和泉南部でもテンノモチとてまず天に向つて投上げ，ついで小餅を撒いている間に西北東南の順にスミノモチを四つ投げる。その他越後岩船郡，遠州小笠郡，播磨宍粟郡，伊予越智郡などでもスミモチ，スマモチを投げる風がある。またこの日の餅に限つて粢を用いる所がある。青森県五戸地方ではグシ（棟）アゲの済んだ日に米と粟の生粉でやや長めの丸いグシシトギを作り，これを桝に入れて酒とともに持つて上つて棟の上に飾り，男だけ上で飲食し下に下げてはならぬというが，これが棟上餅の古い形かもしれない。またこの粢餅を藁づとに入れて小銭とともに「しとぎ万年」と唱えて撒く所もある。信州北部ではこの際に鼻緒の切れた草履を餅とともに投げ，それを頭痛の時や赤児の夜泣の折に枕元に置けば癒るという。肥後宇土町で棟上の際に，主人が棟木の上から用意の小餅を四方に投げて拾つて貰うことをヒトギというのもシトギの訛らしく，豊後北海部郡でも，棟上祭のことをヒトギナリと呼んでいる。

先の例にもあるように，棟上に餅と同時に穴あき銭を撒く地方も可成り多い。播磨宍粟郡では，これをジョウゼニといい，これに紙縒を結んだものを10箇程作つて大工が最初にデイの方に投げ後は他の人がナンド・ダイドコなどへ投げる。丹波知井村でも餅とともに銭30文を紙に包んで撒く。周防大島ではこの一文銭は拾つておいて死んだ時，六文銭の中に入れておくと極楽へいけるという。北信ではこの銭を拾つて炉の自在鉤に吊しておくと火除の呪になるともいう。

変つた行事を紹介すれば，越後中蒲原郡鷲巻では建前の餅撒の後でカベツチワカイシュ（壁土若衆）とて15人位の若者がカベツチアナという深さ2尺，8疊敷位の穴を掘り，棟梁や親類の者などを胴上げしてここに抛り込む。投げ込まれた人は外にいる人々に樽で泥水を掛け，皆が泥だらけになる。これが終つてから，タテブルマイ（棟上の宴）をやるという。

また和泉南部では，棟上の日に二親の揃つた男の子を2人頼んで，亥の子の日に地面を叩いて廻るドデンボと同じ藁の束を持つて棟木に上らせ，さし向いになつてそ

の木を打たせるが，この時の唱え詞に「ガンドエー，ガンドエー，ナナクラノガンドヨー」という文句がある。東西中と3度やり了えて乾の方に投げる。この行事をガンドヨビといつているが，ガンドヨビというのは恐らく蟹殿呼びと考えられ，沖縄宜野湾で新築祝の折に若者が「この殿内や四の棟柱八つの金柱……遊びタナゲエビを遊ばし躍るタナゲエビを躍らし鯨鰐鰭徳（福）は内に鬼は外に」と唱えながら，家のめぐりを7回廻る行事の中の海老と考え合わされる。エビもカニも古来目出度い意味を持つものと考えられる。沖縄や奄美では出産後の川下り（産婦を川や海へ連れて行つて沐みさせること）の日に産児を寝させた上に海岸で捕つた小蟹を数匹這わせる。蟹を産室に這わせる習俗は古くは鵜草葺不合尊の誕生譚にも見られることであり，また初生児の胎便をカニババ，カニクソなどと呼ぶ風は全国的に見られる。新築の際にも出産の際にも同じエビ，カニがでてくるのは，つぎのサンバワラの行事と思い合わせて寔に興味深い。越前最北部では瓦を上げ終えた日の夕方棟梁を中心に親類近所を招いて土間で祝宴を張ることをサンバワラと呼んでいるが，越中砺波地方南部では，草屋根の合掌組ができ上ると葺く前に棟の中央に穂先を括つた3把の藁を載せ，これをサンバワラと呼び屋根の神様だと説く。また同西北部山地では棟木の中央と両端の三カ所に10把以上もの藁の穂先を括つたものを跨がせてこれを引上げるのに，ウシ(横梁)の引上げに用いた太い縄を使つて，いかにも重そうに掛声を掛ける。これも同じくサンバワラと呼んでいるが，一体サンバワラというのはニョウ（稲・藁積）の蔽い藁（ワラガイ）の天辺に被せる2，3把の穂先を縛つた藁束の称であつて，夙に民俗学でサの神すなわちサンバイ様，田の神の祭の場として注目され，さらにはニョウの語源であるミブと産室の関係にまでおよぶ訳であるが，ここでは割愛する。

建前に当つて魔除のために棟の上に弓矢を飾る風も相当汎く行われ，これをマオドシと呼ぶ所もある。矢は鬼門に向けて邪霊の侵入を防ぐのが一般であるが，筑後八女郡では乾の方に矢を向けその先に扇をつける。壱岐でもタチマエの時も葺替の時も竹の弓と桑の小枝を棟の上に立て両親の揃つた者が作つた粢団子を祀る。但馬でも棟の両端に弓と矢を挿しておくが，後には次第に装飾的となつて棟梁が持帰る所もある。各地でトリオドシと呼ばれる小さな御幣も同じ目的からしい。東北地方でヤダテというのは板を削つて作つた鏑矢で，男女の帯や髪の毛，化粧品の包も添える。棟上に髪や髪の道具を供えるのは他にも例がある。常陸土浦などでは，昔ある大工がお宮の建立を請負つた時，過つて見付の柱を3寸程短く切つて心配していると，娘が袴をはかせたらと教えた。こうして竣工したが，娘の口から失敗の洩れるのを恨れて殺してしまい，それで髪の道具を供えるのだと伝え，青森県五戸地方にも似たような伝承が聞かれる。この習俗には，舟大工が新造船に女房の髪の毛を舟玉様として祀り込むのと同じ動機が看取できる。魔除と並んで火伏せも重大な関心事である。大和磯城郡や宇陀郡では建前の際に縄12たぐり，藁1把に水木の葉や枝を添えて棟木の内側に括りつける。三河北設楽郡でも棟祭にはとくに水木を供えて火伏せの呪とした。

こうして棟上の儀式が終ると，後は棟梁，手伝，左官ほか親類近所の合力者全部を招じて土間で盛大な祝宴が催され，数々の目出度い唄が歌われる。これに加わる人々は勿論当日や石搗きの折にも食物・酒その他の金品を持寄るが，これによつて人々の結合力を増し，当家の繁栄を祈る気持が籠められていることは先に触れたとおりである。工事の指揮者たる棟梁に対しては最大の礼が尽くされる。酒宴の後で引出物を贈り親類の者がこれを担つて賑かに歌いながら棟梁の家まで送り込む風は方々に見られ，トウリョウオクリ（上田市），ダイクオクリ（南河内），ダイクモドシ（肥前宇久島），ウチコミ（京都上賀茂），バンゼエオクリ（番匠送り）（対馬南部）などと呼んでいるが，北九州ではムネアゲオクリといつて棟上の翌日棟梁の家へダイコクマイ3～4俵など，打固めの木槌，飾りに用いた弓矢などを持込み，讃岐広島でも翌日ホッカイに餅を入れて弓矢と一緒に持つていく。いずれの場合にも棟梁方からも酒肴が出て祝直しをやる。

京都北郊の上賀茂では棟梁を送り祝宴も終ると，施主が未だ床も張つてない土間に仮の板がこいを作つて一晩だけここで寝る習わしが今も守られている。折角できた家に主より先に魔性のものなどが住みつかぬようにとの呪だという。大和吉野郡の川上地方にもこの風があると聞いている。

新築祝——いよいよ竣工すれば当然さまざまの儀礼や盛大な祝宴を伴い，フシンアガリ（陸前伊具郡筆甫村），イエミノイワイ（相模津久井郡青根村），ヤガタメ，ヤイワイ（信州小県郡）などと呼ばれる。陸中上閉伊郡土淵村では臼，杵，粉下し，箕，摺木，裸馬，ヘラ(杓子)，穀物俵を一人で一品づつ担ぎ太鼓を叩きながら家のめぐりを廻る。沖縄宜野湾村の行事は棟上の折に触れたが，ここでも家を7回廻り，同じく山原地方でも長い家造りのオモイ(神歌)があつて神人が唄いながら家を7周する。家や柱の周囲を廻る風は古事記の古から見られ，今日も神意を伺う場合にしばしば採られる方式であつて，これによつて神聖な力を予期して，新築の家に新たな力を祈り籠めようとの願望の現われである。青森県三戸郡では，ヤドコ(屋根葺上げ)の祝に一人は蓑をかぶり，今一人がその後について水を掛けながら家のめぐりを3度廻るという。

新築の行事には生殖の力を家にもつけるためと思われる奇抜な風習が含まれる。会津や羽前の村々では，新築祝の折主婦が木製の大きなリンガを担いで家のめぐりを

廻り後で棟に縛りつけておくという。八重山群島でも家造りが完了すると，男女一組がクバ釣瓶を荷つて中柱を3周し，先棒の男が「アリブサニー（蟻拾え）」といえば後棒の女が「アリブラヌー（蟻居らぬ）」と唱えるというが，これと似た行事が羽前最上郡でも，ただしこれは正月15日の夜行われる。夫婦が裸体でユルリを3度，家のめぐりを3度廻り男が「コーラガワレタ」と唱えれば女房が「アワボガサガル」と応じたといい，新築祝と小正月の行事には他にも類似点が見られる。

屋移り——ヤウツリ，ヤオツリ，ヤワタリ（南伊豆，土佐），ヤガリ（北越後）などと呼び，またワタマシと呼ぶ地方も多い。ワタマシはいうまでもなくワタルの敬語化された形で，ここにも屋移りが人間の移転に留まらず，家の神のお渡りをも兼ねた大切な祭だったことが窺われる。新築祝と屋移りは切離しては考えられぬ行事であつて，この折粥を炊いて供えたり，食べたりする習俗が各地に見られる。これをワタリガユ（上州赤城根村），ヤワタリガユ（美濃徳山），ユワタリガユ（南伊豆南崎），ヤタナガイ（神戸須磨区多井畑），ヤガイ（天草），ヤガイノカユ（佐賀川上郷）などと呼んでいる。二三の実例を示せば，北上山地の土淵ではスマコガユとて煮立つた粥を家の四隅に供え，同時に一同でこれを啜る。同じく陸中紫波郡のスマッコカエコは，二親の揃つた10才位の男女2組の子供を選び家の四隅に向つて歩きながら粥を食い早く食べ終つた子が残つた者の箸を奪い取ることを誇とする。壱岐のススリガユの行事は主人が煮立つた粥を12本の柱の根元に供えて歩き，また棟梁が粥を口に銜んであたりに吹き散らす一方，ニワウシの上から水を振掛ける。水や粥が体に当れば縁起がいいという。これ等の行事に使つた箸や杓子はいづれも棟に括りつけられる。三河北設楽郡では棟上の後で棟梁が柱に粥を食わせて廻り，棟梁が「大黒柱に何ゲー（粥）すする」と唱えれば，弟子たちが一斉に「延命長者のケーすする」と応ずる。駿河安倍郡でもハシラホメといつて小豆粥を各柱の根に供えて目出度い言葉を唱えるという。以前は我国では粥は飯に相当するものだつたからこの方が古式とも考えられ，小正月の成木責めや門松に粥を進ぜる習いと同じように家にも食べさせる訳である。粥は小豆粥の場合も多い。越後北魚沼郡では家移りには大釜や鍋でできるだけ沢山の小豆粥を炊き村中の子供を集めて食べさせ，その後は親類近所が夜通し火を炊いて語り明かす。伊豆賀茂郡南崎村では屋移りに7軒の灰を貰つて火を焚き，小豆を入れたユワタリガユを炊いて子供と通りがかりの人に食べさせるが，ここにも群の精神的な協力への期待がみられる。小豆粥の持つ呪力は小正月の粥占などでも察せられる通りであつて，こうして新しい家やその居住者の安泰繁栄を祈るのである。なお，播津豊能郡では黒豆を入れた粥を炊く。また粥にお金（肥前川上郷）や小石（摂津神崎郡船津）を入れて配りそれにあたれば縁起が吉いと喜ぶ地方も多い。信州下伊那郡では手桶に粥を入れて「延命長者家移り粥を啜れよ」と唱えながら配る。粥をその場で食べずに分配するのも共同飲食の趣旨には変りは無い。

実際上の家移りに際して何を真先に持つて入るかについては地方によつてまちまちであるが，東京近辺や伊勢河芸郡では，万年青の鉢や株を先ず持込む。また北伊勢ではイワタリ（移転）の折はドンベ（お歯黒）を真先に次にウシ（糸クリのこと）を持込んで炉の周囲を3度引廻し，ウシックビ（糸枠を取付ける台）を持つて入る。上伊那郡でも糸取の枠が最初に持込まれる。所によつてはウシという脚立を持込む。ともかく，いずれも形が牛の角に似ている点から古代に牛が生贄に供せられた名残ではないかと考えられる。現に薩南徳之島では近頃まで新築祝にはヤギユシの祭という行事があつて，家主は牛を屠つてその前肢と頭を前庭に吊して祀つたそうである。沖縄宜野湾では塩と味噌と搗臼を最初に持つて入り，つぎに主人が近所の子宝長者と一緒に入つたという。神棚や仏壇を先ず運び込む地方の多いのは当然だが，陸前気仙沼地方では神棚についで臼と杵を持参している。陸中土淵村でも新築祝に臼や馬を引いて家のまわりを廻るのが例だつた。このように臼を運び込む地方が多いのは矢張ウシから転じたものではないかと考えられる。なお上州赤城根村では主人が俵を負わせた馬の手綱を取り，あるいは俵を抱え馬のタテゴを持つてハイハイと曳きながら屋内へ入るし，武蔵秩父郡大椚では井戸水を桶に汲んで持つていき，つぎに火を運び，それから馬を曳いていく。飛騨久々野村でも新築の第一夜は主人だけが泊つて魔除として馬の鞍を飾るという。このように馬を曳く習俗も同じく牛から転じたとする説がある。水と火を真先に持込むのも古くからの習わしであつて，火の神聖を重んじその穢れを極度に忌み，また正月には若水を迎える日本人としては当然のことといえよう。南河内郡丹比地方では漬物桶を真先に運ぶ習わしがあるが，大和西大寺付近でもこの頃この風が行われるようになつたといつている。

以上建築に関する民俗儀礼の目ぼしい例を挙げながら概観してきたが，各地各様と考えられる様々の異俗奇習も全国を通観するときはそこに自ら統一が見られ，わが国の伝統の根強さというものが察知される。これは辺鄙な農山村のみならず，都市の近代建築においてさえ見られる現象なのである。

主要参考資料
民俗学研究所編　綜合日本民俗語彙（昭30—31　平凡社）
柳田国男・関　敬吾　日本民俗学入門（昭17　改造社）
民俗学研究所編　民俗学事典（昭26　東京堂）
柳田国男・山口貞夫編　居住習俗語彙（昭14　民間伝承の会）
山口貞夫　地理と民俗（昭19　生活社）
柳田国男編　山村生活の研究（昭12　民間伝承の会）
筆者　採訪資料

（筆者　奈良学芸大学講師）

建築工事の祭式奠について

浅野繁雄

建設工事には古来，種々の祭奠式事が行われている。起工に先立つて行われる地鎮祭，上棟に際して行われる上棟式，竣工に際して行われる竣工式などが最も知られているところであるが，その他起工式，立柱式，定礎式なども，よく人に知られているところである。また，そのほかダム工事の湛水開始に際して行われる湛水式，火力発電所の火入れに際して行われる火入式などがあり，橋梁の渡り初めに際して行われる開通式，銅像，碑などの除幕式，仏体の開眼式，入魂式なども，よく人の知るところである。

これらの祭奠式事は通常神式によつて行われているが，企業者の関係で神道以外の形式で行われる場合もある。筆者は会社でその方面に携わつてきたので，おすすめに従つて実際に即してお話申し上げることとした次第であるが，祭礼においては，それぞれ習慣もあり，形式上異るところもあるので，その辺については，あらかじめ御了解を願いたい。

1. 地鎮祭について（私祭）

私祭式とは神社，教会，個人いずれによつて行われるを問わず，すべて祭祀令に示されていない諸種の祭典をいうのであるが，祭りの精神については公私何ら異るところはなく，ただ祭りの大小，式の次第，供物の軽重などについて多少の相違があるだけである。一般に地鎮祭は建築物，築堤，架橋その他の工作物を地上に築造するに当つて先ずその礎地を清め，その築造物の保全を祈念する地祭りである。この祭りを行うについては下記の調度品が必要である。

神籬（ひもろぎ），案（つくえ），真薦（まこも），注連縄（しめなわ），紙垂（しで），斎竹（ささだけ），椅子（いす），清砂（きよすな），神饌物（しんせんもつ），大麻（おほぬさ），玉串（たまくし），切麻（きりぬさ），鎮物（しづめもの），鎌（かま），鋤（すき），鍬（くわ），三宝（さんぼう），土器（かわらけ）など。

地鎮祭式の次第は通例下記のとおりである。

入場（主催者，一般参列者，神職）
- 開　式（開式の辞）
- 修　抜（しうばつ）一同磬折（起立）
- 降　神（かうしん）警蹕（けいひつ）奏楽（そうがく）〃
- 献　饌（けんせん）奏楽
- 祝詞奏上（のりとそうじよう）一同磬折
- 地鎮行事（とこしづめ）切麻散米（きりぬさ）の行事
  - 刈初（かりそめ）の行事
  - 鋤鍬（すきくわ）の行事
  - 鎮物（しづめもの）の行事
- 玉串奉奠（たまくしほうてん）奏楽
- 撤　饌（てつせん）
- 昇　神（しようしん）警蹕　奏楽　一同磬折
- 直　会（なほらひ）
- 閉　式（閉式の辞）

退下（神職一般参列者主催者）

以　上

地鎮行事は下記のとおり行われている。

刈初（かりそめ）…神主鎌を持つて荒草を刈り除く（新築工事のとき）

斎鋤（いみすき）…施主これを受けて墳物穴の右に位置する（石切りならし）（后砂をかける）

斎鍬（いみくわ）…施工者これを受けて墳物穴の左に位置する（土曳きならし）（后砂をかける）

鎮物（しづめもの）…斎主これを鎮物穴の中央に鎮める

地鎮祭における鎮物行事は最も大切な行事であるから厳正適格に行わねばならぬ。故にあらかじめ神主，施主，施工者とも充分事前に打合せして，すべての行事はスムースに取り運び得るようにしておかねばならぬ。

2. 上棟式について

上棟式は建築成就の第一の祭りであるから，万事に注意して叮嚀に行わなければならぬ。まず大安日などの吉日を選んで，前日から予め棟上げの下準備を整えておいて当日棟木を上げ，槌打の式を行い次に棟札を取付ける行事を行うのである。工匠は上棟の際には必ず太玉串を作り，太い串の上部には丸扇，鏡，福面などを付けて，その下から五色の麻を垂らして祭壇の後方の柱に高く掲げるのであるが，普通これを扇子車といつている。略式のときは，扇車は1本立とし，本式のときは2本立とする。

棟札は檜板で頭を駒形にして作り，祭神名，施主名，工匠名および上棟の年月日などを記入して，上棟式の当日には神籬の前にお祭りして槌打式が済んでから取付ける。取付後はこの斎札は祭神の守護所となる。

上棟式の次第

上棟式次第は地鎮祭次第とほとんど同じであるが，ただ地鎮行事の代りに上棟行事が行われる点が異つている。

上棟行事は，棟上げ，槌打行事，棟札取付行事の順に行われる。また，叮嚀にする場合には，弓に流鏑矢（かぶらや）と雁股矢（かりまたや）を仕掛けて神籬のの両側に立て，屋上の魔除けとして使用されるので，これは昔から工匠が作つて供えたものである。

上棟式には本式上棟式と中略式または略々式上棟式とがある。本式上棟式は大建築の場合に用い，屋上と柱根との二箇所に祭壇を設けて行われ，中略式または略々式にては祭壇は一箇所で行われる。

いずれによるかは施主の意向に基くのであるから，予めよく打合せておく必要がある。

棟上槌打の式

役者はそれぞれ棟木の両側に位置し，頭梁は下にいて木綿綱をとりつつ古歌を吟じ棟木を上げる。歌は次のものを2回吟ずるのである。

千木すぐに樫木すぐにうつ槌も
ともにことぶく常盤堅盤に

次に千歳棟（一の槌），万歳棟（二の槌），永々棟（三の槌）と合図して槌を打たせ，最後の納めの槌は土金と少音に唱えて打ち納める。槌打式を終えてから棟札を神主より受けて大黒柱の最上部に高く取りつけする。

祭奠に特有のことば

神籬（ひもろぎ）　普通は榊に四垂あるいは八垂の紙垂を御幣のように取りつけ，麻の中央に白紙を巻いて紙垂の上から左右に垂れるようにしかけるのであるが，これは祭りの間は神々の宿となるものであるから，祭壇の中央に一段と高く掲げ榊の上部には神鏡をつけて神霊の所在を顕わすのである。故にこれを調製するには充分入念にし，かつ清潔にすることが大切である。

神饌（しんせん）　洗米，塩，清水，御酒，昆布，鰒鯛，鯉魚，野菜，果物，鰹節，菓子，搗栗などを三宝に盛りつけてお供えする。（三宝は5台または7台，9台など用う）神饌物は神にお供えをするものであるから充分吟味して新鮮なものを用意せねばならぬ。

大麻（おほぬさ）　祓のときに使用される一種の祓幣であつて，榊に木綿を垂れたものである。本来，大麻は幣の一種で，自己の誠意を神にささげる料として使われたものであるが，今は祓い清めるために使われている。

切幣散米（きりぬささんまい）　切麻とは絹紙麻などを小さく切つて玄米と合せたもので，神々に手向けとして撒くものであるが，この撒物にも自己の罪穢を祓つて神に感謝する意味をもつている。切麻はまた五色の色紙を用いてもよい。なお撒くときは左，右，左と3回に撒くこととされている。また切麻は祓いのときと鎮物行事のときに使用される。

祝詞奏上（のりとそうじよう）　祝詞は斎主自ら神明に告げ白す詞であるから，礼を欠かぬよう敬意が厚く表明されているものでなければならぬ。祝詞文はその大部分はみな延喜式に収記してあるが，文章はいずれも荘重であるから，祝詞を奏上するときは神人合一の神境に到達するような霊感を覚えしめるのである。祝詞文の構成は始句に始まり，次に祭神名，祝詞奏上者の氏名，祭典の因由，祭典のおもむき，神饌の次第，神徳称揚詞，祈請および感謝の詞となり，最後に結末句で終つているのが普通である。

玉串奉奠（たまくしほうてん）　玉串とは，祭典の場合に神前に奉奠するもので，榊に紙垂をつけたものをいう。玉串を神前にささげることによつて至誠神に通じ，神人一体の境に達するのである。

玉串奉奠順位を決することは最も大切なことであるから，あらかじめ施主ともよく打合せた上で決定すべきである。

順位は，斎主，施主，設計者，施工者，来賓の順にする。玉串には正しく紙垂を付け，必要数だけ予め用意しておくべきは勿論であるが，常に予備として数本多くこしらえておく必要がある。また玉串が代表者によつて奉奠される場合には，関係者はその都度起立し列拝するのが一般の礼である。

手水の儀（てみづ）　野外の祭場では必ず手水所を設けておかねばならぬ。それは祭場へ入るに先だつて手を清め口を濯いで清浄の身を以て式場へ臨むためのものである。手桶と柄杓拭紙を用意しておく。

直会（なほらひ）　祭典の直後，神饌物や神酒を共に戴いてお互に祝し合うことを直会という。その調度については身分相応にすべきものであるから，一概にいえないが，最も簡単に執り行われる場合は神酒とするめで乾盃することもある。いずれにしても身分相応に行われるのがよい。

3．竣工式について

建築工事がいよいよ完了した場合には，施主は必ず竣工式を行うのである。すなわち竣工の由を大神たちに告げ白すお祭りである。竣工式の次第については上記とほとんど同様であるが，ただ祝詞が済んでから新室の清祓が行われる点が異つている。新室は地下から屋上に至るまで皆，塩と切麻で祓い清める。そして式事が終了すると，直会として祝宴が行われるのが普通である。場合によつては式の直後に設計者の工事報告があり，施主から施工者に対して感謝状や記念品などを贈られることもある。

以上で地鎮祭，上棟式，竣工式についての大要を述べたが，次に近代式鉄筋鉄骨コンクリート造の建築物について行われる立柱式および定礎式と火入式その他の式事の大要について述べることにする。

4．高層建築物の立柱式について

鉄骨鉄筋コンクリート造の高層建築物では基礎の掘方工事を完了して柱根の基礎コンクリート打工事が終り，いよいよ鉄骨の柱を建て始める頃になると吉日を選んで立柱式が行われる。立柱式次第については上記と大差はないが，立柱式を行うには予め諸般の準備を整えておいて，吉日に立柱すべきであることはいうまでもない。立

柱式の祭神には星の神，すなわち天星玉女神，色星玉女神，多願玉女神および北斗七星に加えて天目一箇命，石凝姥命などを招請して祭るのが一般である。

近来のように工事の規模が大きく，かつ現場が繁忙を極めている最中に立柱式を行おうとすれば，種々の困難が伴うから，あらかじめ充分な打合せをして，立柱行事がスムースにできるように手配をしておかなければならない。そして直接行事に必要なワイヤ，ロープ，ウインチ，リベット，ナット，ハンマー，スパナーなどの準備を整えておかねばならぬ。現場の仕事として一番厄介な基礎掘方も済み，側壁のコンクリート打も終り，いよいよ鉄骨が入るようになつて立柱式を執り行い，無事立柱ができたときは実にほつとして嬉しい気分にひたされるものである。立柱後は工事が無事に進行するように祈るのである。

5. 高層建築物の定礎式について

近来，大都市においては，次から次へと高層建築物が建てられておるが，これらの記念すべき建物においては西洋でも日本でも同じことであるが，定礎式が盛んに行われている。いつ頃，定礎式を行つたらよいかといえば主体コンクリート打工事を終つて正面玄関入口の2枚目の石張りをする頃，最も吉日を選んで行うのがよい。

定礎式の次第については上述の各次第とほとんど変りがないが，定礎行事になると随分複雑なので，次に詳しく述べておくこととする。

定礎行事

先　開　幕　礎石正面の幔幕を撤する

次　定礎銘板　{定礎銘を神前で奉読する / 定礎銘板を桐箱，鉛箱に格納する}

次　斎　鏝（いはひのこて）　{容器のモルタルを取り / 鏝にてモルタルを均す}

次　礎　石（そせき）　{設計者水平点検 / 施工者垂直点検　礎石を据付ける}

次　斎　槌（いはひのつち）　礎石を槌にて打ち固める

行事は上記のとおり行われるが，礎石には予め定礎の文字，年月日を彫りこんでおく。次に定礎銘板には何々本館を建築するに当り何年何月何日の吉日を卜して永世不朽の柱礎を鎮定する旨を書き，併せて工事に関係した施主側の重役名，設計者名，工事施工者名などを記入する。なお，後世に記念するため当日の新聞紙，通貨，財産目録，建物の平面図，立面図を共に鉛の箱に入れて礎石の内側に格納する。それから，モルタルを流し込み，更に鏝をもつてひき均らす。そして礎石の取付が完全であるかを調べた上，さらに斎槌で打ち堅める。定礎の行事については現場であらかじめ諸般の手配をした上，役者が各々どんな行事をなすべきかについて充分の打合せをし，要すれば予行をしておく。

6. ボイラーおよび瓦斯炉などの火入式について

火入式の次第も前述と大差はないが，ただ火入の行事が異つている。火入式にお祭りする祭神は斎火産霊神，奥津彦神，奥津姫神などである。火入行事について説明すると，まず神主が火打石で炉に神火を導入し，それが終つてからライター，電気などで発火させ，火入口に挿入し点火するのである。点火初めの行事は代表者によつて行われるが，その際にはそれぞれ専門の技術者が補助者として補佐する必要がある。急に火を入れては危険なものもあり，また火入れに技術を伴うものがあるから，事前のテストが何よりも大切である。

7. 除幕式，開眼式，開通式

治水の功労者とか市政の功労者など在世中に特に功労の顕著であつた人士に対して，後世の人々がその人の功績を讃えて銅像を造ることは，世にその例が多い。有名な歌人，詩人などのために詩歌碑が建てられることも少くない。こういう場合には大抵神式で除幕式が行われている。式の次第は上述したところと大差はない。ただ銅像なり碑全体を白布で包み，除幕のできるように予め手配しておいて，式中所定の除幕のときにさつと幕を除くのである。式の前後には音楽を入れてうるわしく先人の功績を讃えるのが普通である。除幕は先人の子孫や，また後継の高弟によつて行われる。

開眼式

観音像の建立が完了すると，仏式によつて開眼式が行われる。すなわち石像に対して魂を入れる儀式である。

仏式開眼式の次第は次のとおりである。

差定（さでう）　着席　導師入場　三拝（無言）　四奉請（散華）しぶじようさんげ　表白（へうびやく）　除幕　酒水（しやすい）　開経偈（かいけうげ）　誦教（じゆけう）　昭益文　念仏一会　讃仏偈（さんぶつげ）　御回願十念　御詠歌　挨拶　退場　以上

開通式

橋梁が完工して，いよいよ渡り初めを行う頃になると橋の両側には笹竹を立て，〆縄を張りめぐらして竣工開通式が行われる。式を終えると主催者を先頭にして行列を組み，渡り初めが行われる。このとき旗行列や打上花火祝賀飛行などの催しがあれば一層盛大に行われる。

結　び

以上，建設に関係ある祭奠式事についての概要を申し上げた次第であるが，要するに，これらの祭りを行うことは施主にとつては，この上もない喜びごとであり，また工事を施工した者にとつては非常に意義の深い次第であるから施工者側としては，よく施主の気持を汲んで誠心誠意，神に奉仕することは勿論，この祭りの意義を仕事の上にも表わさねばならぬ。建設者の関係する祭式奠は野外で行われるものが，かなり多いので，風雨の場合には特に細心の注意を必要とする。また祭典の日取り決定については，暦について吉日を選んで執り行うのがよい。

（筆者　KK大林組工務部）

日本建築の工作や加工の変遷

浅野　清

はしがき

日本建築の工具やそれを用いてされた加工方法の変遷について書くようにとの依頼を受けたが，私は工具などについて特に調べてみたことはない。ただ古い建物を修理してきたので，工具そのものは，どんなものであつたか詳しく判らないながらに，加工された材料だけは，いろいろ見てきた。それで工作や加工の変遷が建築の構造や意匠にどんな影響を及ぼしたかといつた問題なら何か書けるだろうと考えて，お引受けしたのである。

加工具の革命と近世建築

日本建築の木材の加工に革命的な変化を与えたのは，竪挽鋸と台鉋の発明であつた。これらの発明されるまでは，木材を繊維の方向に小割するには，今日石を割る時するように楔を入れて割る方法が専ら行われた。したがつて生木の方が割り易いので，正倉院文書に出ているように造材は杣で行われた。このことは，仕上げの施されていない材に残されている楔の痕跡などでもよく知られるし，中世になると絵巻物の絵にも出てくる。したがつて小割材には木の目のよく通つた，ねじれ等のない木が撰ばれた。大きい節もこの方法で割る際には邪魔になるので，避けられている。昔の建物には柱のように心持の材では節のあるものが平気で用いられているが，小割材に節のあるものが少いのは，そのためである。こうして楔で割つた材は「やりかんな」(鋤)を用いて表面仕上げされる。しかし楔で割つたままの割肌に直接「やりかんな」をかけることは困難な場合が多いので，その前に鉞を用いて荒斫りをするのである。「やりかんな」や鉞の古い伝世品はないようであるが，「やりかんな」を小型にした刀子や鉞の古墳から出土したものはあり，中には実用に供したものかどうか疑わしいが，柄の所まで鉄で出来ている鉞まであつて，はつきりしている。それから鎌倉時代の絵巻物などには鉞や「やりかんな」を使つているところを絵にした箇所が少からず出る。例えば石山寺縁起や天神縁起などに出る造営場面など，それであるが，これらを見ると，曲つた柄のついた，今の鉞のような格好したものを，腰を下して坐つたまま使つている。今の鉞のように刃先が平なものでは，こんな格好していては重くて使えないが，この古い鉞は刃先が丸くなつていて，実際に木材に当つて切れる部分が僅かであるためこれでうまく斫れるのである。「やりかんな」は短い柄のついた鑿の刃をまげて，木材に当つて切れる部分を少くして，小刀で削るように削つたものらしい。詳細は不明だが，鉞など古墳時代のものと鎌倉時代のものとの間に大きい差違はなさそうである。それから仕事の痕を見ると，この他に坂田金時がかついでいるような「まさかり」というか，斧というか，刃先と平行に真直な柄のついた刃物が使われたらしい。これは刃の幅が広くはつられている。こうした道具は今では杣でしか用いていないが，これが大工仕事にも用いられたと思われる。こうして，野材や目に遠いような材は斧ないし鉞ではつったまま用いており，目に近い，見えをよくする必要ある部分や入念な仕事を必要とする箇所には「やりかんな」仕上げが施されるのである。こんな工作方法だから，目で見て一応平に仕上げられるのではあるが，真の平面とは程遠く，また矩手なども正確には出来ていないので，これを組立てる場合にはそれぞれ材のゆがみの「くせ」に応じて，相手の材をくせどつてゆくという方法を用いなければならないのである。したがつて出来上りも不揃いで，目に見て機械的な整然とした感じがしなかつた。一方，小割材には木材の目のよく通つた良材が用いられるので，狂いを生ずることが少く，木肌も美しくて，品もあつたのである。

竪挽の鋸というものが発明されると工作方法は一変するわけで，最早必ずしも繊維に沿うて割ることにはならず，少々無理にも平な角材を作つてしまうことになる。したがつて，木材は非常に経済的にそつなく利用できるし，仕上げの鉞斫りも，ずつと楽になる。しかし，さらに台鉋が発明されると，平な面をかなり機械的に作ることが出来るので，いよいよ正確な角材を作つて，緻密な仕事をするのに好都合となるのである。それも，さらに二枚鉋が工夫されるとなると，この機械化は一段と進むのである。それでは一体いつ頃から竪挽鋸や台鉋が用いられ始めたかということになると，なかなか難かしい問題となる。鋸そのものは古墳時代の遺物から残されているし，法隆寺や正倉院などに伝世品すらあつて，随分古くから使われていたことが判るが，これは頗る不完全なもので，鋸の分も厚く，刃のつけ方も拙く，とても重くて，鋸屑の逃げ道をうまく作るようになつておらず，あまり重宝なものでなかつたようである。だから木口を切るにも，今の杣で使う「まさかり」式の刃物でぶち切つたり，木口を鑿でついているものが多く，鋸で切りっぱなしにした実物をあまり見ない。鋸をいれかけた巾2分にも及ぶような切り痕は時々見るが，おそらく太い木を真直にきっぱり切断するようなことは出来ず，今の鋸ほど役に立つものではなかつたであろう。だから，このような調子では竪挽など思いもよらぬことであつたに違いない。ところで，竪挽を用いた最古の例はという問題に

なると，実例を見つくさぬ限り決めかねることにもなるが，私の知る限りでは，奈良の元興寺極楽房本堂に用いられていた梁は竪挽されていたもののうち最古のものである。この梁は後世挿入できないところに使われていたので，この建物の建つた鎌倉時代の中頃まで遡ることとなる。しかし，この竪挽鋸は直ちに今日，木挽の用いているような鋸だと考えることは早計である。室町時代の職人歌合わせなどの絵に出てくる竪挽鋸は，細い帯鋸を木の枠にとりつけて，これを引き張つたものであるが，こうした不自由なものが先ず用いられたのであろう。それから室町時代に入つたもので，法隆寺北室院本堂の天井板などが鋸挽きされている。しかし，この時代には割つた材がむしろ，なお普通であるから，一般に普及し，何にでも自由に使用するまでにはなつていなかつたと見られる。鋸はあつても楔で割つた方が楽だつたからでもあろう。竪挽鋸が至る所に使われているのが見られるのは，むしろ江戸時代に入つてからのことのようで，これは木材をそつなく用いるためであつたようであるが，台鉋の普及と密接に関連するのでないかと思われる。

台鉋の方も一枚鉋を用いたと思われる最も古いものは私の知る限り，法隆寺西円堂の応永4年(1397)修理の棟札である。しかし台鉋が普及して，至る所に見られるようになるのも少し下つてからのことである。いずれにしても竪挽鋸や台鉋がこのように普及してくると，木材は従来のように，節や木理のねじれ等にひどく拘束されることなく小割できるし，ずつと楽に平滑な面を作り得るので工作技術は一変する。そして，従来のように組立に当つて，一々材の曲りくせを見て仕事をしてゆく必要がなくなり，仕上げも寸法通り正しく出来るので，あらかじめ計算しておいて工作し，組立てを予定通りに一気に進めるという方法が可能になつた。そして，これが今日は常識となつてしまつているので，一々くせを取つて，工作しながら組立てて行くという古いやり方は，ちよつと想像もできないよう，なくなつてしまつたのである。

古代と中世の相違

以上で建築工作に大変化を与えた工具は竪挽鋸と台鉋であることをお解り願えたと思うが，この二つは互に助け合つて，よくその目的を果した。竪挽鋸が進歩すると最早一々鉇斫りをしなくとも，ほとんど目的に近い寸法の材に挽き上げておいて，直ちに台鉋をかけて仕上げることもできる。こうなると仕事も早く埒があき，木挽がうまくやれば大工は非常に楽で，腕の見せどころも鉋の切れ味一つといつたようなことにもなつてくる。今日といえども，この上鋸を動力で動かすようになつたのと，機械鉋ができて，矩手が出しやすくなり，手数をうんと省けるようになつたというのみで，原理的には同じレベルにあるといつてよい。だから，ここでは竪挽鋸や台鉋の使用後について，これ以上書くことは避けて，それ以前の工作方法について，またその工作方法の結果，どのようなことが生じたかについても少し書いてみることにしよう。

竪挽鋸や台鉋の普及するようになるまで，古墳時代から飛鳥奈良時代を経て室町時代頃におよぶ期間は随分長く，千年にも達することになるが，この長い間，楔で木材を割り，鉇の類ではつり，「やりかんな」をかけるという方法が続いたのである。工具もおそらく小進歩はあつても，大変化はなくすんで来たようである。しかし，仕上げの精緻さは決して一様ではなかつた。それも知らぬ間に徐々と進んで来たのとは違つて，鎌倉時代辺りを境として急に変つてきたように思われるのである。これは工作や仕上げ方法に止らず，建築構造自体もここらを境として飛躍した。そして，この両者は別々に成立したと見るよりも，互に関連し合つていることも見逃せないようである。

それならこの頃何がそんな変化を起させたかという問題になると，答はそんなに容易ではない。ただ一つ考え得ることは中国の建築の伝来である。すなわち東大寺の再建に当つて重源上人らによつて輸入された，いわゆる天竺様の建築や，禅宗に伴つて伝わつて来た唐様の建築などがそれである。これらの建物を見ると，構造は平安時代の建築に比べて格段に進歩しているし，唐様の建築などの仕上げは確かに精緻である。だから何でも，それらの影響にしてしまえば話は解りやすくて，割切れるのであるが，そう簡単に割切れるかどうかは問題である。というのは同じ頃，平安時代の伝統を守つていた和様の建築にも同様な傾向が見えているからである。それで，その中国影響説の結論はお預けにするとしても，どちらにしても，鎌倉時代に入ると間もなく大きい変化が認められるのである。例えば，それまで木材の継手や仕口は数百年来少しの進展も見せなかつたといつてもよい実情だつたのであるが，この頃，急に仕事が緻密になつて，引つかけを作つたりして張力にも耐えるような工夫がされ始めた。すなわち，それまでの頭貫の継手は単なる相欠きを釘でとめるといつた呑気なものであつたし，桁の継手などは，小さ頭の鎌継がガタガタにはめ込まれていたにすぎず，柱と頭貫の仕口なども全くひつかかりのない，欠き込みにすぎなかつたし，頭貫以外一切貫を用いず，細い筋違が両端柱に少しかきこんで，とめられているといつた不完全なものであつたのである。それが貫を幾通りも通して，これを楔じめするようになり，その端も柱の中で互に欠き合わせて，その先を外に出すという方法に代り，頭貫なども木鼻を柱の外まで出して仕口を完全にし，いろいろ張力に抵抗する細かい工夫が凝らされるのである。また意匠の上からいつても，斗の大きさとか棰の大きさなども正確に揃つてくるし，斗と棰と整然と配列して，斗の端と棰の側面を正確に一致させるな

ど，極めて神経質な納りが考慮され，従来の粗い，不揃いな重々しい仕事とは打つて変つたものが生じてきたのである。

このように仕事が急に精巧になつてきたのであるが，工具は依然従来のものの延長で，根元的な変化はなかつたようである。だからこれは質の変化の問題ではなく，精度の向上の問題のように思われるのである。日本建築が日本建築独特の神経質なものを発揮して，こまやかな表現を狙い始めるのも，この頃からである。そしてこうした傾向は南北朝時代頃には随分と発展して，見るからに精巧な手ぎれいなものが現われて来たのである。こうした精緻な技術は，そのままいよいよ進んだのではあるが，も少し時代が下ると，建築に彫刻を応用することが好まれて，これが不規則な面を作るので，外観は却つて荒々しくなり，南北朝から室町初期頃に見られる洗練された感じが稀薄になつた。またさらに江戸時代の末頃になると，絵様の渦巻や若葉のような曲線まで幾何学的な線の強さを失つて，偏平な太い輪廓のだらしないものとなつてくると，いよいよ荒れた感じが強くなる。これに反して一方，台鉋仕上げで平な面はいよいよ平滑となつて，気味悪いまでにつるつるしてくるし，象牙細工を見るような固い冷さを伴つてくるので，見る目には快適でなくなるのである。

古代建築の仕上げ

これで中世の洗練された建築と近世の建築との相違も多少判つていただけたと思うので，最後に古代の建築の工作についても少し話を進めてみよう。

一番古い建築に属する法隆寺の建物は，再建されているとすれば，奈良時代の建築ということになつてしまうが，これはまた8世紀頃のいわゆる奈良時代後期のものとは，また少し仕上げが違うので，先ずこれについて，ちよつと触れておこう。つまり，法隆寺の建築の仕上げは随分荒いのである。目に近い「やりかんな」仕上げも「やりかんな」の刃の痕がよく目立つし，槌のようなものになると，鉇はおろか，斧で斫つたままになつているので，随分荒々しいのである。この古い槌は後世の修理で何度も取替えられているので，今は全体の2,3割程度しか残つていないと思うが，これを見ていると，実にたくましい体力を感ぜしめられる。幅の広い斧の刃で，ずばりずばりと斫られていて，どよみがない。それには刃物もよく切れたであろうし，手もかれていて，とても今の人が急にまねられるようなものではない。こんなものに見なれてみると，桃山時代の茶室の「なぐり」はよいとしても，今よく見受ける「なぐり」などは全くのニセ物で，見られたものでない。「やりがんな」の方も勢よく自由自在に削られておるし，元来，鉇斫りはされているものの，決して平滑な面にはなつていないので，面そのものが大きくうねつていて，不思議な迫力を与えるのである。こんな材料を組立てるのであるから，寸法も正確にはならず，物指も一寸とび位のものを用いたのかと思わせられるほど不揃いで，材の太さの差も大きく，決して整然とはしない。だから随分神経の太いもので，8世紀の建築とは，また一段と違うのである。

8世紀の建築は法隆寺のものに比べると，仕事が揃つてくる。といつても法隆寺のものや次の平安時代のものに比べての話であつて，鎌倉時代以後のものと比べれば粗い仕事であることに変りはない。元来，奈良時代のものは，陶器類を見ても瓦などを見ても非常に仕事は整つており，幾何学的に正確であるのであるが，そうした感覚は建築の方でも窺われる。ところが平安時代に入ると逆にまた野暮くさくなつて，仕事は荒くなる。例えば法隆寺大講堂などは経済的理由もあつたであろうが，第一部材の寸法の不揃いが甚だしい。一見しただけで大斗に大小があることが目につくし，柱などは立木を見る如くに大きい凹凸が目立ち，無論鉇ばつりのままで「やりがんな」もかけてない。そのうえ正面の太い柱と背面の細い柱との径の差は4，5寸に及ぶといつた，ひどいものであつた。（柱の径は最大2.1尺）

む す び

どうやら予定の枚数に達したので，この辺で結びとしようと思うが，要するに日本建築の工具の改革は大きく見ると一回で，それは竪挽鋸と台鉋の発明であり，その実施は中世に始まるとしても，普及は近世に下つているようである。そして，これは仕上げを機械化したのみでなく，工作や組立をも機械化することとなり，仕事は精確となつたが，面は平滑となり，堅く冷く，単調で，味気ないものとなつた。ところが旧工具である鉇や「やりがんな」時代も仕事の精緻さによつて大きく二つに分けられ，真に荒々しい仕事の時代と，繊細に神経質に処理された時代との境は鎌倉時代の中頃にあつた。

とはいえ，こうしたことに拘わらず，もつと大きく見るなれば，わが木造の工作は一貫したものに大きく支配されていることも，また見逃せない。例えば円柱を作るには墨指や打縄を用いて八つ中墨を施し，まず8角形につくり，それから角をおとして16角，32角として円く仕上げるといつたことは，未だに奈良時代のものと変つていない。また，それに用いる墨壺や指矩も古くから存在していたし，仕口にしても奈良時代から相欠き，鎌継，渡り腮といつたものが相変らず行われており，柱の枘，太枘つぎなどといつたものも，大同小異である。のみならず，叉首，二重梁といつた構架法も未だに相変らず行われているし，梁，桁，斗栱の組み方も一貫した原理を変えてはいないのであつて，伝統のきづなというものの根強さを痛感させられるのである。

（筆者　大阪市立大学理工学部教授）

工　匠　の　用　い　た　用　具

相　沢　喜　久　太　郎

職人の用具について何か書くようにとのお話がありましたので，大変雑ぱくなことより書けませんが，誌面の穴埋めぐらいの軽い程度でおゆるしを願いたいと存じます。要するに職人と申しましても主として，昔の工匠，番匠，今日では大工職といわれている者が使つていた物について申上げることにいたします。何といつてもわが国の人間が穴居時代から脱け出して，地上へ住むことを考え出した頃は，どこもかしこも，森林に恵まれていたので，これらの木材や草などの資源を利用して，明るい空間に生活をしはじめたわけであります。

そこで最も古い時代には，まだ金属類の工具を用いるまでに至らなかつたので，石をもつて道具を拵えていたらしいのであります。それが証拠には縄紋式の出土品の数々の中に，大工道具らしい物が発見されているのであります。現在東京の国立博物館に陳列されている物の中に，石斧，石槌などがそれなのであります。

ところが段々時世が推移するに従いまして，銅や鉄などを熔かすことにより，工具を作ることも遙かに遠い大陸方面から，輸入されて参りまして急に工具としても能率のよい物が作られ，また，使用されることになりました。もつともこの金属工具を盛んに使われるまでに，過渡期時代のあつたことは申すまでもありません。すなわち弥生式時代には石器と金属製品とが併用されていたのです。

飛鳥時代ともなりました頃には中国から朝鮮を経て，いわゆる大陸文化がどしどしはいつて来まして，その当時仏教建築の華やかだつた大和一円の遺物として，幸い現存する法隆寺，あるいは法起寺などの建物についてみましても，柱や板その他の古材を調べましても不自由な工具で，あれだけの材木をよくこなしたものだと感心させられるのであります。

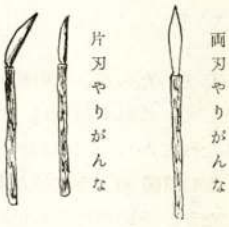
最近静岡市の南の方の郊外で発堀された登呂の遺蹟では，当時使われていた柱とか板なども，かなり鋭いやりかんなやのみなどが使われていたようにいわれています。

今から1,500年位前のある古墳からは，金槌，のみ，鋸，斧，やりがんな，釘，鎌などが出たということも事実です。ですからかような時代におきましてもすでに木工用の工具が，使われていたことが判るのであります。

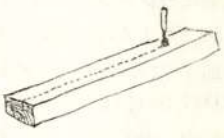
法隆寺建立がすみましてからつぎつぎと薬師寺，唐招提寺などの奈良朝時代に押進んでゆきますと，いよいよ工具も選良されまして藤原時代になりますと，俄然優秀な工具があらわれてきまして，寝殿造などで見られるような繊細な工作が施され，競つて壮麗優雅な建造物が発展して参つたのであります。

図に示しましたものは，大体，藤原時代の絵巻物に画かれていたものであります。室町時代になりますと今まで鋸はあつても，横挽（胴切り）よりできなかつたのですが，竪挽きのできる大鋸があらわれたのであります。それで従前は木を竪に挽割るためには，2図のように木材の素性のよい柾目の通つたものへ，一々のみを一直線に点々と打込んで，これに楔を入れて竪に割つていました，板もどうやら木口に割楔（箭）を入れ斧を入れて枌ぎ割を行つたという話です。

鉋としては前に述べましたようにやり鉋ばかりで削



1　図

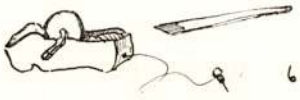

2　図


3　図

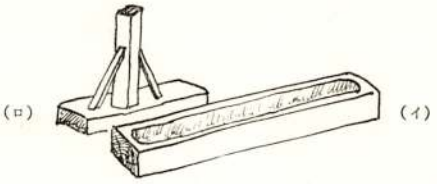

4　図



5　図



6　図



7　図

られていたのが，室町時代の末頃に台つき鉋があらわれまして，これも最初は一枚鉋であつたのが大体明治時代になつてから，二枚鉋が使われることになつたのです。

鋸は**3図**のように恰かも櫛のような形のものでありましたが，その後に至り現在使われているような，縦にも挽くことができる鋸が出現して大変便利になりました。

やりがんなは**1図**のようなもので，丁度小刀が両方に刃を持つ鎗の穂先のような物で，それに長い木の柄を付けたものであります。これを持ちまして柱でも板類でも綿密にゴシゴシと削つていつたものです。

鉇（ちよんな，手斧とも書く）は**4図**のようなもので以前まではかなり多く使われていたものですが，近頃は製材技術の向上したため，木材の幅または厚みなども正確に挽上つてくるので，ちよんなの必要がなくなつてきました，これに引換え昔は製材の技術が頗る粗末であつたので，正角のものを作り上げるには相当の厚さの木肌を，鉇はつりしなければならなかつたのです。また大昔はやりがんなにかけるまでにその下地を拵えるべく，鉇で出来るだけ正寸法に近いとこまで鉇はつりをしたのであります。

斧（まさかり・よきともいう）これは大体皆様も御存じの物であつて，形状の大小さまざまありますが，比較的早くから使われていました。

鑿　これは前述のように，割合と古い時代から使われていました。寸法は今日同様大小の幅寸法をしたものが数種類あつたようです。別に図には掲げませんが，ほとんど現在使われているものと，大差はないということです。

槌（**5図**）　藤原時代の絵巻物では材木を挽割るに大鋸がなかつたため，鑿で連続的に穴をあけこれに箭を打込んで，所要の寸法の木に挽割る方法が取られていたことを申述べておきましたが，その鑿を打ち叩いている槌は金属でなく木の槌（サイヅチ）で作業しているように描写されています。ですから現在のごとく玄能，金槌というものはそれから以後のことと考えられます。ところが藤原時代の古墳から金槌が堀出されたという事実もありますから，さらにこのことを付け加えておくことといたします。

小刀（刀子）これは別段申し上げるほどのものでもないのですが，やりがんなや鑿などで仕上げてゆくほどに，こまかい屈曲した線など細い箇所を浚えたりする場合に用いられますが図は省略します。

矩尺（さしがね）たびたび引合いに出しますが藤原時代の絵巻物には，はつきりと矩尺を使つていたり，番匠の腰にこれを差して歩行している姿があらわれています。最初，高麗尺（1.02尺）天平尺（0.98尺）などの目盛された尺度であつたのが，段々と尺度の目盛も変化して，明治になつて現今使われているような，1尺ざしということになつたのです。この矩尺のほかに尺杖（これは現在でも使用されている）も古来から使われていました。

墨壺，墨芯（**図6**）　前者は木製，後者は竹篦のようなもので，ほとんど今日用いられているものとあまり違つていないことは面白いと思います。

水ばかり（**7図**）　(イ)は木材を図のごとくえぐり取つて水を湛え，その水が平かになつた状態の時を水準にするもので（略して板で箱を作つたものもある），今日の水盛遣形の原始的な方法である。筆者の若い頃はまだこのような施工をしたことも覚えています。それから(ロ)は準（みずばかり）の一種で中央の角柱の前方と後方にある頂を眼で見通すことにより，水平を定めることに使われたものであります。

以上で古来使われていた大工工具の一端を，極めて簡単に書きましたが何分にも浅学菲才であり，しかも時日が短かかつたので充分な資料もなく，全く冷汗ものを徒らに記述いたしまして申し訳ないと存じます。どうか至らぬ点および間違つた点も沢山にあることと思いますので，識者の御叱正と御指教をいただくことができますれば幸甚に存じます。

（筆者　大阪建設業協会工務部長）

建築生産に関し職人の実態の変遷

中出定夫

こんな題をいただいて書きはじめたが，内容は全くそれにそわないものとなつてしまつた。強いていうなら，戦後の建築生産に関し，職人の実態とでもなるのだろうか。

旺盛な都市の建築意欲

賠償の交渉ととのわず，空しく帰国したインドネシヤのハッタ前副大統領は，羽田空港での声明中で，日本の建設情況の盛んな点をとりあげていた。彼の口調の中に別にそれを非難している何ものもなく，むしろ日本のため，それを喜んでいてくれるかのようではあつたが，私には額面通りに聞きとることができなかつた。

敗戦後進駐軍工事に救われて，露命をつないだわが業界は，その後沖縄の米軍基地の工事に賑い，国内には紡績の増錘工事が一斉に起り，そうした産業界の動きに刺戟されてか，都市にはビルの建設が活発化するにいたつた。丁度昭和25,6年頃である。当時フィリッピンとの賠償問題にからんで，吉田内閣が勧告の形ではあつたが，盛んなビルの建築意欲を抑制しようとしたのもその頃である。

しかし戦前戦後を通じ14,5年間建築らしい建築のなかつたわが都市の，ことにその戦争の大きな被害をうけた都市の必要上もりあがつた建築ブームが，御座なりの勧告で中断するほど根浅いものではなかつた。すなわち東京にはじまつた建築ブームが，大阪，名古屋と順次地方におよび，さらに循環を繰りかえして今日なおつづき，期間にしてわずか6，7年のこの建築界の活況がわが建築技術の向上に果した役割は大きく，戦時中の技術の低下を完全に回復したかに見えるのである。

都市建築戦後の特徴

都市におけるビル建築の規模は，近年ますます大きくなりつつあり，これが戦後の都市建築の特徴の一つである。

大阪にも戦前の建築で一万坪を越すものが幾つかある。しかしそれらはすべて二回，三回の増築過程をふんでいる。今日のごとく一万坪，二万坪という大規模のものの一度にできたことがない。

日本の経済基礎が浅いといわれ，神武以来とうたわれた好景気が日銀の金融引締に忽ち不景気となり，不渡手形の発行が戦後最高（10月）を記録するという，まことに悲しい日本の姿ではあるが，その経済事情が，戦後のわが都市建築に変つた性格を与えるにいたつた。戦前には個人も，法人も資金の蓄積をまたずして建築など企画しなかつたが，戦後は一変して借金で家をたてるようになつた。税が重くて資本の蓄積をまつたのでは実現不可能なのかも知れないが，個人は金融金庫から借金する。法人は増資はいい方，銀行の融資，社債の発行など，ビル建築においてはテナントの協力金と全く他人の金で建てられている。すなわち借金さえできれば，採算にのりさえすれば，規模が大きいほどよいのだ。かくて戦後の建築はますます大ならんとし，工期も金利計算の必然の帰結として，戦前のような悠長さは許されない。最近ますます早くなり，戦後建築工事の今一つの特徴をなしている。

短縮された工期

戦後の建築施工のスピード化には目ざましいものがある。商業建築における工期の短縮は，工費の低廉同様に重要であり，その要求はわが施工技術の上ばかりにとどまらず，設計の上に，材料の上に大きな進歩をもたらした。

(イ) 基礎工法の進歩

ウエルポイントの採用は基礎工事における堀削を非常に容易化した。それよりも土に対する工学の発達は，電気固結法を生み，サンドドレン工法を生じ，軟弱地盤を人為的に圧縮して，これに建物の支持力を与え，久しく常識として，われわれが採用した杭打工法を不必要とするにいたつた。工費の点からも，工期の上からも，実に画期的な進歩である。

(ロ) 仕上材料の進歩

新しい建築材料の登場は建築を単純化し，施工の乾式化を促進して，工期短縮に貢献するところ実に大きなものがある。

昔の建築のほとんどすべては，内部仕上げを左官に依存したが，戦後は優透な建築材料の出現によつて，戦前のように大きな天井を左官で仕上げるなど全くなくなつたといつてもよい，内装ばかりでなく，軽金属の発達とその採用は建物の外装より，石，タイル，左官など一切の湿式材料をロックアウトしようとさえしている。とくに塗装材料に対する研究，改良にはめざましいものがあつて，左官塗りたて後3カ月，6カ月とおかねばならなかつた乾燥期間を今日では1カ月で，はなはだしい時には半カ月で塗装工事に着手し得るようになつた。

(ハ) **混凝土会社の出現**

大都市における建築の活発化に呼応して出現したものに，混凝土会社がある。電話一本で必要な時に，必要な強度の混凝土が得られることは，都市建築のように100%敷地を利用する現場施工には最もありがたいことである。

(ニ) **施工の機械化**

進駐軍が日本の建設業界に与えた影響は，施工の機械化であつたと思う。そして彼等の残して帰つた使いふるした施工機械が，わが業界の機械に対する認識を深める上に，その運転技術の修得の上にどれだけ役立つたことか，建築は土木に比し，機械の利用度が小さいが，それでも基礎の堀削，運搬，杭打あるいは，鉄骨の建方などに，軌道力をもつた優秀な機械が競つて利用されるようになり，経済的にはとにかくも工期の短縮の上には大きな効果をあげているのである。

依然として高い労務への依存度

前項にのべた諸要素はわが施工の短縮化に大きな役割を果しているが，一方人手の多い，したがつて，労務賃銀の安いわが国では労務への依存は依然として高く，工期が短かくなつたというも，その大部分は人海戦術に似た人手の投入と，夜を日につぐ無休の結果にまつところ大きく，この点アメリカの施工とは大いに違うのであつて，人手依存は経済面でも，工期の面でも，究極的には安易であるため，わが業界の標準化といい，機械化というも徹し得ぬうらみが多い。

こころみにわが人手への依存度のいかに高いかをアメリカのそれと比較してみよう。

建設工業生産視察団の報告書の中にアメリカの建築工事の原価構成がのつている，それによれば下記のごとく

	工場	商館	住宅
労務費	20%	18%	22%
材料	23〃	15〃	28〃
外注費	54〃	63〃	43〃
経費および利益	4〃	4〃	7〃

労務費が平均20%を占めている。これに対し，日本では（同報告書による）日銀調査の統計によれば

労務費	14.2%
材料費	29.5〃
外注費	36.1〃
経費および利益	20.2〃

と，労務費が14.2%となつている。すなわちアメリカの20%は数の上では大であるが，労務賃銀のわが労務者に10倍から15倍することを考慮に入れるとき，彼等の20%は2%か3%になり（外注費中にも労務費があるから，労務費の20%を労銀の比率で割れないが），わが14.2%よりはるかに小さくなる。すなわち，われわれは彼等の5倍から7倍近い職人を使用していることになり，いかに職人への依存度が高いかわかるのであつて，ここに職人の良否が工事におよぼす影響の大きいこともうかがわれるのである。

職人の不足と技術の低下

戦後，職人の技術の低下が盛んにとなえられてきた，長い戦争中には養成もされていず，応召して外地の露と消えた命も多かろうし，帰つたものの負傷のために，老いのために仂けぬ者も決して少なくない筈，そこへ思わぬ建築界の活況である。職人の不足も総体的な技術の低下も当然なことである。

とくに米軍の要求によりて，施行された職業安定法は中間搾取の排除とボスの抹殺を目的とし，何人といえども労務を供給し得ないとて，労務に関する下請の制度を破壊したが，わが業界に関する限りちよつと的はずれの感が少なくなかつた。

優れた技術により，職人の尊敬と，元請の信頼をうけて存在する下請はボスでもなく，中間搾取でもなかつたが，安定法は一律にこれを抹殺しようとした。その結果職人を養成するものも減少し，かつ中心を失つた職人の動揺はなはだしく，戦後の技術低下をさらに助長したかの感があつた。

職人養成の必要

安定法の定めにより，職業補導所が各地に設けられ，大阪府でも，木工，建築，左官，タイル，塗装などの科目について月々補導教育をほどこされている。しかしその対象はあくまでも失業者，転職希望者，身体傷害者などを主とするものであつて，真の業界の要望による労仂力の充足を目的とした職人の養成とはいい得ない。

もとより下請にのみ依存する元請業者には何等の関心なく，職人養成の必要性はただ工事の都度，職人の争奪に苦しみ，賃銀の吊上げになやむ下請業者の間で熱心にとりあげられ，彼等のうちには左官を塗装工を独力で養成しようとする者も出現するにいたつた。もちろんその成果を今後に期待するのであるが，ある見習工の養成を企画した下請業者は幾人かの世話役に十人づつの見習工を割付けて，現場でこれを養成せしめた。しかし世話役の一人Aが仕事の小さいため，うち8人を世話役Bに預けた。Bはこれを工事の多忙のままに手元的な仕事に使

第1表　平均年令と経験年数

	人数	年令平均 A	平均経験年数 B	A−B
大工	161	28.5	11.7	16.8
鉄筋工	89	30.9	6.17	24.73
左官	99	28.9	11.75	17.15
造作工	6	38.8	21.3	17.5
タイル工	13	25.6	8.53	17.07
電気工	57	30.03	10.63	19.4
衛生工	43	31.0	8.8	22.2
大理石工	(7) 9	(23) 30.5	(3.75) 5.1	(19.25) 25.4

用した，後Aに大きな工事が出たためBより8人の見習工を返して貰つたところ，手元においた2名の見習工との間に大きな技術的差ができていたとの話をきいた。

一方に仕事をもつ下請が見習工を養成するなど，決して楽な事業ではない。

アメリカの見習工養成

アメリカではユニオンが建設業協会の協力を得て，見習工の養成に当つている。そして職人もホワマンもこの養成に責任をかけられている。カンサス市の大工組合と業協会との協約書の中に，見習工を1つの仕事に使つてはならない。各種の仕事を習熟するよう合理的な概念を

第2表　年令による職人の分布

年令	大工		鉄筋工		左官		造作工		タイル工		電気工		衛生工		大理石工	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
16									1	7.69	4	7.00	1	2.13		
17	1	.62			1	1.01					1	1.77	1	2.13	1	11.11
18	4	2.48	2	2.23	4	4.04			1	7.69			2	4.26		
19	3	1.86	2	2.23	5	5.05			2	15.39	1	1.77	1	2.13		
20	7	4.34	3	3.37	6	6.06			1	7.69	3	5.26	1	2.13	2	22.22
21	5	3.12	2	2.23	9	9.10			1	7.69			2	4.26	1	11.11
22	12	7.46	5	5.64	7	7.07			2	15.39	5	8.76				
23	9	5.59	5	5.64	10	10.10			1	7.69	2	3.54	1	2.13		
24	8	4.96	9	10.10	5	5.05					3	5.26	2	4.26	1	11.11
25	15	9.32	7	7.88	8	8.08					6	10.52				
26	10	6.23	3	3.37	4	4.04	1	16.67			2	3.54	3	6.39		
27	20	12.46	8	8.99	5	5.05			1	7.69	2	3.54	5	10.64	1	11 11
28	10	6.23	5	5.64	1	1.01					2	3.54	3	6.39		
29	13	8.08	4	4.49	4	4.04					1	1.77	4	8.52		
30	9	5.59	3	3.37	2	2.02					2	3.54	2	4.26		
31	2	1.24	1	1.12	2	2.02	1	16.67			1	1.77	2	4.26	1	11.11
32	3	1.86	3	3.37	2	2.02	1	16.67					1	2.13		
33	2	1.24	1	1.12	1	1.01					1	1.77	1	2.13		
34	3	1.86	3	3.37	1	1.01					3	5.26	1	2.13		
35	1	.62	2	2.23	1	1.01					1	1.77	3	6.39		
36	1	.62	1	1.12			1	16.67	1	7.69	5	8.76				
37	1	.62			2	2.02							1	2.13		
38	3	1.86			2	2.02					2	3.54				
39	1	.62	1	1.12												
40	1	.62			1	1.01					2	3.54	1	2.13		
41			2	2.23									1	2.13		
42	1	.62	3	3.37	2	2.02					1	1.77	1	2.13		
43	2	1.24			1	1.01			1	7.69			1	2.13		
44	1	.62	1	1.12	1	1.01					1	1.77				
45	3	1.86	1	1.12	1	1.01							2	4.26		
46			1	1.12	1	1.01	1	16.67								
47	2	1.24	2	2.23	1	1.01			1	7.69						
48	2	1.24			1	1.01					1	1.77				
49			2	2.23												
50					3	3.03					4	7.00				
51〜55	4	2.48	4	4.49	2	2.02					1	1.77	4	8.52	1	11.11
56〜60	2	1.24	3	3.37	2	2.02										
61〜65					1	1.01	1	16.67							1	11.11
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
	160	100	89	100	99	100	6	100	13	100	57	100	43	100	9	100

第3表　経験年数による職人の分布

職種＼経験年数	大工		鉄筋工		左官		造作工		タイル工		電気工		衛生工		大理石工	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1	4	2.49	30	33.73					2	15.38	7	12.30	9	19.16	3	33.34
2	5	3.11	8	9.00	11	11.12					4	7.05	3	6.38		
3	10	6.22	7	7.86	7	7.07			1	7.66	4	7.05	6	12.78		
4	8	4.94	4	4.50	5	5.05			1	7.66	1	1.75	2	4.26	1	11.13
5	6	3.73	8	9.00	9	9.09			3	23.28	10	17.58	2	4.26	1	11.13
6	8	4.94	10	11.24	7	7.07			1	7.66	4	7.05	1	2.12		
7	11	6.84	4	4.50	5	5.05			2	15.38	3	5.32	2	4.26	1	11.13
8	11	6.84	2	2.24	9	9.09					1	1.71	2	4.26	1	11.13
9	6	3.73	3	3.37	5	5.05					1	1.71				
10	28	17.40	1	1.12	8	8.08	1	16.70			1	1.71	6	12.78	2	22.26
11	1	0.62			5	5.05										
12	14	8.70	1	1.12					1	7.66	1	1.71	3	6.38		
13	5	3.11	1	1.12	1	1.01	2	33.10			1	1.71				
14	4	2.49			3	3.03					1	1.71	1	2.12		
15	11	6.84	1	1.12	2	2.02					5	8.77	1	2.12		
16	1	0.62			1	1.01	1	16.70								
17	1	0.62									2	3.58				
18	3	1.86			1	1.01					1	1.71	1	2.12		
19	2	1.24			1	1.01										
20	1	0.62	1	1.12	2	2.02					2	3.42				
21																
22	1	0.62			1	1.01							1	2.12		
23					1	1.01					1	1.71	2	4.26		
24	1	0.62			2	2.02										
25	5	3.11							1	7.66			2	4.26		
26			2	2.24	1	1.01					1	1.71				
27					1	1.01							1	2.12		
28			2	2.24							1	1.71	1	2.12		
29																
30	2	1.24	2	2.24	2	2.02										
31	1	0.62														
32			1	1.12					1	7.66						
33	1	0.62			1	1.01	1	16.70			2	3.58	1	2.12		
34	2	1.24			2	2.02					2	3.58				
35	2	1.24	1	1.12												
36											1	1.71				
37	1	0.62														
38					3	3.03										
39																
40	2	1.24			1	1.01	1	16.70								
41～45					1	1.01										
46～50					1	1.01										
計	160人	100%	89人	100%	99人	100%	6人	100%	13人	100%	57人	100%	43人	100%	9人	100%

与えねばならないとあつて，それを職人，ホワマンの義務としている。もしこれに反して見習工を使用した時は10ドル以下の罰金か，ホワマンの場合1年間ホワマンになることを禁ぜられている。前述の世話役Bの場合は差当り10ドルの罰金である。まことに徹底した見習工の取扱いぶりである。

現場での見習工の使用も職人2人について1人の見習工を，それから職人10人を増すごとに見習工1人を増さねばならないと，前述のカンサス市の協約にかかれている。見習工の採用を好まぬ業者に協約によつて使用せしむると同時に，職人に対する見習工の割合をある率にとどめて，習熟の機会を多く与えている点感心せざるを得ない。

現場における職人の実態

すなわちわが建築生産に大きなウエイトを持つ職人の養成ながら，今日までほとんど関心をもたれず，むしろ放置せられてきたとさえ考えられるのであるが，現場における職人の実態は一体どうだろうか，私は新朝日ビル

の現場について，8職種477名の年令，ならびに経験年数を調べてみた。

第一表は各職別の平均年令と経験年数を表し（A—B）欄は職人のその職にはいつた年令の平均を表わす。表中造作工は年令も経験年数も最も高く，新しい者，見習工の少ないことを示し，かつ高度の技術を必要とする職種には中年よりはいり得ないことも（A—B）欄の17.5才をもつてうかがうことができる。

その他はタイルの25.6才から鉄筋の31才近い範囲にあつて，この年令は敗戦当時17.8才であつたものの年令に等しく，経験平均年数の11.7年以下であることと共に，今日現場における職人の養成は戦後なされたことをものがたつている。

職にはいる年令もほとんど17才から18才位が多い，義務教育を卒える者は16，7才故ほとんどこれに合致している。鉄筋工，大理石の据付工の25才にもなるのは，技術的に容易であり，かつ大した工具を必要としないこの職種には途中より転向してくる者の多いことを示すのではなかろうか。

第二表は年令による分布を示すのであるが，36才以上の職人の少ないことはやはり戦争の犠牲をものたるものだろうか，全職種に共通している。

アメリカでは55才以上の職人の使用を協約によつて義務づけているところがある。職人が少ないからではなく老人の失職を救うユニオンの意図であり，前述のカンサス市大工組合の協約書中には，，職人5人につき55才以上の者1人，さらに5人を増すごとに1人増すよう規定しているから，彼等の現場の大工中には55才以上の老人だけでも20%を含んでいることになる。

しかし第二表によつてわが現場には35才以上のものを計算しても，彼等の20%の前後にすぎず，この点わが現場の職人には元気がみなぎつているといえる。

第三表は経験年数による分布を示し，第二表の年令分布ではほとんど差のなかつた各職種間にかなりの優劣がある。今その二，三についてみてゆくことにしよう。

(イ) 戦前のレベルをとりもどした大工

160名の中には親方について7年の年期を卒えたものが55%近くおり，卒えていないものもほとんどは一度は親方について，大工仕事を習つたものである。戦前は兵隊検査までの約束で弟子入りしたものであるが，今ではそんなよい区切りがない上に，戦後思想的な変革もあつて，腕がたてば一年でも飛び出してゆくものが多いとのことであり，それらの技術はそれ故に決して親方についている者に劣ることもないといわれる。

経験6年以上のもの80%以上におよび，8職種中造作工につぐ優秀さであり，戦争による技術低下からもはや完全な回復をとげているのも，わが国の民家はほとんどすべて木造であり，大工を志す者はどんな田舎でも親方につくことができるからではなかろうか，その家大工が仮枠に転向する者が多いため，7年間の年期を卒えた者が161名の仮枠大工中55%の多きにのぼるのである。

(ロ) 最低レベルの鉄筋工

仮枠大工と相まつて，躯体工事に関係する職種でも，鉄筋工となると大いに違つてくる。

第三表中1年以下の経験者，いいかえれば未熟練工，すなわち見習工が33%もの多きにのぼることは仮枠大工に対する家大工のような供給源がないこと，その習熟場所が大都会に限られていることが大きな原因ではなかろうか。新朝日ビルの施工中，鉄筋の組方，継手の位置，継手碇着の寸法などに，終始注意を繰りかえしてきたのであつたが，この原稿をかくため調査した結果が，符節を合すかのように，8職種中最も程度が低いのである。

鉄筋の組立は合理的でない場合，構造体におよぼす影響は，コンクリートに豆板のある程度ではない。その重要な部門で働く鉄筋工の一群に未経験者に等しい者が33%も含まれているという事実は業界にとつて悲しむべきことである。まづ何よりも鉄筋工の養成の急務なるを痛感せざるを得ない。

(ハ) 乾式工法に救われる左官

経験年数2年組が11%を占めているのがちよつとめだつが，ここの下請は養成中の見習工を現場に配置しているための高率と思う。

左官工事などでは，仕事の種類が多く，その程度に応じた仕事があるために経験2年組の11%はさほど工事の程度，仕事の能率に影響をせぬものである。この頃のビル建築の仕上げは戦前のものとは大いに異なり，同じ左官仕上げでも漆喰がプラスターに，そのプラスターがモルタルのペンキ塗りにと，変化をしているため左官にはこの変化に適応してゆかねばならぬなやみがあり，能率の低下があるとは下請の話であるが，今後の仕上工事はますます乾式におきかえられてゆくは必至であり，左官不足はその面からも解決されてゆくのではなかろうか。

結　語

私は第一生命の混凝土を1階1階12日で打ちあげた。その当時にしては早い方で，できるかどうか心配したものであつたが，新朝日ビルでは，それに3倍するものを10日間で打ちあげている。しかも新朝日ビルは，周辺の大毎，新大阪ビル，住友ビルなど大工事の真只中で，予定通りスムースに打上げてこられたのは，各職種の技能の向上のおかげであると考える。戦後の職人の技能は低いといわれたのは5,6年前のことであり，6,7年間にわたる建築ブームが，今日の職人を養成してきた。すなわち必要が職人を養い，その技術を向上せしめてきた。ほとんどは戦前の徒弟形式によつて。そしてある一部のものを除いては戦前のレベルに近づいているのではないかと考えるのである。

（筆者　KK竹中工務店取締役）

職人の養成について

早川嘉行

近代の建築が社会の産業経済の発展に伴つて広大になり，またその種別も広範囲にわたる複雑なる関係から，これが建設に要する職域にも影響して一建築物の完成を見るまでには実に多数の設計監理上の技術者，すなわち建築士はもちろん，施工上これに従事する各労務者ならびに関係者などの日夜不断の協力が必要となっている。

建築技術者たらんとする者のためには大学その他諸学校あり，建築士，技術者として現在社会に仂いている者にはその研究に，あるいはその指導に，建築学会，日本建築協会，建築士会あるいは建設業協会その他があり，平素各部門に応じて，会員に対し学術の研鑽にあるいは実務の遂行に便なるよう講習会・雑誌の刊行によつて定期的に技術者の向上，意欲の増進に寄与し得るの道が開かれていて，社会の発展上有益なる技術指導の機関が多い。しかし一面，建築技術労務者すなわち職人に対する技術の研鑽にあるいは職能を通して，社会公共の福祉増進に貢献すべき労務技術者を養成する機関は至つて僅少であり忘れられているかのように思われる。全国を通じ各都道府県内に存在する公共職業補導所があるが，建築労務技術者を補導するものは各府県内にその数(一)(二)を数えるに過ぎず，その内容についてみても現今における労務者に対する育成機関として，その数の施設あるいは教材の内容を見ても，職責遂行上にはなお不充分であるかのように思われる。したがつて現代地方青少年者の職業技術への関心がなく，将来の職務として事務関係への職務を希望するものがほとんどであるといわれる。人口七万余を有する小都市の実例であるが，中学校卒業者中就職者についてみると，

卒業者　1,231名（就職者 405名 進学者 762名）
就職者　405名中　製造業 340名，事務関係 19名，
技術関係 1名　その他

以上は単なる1例で，いかに労務技術者を希望する青少年の僅少であるかが伺われる。また一面現在労務者の中で，将来のため職能別その技術遂行上容易に履行し得る実力の養成の指導を希望する人々の多いこともまた疑う余地がないが，現今労務者に対する社会の無理解から技術指導機関の僅少と長時間の労仂からの疲労によつて研鑽意欲の向上を防止され，技術の低下を余儀なく迫る人々の多いこともまた見逃せない世相の一端であるかのように考えられる。

すでに欧米各国では，早くから競つて技術指導に全力を集中し，イタリーのごとき少年にも技術指導を行い，あるいは濠洲「シドニー」大学内には，職業技術補導研究所などが設けられたごとく，本邦にあつても遠く奈良時代春日神社，東大寺や興福寺内には大工その他職人に対する養成部門があり，地方番匠の子弟がその技を磨くために集り，一面技術を通して社寺の力が全国に及んだということである。

とくに近代社会がその文化を達成しようとする時，その施設建設に従事する建築士との関係が必然的に重要視されると同様，その計画管理を担任する建築士と労務に従事する職人とは，建築業者を通じ交互協力かつ指導しつつ始めて建物の質の向上が容易に達成されるものと信ずる。

何事に限らず一つの目的を完徹するには各関係者の緊密な実力ある協力が必要であるが，その協力を円滑に処理遂行するがためには上下左右の連絡に携わる部門も同様に重要視される。したがつてわれわれ建築士は社会の一員である以上，職能を通して社会公共の福祉増進に寄与するためにも，建築技術の研鑽に努めるかたわら，日本建築協会のごとき建築各関係諸機関に従事する会員を有するものを中心に建築技術労務者すなわち職人の養成に相互協力し，その現代に適応した技術ならびに学課の補導を行い労仂意欲の向上を計る必要があると思われる。

人は生れながらに知識を吸収しようとする天賦の力があるが，良き環境あつて始めて育成されるものである。また人には独自特有の性能を異にするもので，これらをよく社会的に伸張発達せしむるには誠意ある「リーダーシップ」すなわち英語の「エデュケーション」「ラテン」語の「引き出す」という行為が要望される。良き育成あつて人はみづからの能力に応じた職業につき，職能を通し社会公共の福祉増進に貢献することができうる。今日われわれの求むる「職人養成」なるものは往時小説や伝説に見える彫刻師の左甚五郎や，小説幸田露伴作「五重

塔」中の大工源十郎あるいは伊豆の左官長八などのような天才的職人を求むべきものでなく，職域に応じその能力を充分発揮しうる社会性に富む責任ある職人を養成すべきことを強調せんとするものであり，かつ微力ながら従事しつつあるものである。

社会と建築技術労務者

経済安定九原則により社会の情勢が新方針にしたがい新憲法第27条によつて労働者が人たるに値する生活を営むための労働諸条件が明らかにされていることは一般の知るとおりであるが，社会一般は愚か直接利害を日夜共にする中小土建業界の一部にはなお今日旧制を辿りつつあるように思われる。とくに関心なき技術未熟による長時間の労働は心身の疲労となり，その結果能率の低下，職責の放棄すら生じ，労資ともにその害をおよぼすことがある。その原因にはいろいろあるが，理解なき建築注文者の短時日工事期間の厳命がその一つに数えられる。ことに疲労が加算されるにつけ「エネルギー」の浪費となり，過度の疲労から職人の智力体力ともに永久的に減退し技術研鑽意欲の向上をそぐものがある。北欧の一例であるが，建築労務者専用の「アパート」があり国家県市ならびに事業者共同の出資（割合は相違）により建設し，在住者も建設工事順の労務者を入居せしめ，工事工程上の連絡を計る上に便ならしめ，かつ家賃，税金高は扶養家族数に応じ低減されるがごとく，社会は労務者に対しその休養と日常生活の上にも関心が払われる状態にある。すなわち間接的に労務者の勤労意欲の低下を防止しその理解の一因を示すものである。

建築士と職人

建築士と職人とは，物質的には業者とのごとく関係がないが，工事施工にあつては，とくに密接な関係がある。とくに現今のごとく建築の多方面にわたり進歩発達にともない，設計に設備に施工に，すべてに多く技術的新知識の導入が必要視される。したがつてこれを実施に適用する場合，新材料に対する性質，経済的の使用法その他構造上の問題に対して常に寸暇，例えば雨天とか休憩時間の一部を利用し，各関係労務者と協力補導し，監理の適正を，かつ職人をしてその職能を通して意欲の向上を計つて，その進歩発達を計る事もできるし，またこれら職人の補導により，建築士の職責が全うされることもある。

近来青年技術労務者の中には篤学に志す人々があり，建築士法の発令によつて将来への独立性の確保ならびに生活意欲の向上を計り，進んで社会公共の福祉の増進に職能を通じ寄与せんと，建築士国家試験の必要学科の研修に激務の傍ら従事する人々がある。この必然的要求に対し，われわれ技術者はその指導育成に対しても協力すべきものである。あるときは厳寒の夜作業所の残り火を囲んで構造や法規の研究を行い，またあるときは休日を利用して，工事現場で実地を見学指導し，地方転勤の者には「プリント」を送付し，了解に苦しむ部分に対して質疑応答などをなし，設計製図の練習にはみづから建設した建物の製図を利用したり，あるいは課題には作成に必要な資料を添付し，研究時間の僅少な人々のための便に供するなどすべて簡易にかつ短時日に作成しうる方法とし技能の研鑽にみづから進んで努力するよう，その育成に興味を感じている。

建設業者と職人

建設業者と建築技術労務者とは，営業上にあるいは施工上にあたかも両腕のごとく密接な関係があり，とくに労務者の養成に対し平素の理解と関心とが重要視されるが，ことに中小建設業者の一部にあつては，企業の性質上職人に対する生活と技術に対する向上，指導ならびに研修に関する理解が不足勝のように感ぜられる。新時代に相応した合理的な建設には技術の実用的な社会性ある職人の養成によつて，始めてその目的が達せられ，永久の繁栄が確保される業務の拡張と，労働力の培養とを合せ考えらるべきことを願うものである。

とくにその技術の優秀にして業務に対し精励なる職人に対しては，永久にその生活の安定を確保するがごとき奨励の方法や職能の研鑽に必要な有給休暇のごとき種類の方法をもつて，後進にその道を開き労務技術者の養成に協力すべきことなど，各業者間においてもまた建設業連合会の名において定期的に実施さるべきことを要望したい。

建築関係機関と職人

幸にして本邦建築技術者指導機関は，各地各層にわたり技術者各技能の研鑽意欲の向上にその指導連絡に寄与する学会，士会あるいは協会などとがあり，専門的部門の発展に従事その万全が期せられておるが，建築技術労務者すなわち職人に対する育成指導機関としてかつ現代の情勢に相応し，積極的に社会に進出する職人を対象とする機関が皆無といつても，過言ではないように思われる。建築士に対する指導連絡の重要性とともに労務者に対するものも，また文化社会の建設途上にある今日，斯界各層有力者を会員に有する日本建築協会を中心に会員各位の協力により，建築労務者育成指導に対する月刊雑誌のごときものの刊行により，とくに地方在住の実務に従事する労務者小建設業者など，建築関係業者のためにも，平素不足勝の職能研鑽の補導育成に歩みを進め，建築労務技術者新体制の確立により，その養成を強調し，かつ要望するものである。

（筆者　伊丹建築研究所長）

大学卒業生の職業分布

巽　和夫

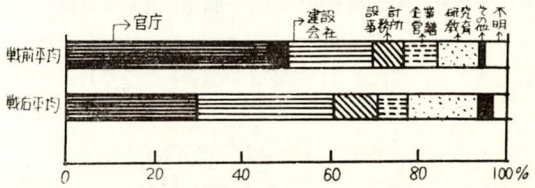
秋の深まるとともに就職戦線も活況を呈してきます。この号が発行される頃にはもう峠を越したことになるでしょうか。近年は技術革新の波にのつて工科系統の大学卒業生は引張りだこで，学科によつては学校側の売込みとは逆に，各会社側から学校へ求人に出向いてくるということもしばしばだそうです。しかし同じ工科系統でも建築科の場合あまり楽観してはおれません。昨年の〝神武景気〟に比べると今年は金融事情の悪化で，民間会社の設備投資が抑制され，また緊縮の範をたれるために官庁工事が繰延ばされるという工合に悪化しています。注文生産であり，経営の基礎も浅い建設産業は，こういう打撃が直接身に応えます。そして就職事情にも大きく影響します。しかもこの影響し工合は大学卒業生の職場分布とも関係があるわけです。話がわき道にそれてしまいましたが，私に与えられました課題，大学卒業生の職場分布を第二次大戦前と戦後の比較を中心にして考察してみようと思います。

戦前の状況

大学卒業生の職場分布は建築教育とも大いに関係があるわけですが，我国の建築教育が発生的に官庁の建築を設計し，また建築物を行政上監督する官吏の養成を目指していたことから，西洋の自由建築家養成コースとは非常に異つた日本的性格を形成してきたことは，戦前から指摘されてきたところです。大学の教育が建築のデザインの面とエンヂニアリングの面とを合わせ持つており，そういう教育を受けた人達の多くは官庁に就職しました。官庁の比率の高いという傾向はもちろん官立大学にいちじるしい特色です。明治開化当時の日本はあらゆる産業を通じて政府の保護育成によつて成長しましたが，建築もまた国家の体制を急速に整えるために政府を主たる建築主たらしめました。実際，建築家の設計監理を必要とする程の建物は政府以外にはほとんど需要がなかつたわけです。資本主義の興隆発展期を迎えて民間産業の建築需要が増加し，この方面にも建築家を必要として来ましたが，西洋的な自由建築家を存在させる基盤はきわめて浅いものでした。

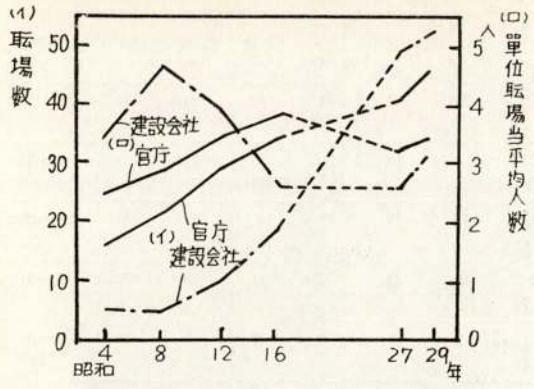
一方，建築を施工する側，建設工業はどうかというとこれまた製造工業の急速な発達に比べるとはるかに原始的，手工業的な生産形態をとつていました。技術というよりは，職人の技能，経験に頼つていました。建設工業は技術的に低かつたばかりでなく，社会的にも製造工業とは一段低い存在だというのが一般の通念でした。建設業者が製造業者と同席を許されないという不愉快な事件すらあつた程です。また当時の建設業は前近代的な経営で大企業といえども不安定なものでした。こういう状況ですから，大学出の学生は当然建設会社を職場とすることを敬遠しましたし，建設会社の方も，学士を必要としなかつたでしよう。私の先輩S氏の話によると，大正の末頃になつても学士の建設会社行きはごく僅かでかつ特殊なことのように思われていたということです。しかしその後，漸次増加し昭和に入つてからは大学卒業生の職場分布は大体安定しています。大学によつて異りますが京都大学の場合は**第1図**に示すように，官庁が約50%，建設会社が約20%，設計事務所，企業営繕がともに7～8%，研究教育が10%となつています。この比率は第二次大戦の発生によつて軍事化が進行し，官庁へ転職するものが増加するまではほぼ変つていませんから，我国官立大学の建築科卒業生の戦前における職場分布とみて差支えないでしよう。私立大学については事情が異ります。戦前に建築科のあつた私大は早稲田大学と日本大学ですが，両大学とも，私大の特色として官庁がずつと少く建設会社が高率となつています。いづれにしても，今までみてきたように，官庁の占める割合がきわめて高いこと（官大），建設会社も多いこと（私大。官大第2位）そして設計事務所が少いことは日本的な特徴であり，アメリカにおけるごとき，建築科卒業生の98%が設計事務所へ進むという実情と比較するとき，建築産業組織の構造的

第1図　戦前戦後における職場分布の変化（京都大学）



備考：(1) 戦前平均はS4年よりS18年に至る隔年現在の構成比率を平均したもの。戦後平均はS27，28，29各年現在の構成比率を平均したものである。
(2) 本図はS30.10学会近畿支部研究報告集，拙稿「建築家建築技術者の職場構成」による。

第 2 図　職場数および単位職場当平均人数（京都大学）



備考：(1) 地方出先機関，支店などは独立の職場に数えていない。
(2) 本図の出所は第1図と同じである。

な違いを考えずにはおれません。

戦後の状況

戦後，学士の就職先はかなり変りました。戦前，戦中に拡大していつた官庁機構が軍関係官庁，外地官庁の消失によつていちじるしく縮小しました。一方戦災復興の要請によつて建設業が非常な隆盛を示しました。こういう社会的な事情を反映して，職場の分布も官庁関係が減少し建設業の増加をみています。**第 1 図**でみられるように，戦後平均では官庁30%，建設業30%の同率となり，大学卒業生の過半を 2 分しています。設計事務所が戦後の経営条件の好転（市場の拡大）にもかかわらず，相変らず低いのにも注目すべきです。戦後にみられる構成比率のこのような変化は単に量的なものでなく，大学卒業生の建築生産における役割の質的な変化であると私は考えています。少しこの内容を検討してみましょう。

一つには大学自体の問題があります。戦後6・3・3・4の学制改革がなされて旧専門学校が大学に昇格して建築科を持つ大学の数は急増しました。戦前に建築科のあつた大学は，東京大学，京都大学，早稲田大学，日本大学の 4 校でしたが現在では全国に分布してその数も 3，40 校におよんでいます。それで同じく大学といつても戦前と戦後とでは，対象が随分違つているわけで，戦前と比較する場合は旧専門学校を含める必要があります。旧専門学校卒業生は大学卒業生とは異つた職場分布をしており，官庁よりも建設業が多く，官庁も地方官庁が大部分で中央官庁は僅かなものでした。戦後の大学卒業生の職場分布は丁度全般的にみてこの旧専門学校的な傾向を持つているわけです。昇格した新制大学についての職場分布においては旧専門学校時代のものを受け継いでいるといえます。戦前からの大学は先程京都大学について例をあげたように，戦前の様相とは一変して他の新制大学と同様な傾向をもつに至りました。つまり戦前官立大学の持つていた旧専門学校との格差は職場分布に関する限り消滅していると考えられましよう。そして就職難がこういう傾向を強めています。

つぎに建築関係職場の問題があります。先程官庁の分布比率が低下したと述べましたが，全官庁の職場の絶対数が減つたのではありません。**第 2 図**に示すように僅かではありますが戦前より増加しています（東京大学1.33倍，京都大学1.02倍）。しかし内訳をみるとこの増加は地方官庁の増加がいちじるしく戦前の 2 倍から 3 倍におよんでいることに原因しているのです。これは戦後における建築行政とくに住宅行政が活発化したことの反映です。戦前でも各地の旧専門学校卒業生はその所在府県市庁に大量に進出したものですが，今では大学一般の傾向になつています。建設業への進出も大いに注目すべきことです。建設業へ就職することを特殊視していた時代から比べると，官庁と肩を並べる位置にまで昇つてきた今日はまつたく隔世の感があります。これはつまり大学卒業生の果す役割が設計とか監督とかいう仕事から，施工や経営という仕事に移行したことを意味します。最近では大建設会社からばかりでなく，2 流 3 流の中小建設業者からの求人もあり大学卒業者に対するこの方面からの期待は大きいものがあります。建設業の需要は，旧来の

第 1 表　戦　前　に　お　け　る　職　場　分　布

	卒業年次	実数	構成比率 (%)									
			官庁(計)	行政	住宅	営繕	請負	設計事務所	企業営繕	研究教育	その他	不明
東大		697	42.1	10.0	3.3	28.7	18.5	8.8	6.6	10.9	3.7	9.5
	～T5	134	16.4	3.0	3.0	10.4	20.2	22.4	—	10.4	4.5	26.1
	～T15	146	43.2	11.0	5.5	26.7	15.8	10.3	11.0	12.3	3.4	4.1
	～S10	207	46.8	10.6	2.4	33.8	19.8	4.3	7.2	8.7	5.8	7.2
	～S17	210	52.8	13.3	2.9	36.6	18.1	3.2	7.1	12.4	1.4	4.8
京大	T12～S6	110	39.1				20.0	11.8	3.6	14.6	1.8	9.1
	T12～S12	196	50.0				19.9	10.2	8.7	6.6	0.5	4.1
	T12～S18	276	56.2				18.5	4.7	8.0	7.6	2.2	2.9
	T12～S27	434	30.5				29.8	10.2	7.8	13.6	2.8	5.5
	T12～S29	520	30.2				30.6	9.4	6.2	16.0	4.4	3.3

備考：(1) 東京大学については S 18年現在の全卒業年次別に区分し，京都大学については S 6，12，18，27，29各年現在の全卒業生を対象としている。
(2) 本表は学会論文報告集第54号，拙稿「建築家・建築技術者の職場構成」について (2) による。

第2表　戦後約10年間職場分布

	官庁(計)	中央官庁 行政	中央官庁 営繕	地方官庁 行政	地方官庁 営繕	請負	設計事務所	企業営繕	自営	研究教育	その他	不明	計	調査範囲
東大	202 (27.5)	49	98	38	17	212 (28.7)	75 (10.2)	39	12	94	52	25	710	S20～31
千葉大	52 (20.0)	17	24	8	3	76 (29.3)	23 (8.9)	4	13	20	50 (装備31)	21	259	S22～31
日本大	78 (16.7)	9	17	41	11	164 (24.9)	13 (2.8)	17	19	22	141	17	471	S21～26
武蔵大	39 (14.2)	6	13	20		111 (40.5)	24 (8.7)	10	22	7	11	52	276	S22～31
都立大	14 (29.8)	3	5	6		18 (38.3)	4 (8.1)	2	0	2	7	0	47	S29～31
工学院大	2	2	0	0	0	8	1	4	0	3	3 内材科1	0	21	
関東学院大	1	0	0	0	1	6	2	0	2	0	4	0	15	S31のみ
明大	(8)	(1)	(2)	(3)	(2)	(29)	(6)	(1)	(1)	(0)	(8)	(40)	(100)	S28～30
早大		(3)		(2)		(60)	(10)	(10)	(2)	(6)	(7)	(0)	(100)	
前橋短大		(0)	(0)	(25)	(20)	(20)	(2)	(5)	(13)	(0)	(15)	(0)	(100)	
福井大	52 (28.6)					78 (42.8)	3 (1.6)	15 (8.2)		15 (8.2)	11 (6.0)	8 (4.4)	182	S21～25
京都工芸繊維大	75 (30.7)					59 (24.1)	24 (9.8)	8		17	39	23	245	S21～30

備考：(1) (　) 内の数字は%を示す。
(2) 本表は建築教育研究会準備会第9回建築教育研究会資料による。

手工業的な生産形態，どんぶり勘定的な経営から脱して生産形態も経営も近代化，合理化していこうという建設業の傾向を示すもので，喜ばしいことといわねばなりません。

戦後のこのような職場構成上の変化は，大学新卒生においてとくに顕著ですが，戦前にすでに就職していた人達についてもはつきりしています。とくに終戦時を契機として再構成されました。つまりそれだけ建築の職場は安定を欠いているということです。これは重要な問題です。私の調べた所によつても，大学卒業直後就職して，その後ずつとその職場を離れずにいる人はきわめてわずかな数にすぎません。古い卒業生ほどこの傾向の強いのは当然ですが，2，3，4 回転々としている人達が多いのは職業として決して好ましいものといえないでしよう。ともあれ，こういう流動性によつて戦後の構成変化が新卒生ばかりでなく全体に波及していつたわけです。さきに質的に変化したといつたのも全構成を動かした力をみとめたことにも基づいています。

職種と建築教育

さて最後に建築の各種の職場における職種と建築教育との関係についてふれておきます。行政，設計，監理，施工，研究教育という多様な職種にたづさわる建築家・技術者の大学教育は現状では必然的に複雑な性格をもつています。デザイン，工学技術のいづれにかたよることも許されません。一方の教育が他方にも役立つといえばそれまでですが，そのどちらにも徹底した内容を盛りがたく，基礎的な学力の養成を目指すということになつてしまいます。建築教育のこの二面的な性格は実業においては昔から論ぜられてきた設計と施工の分離，不分離の難問題につらなりましよう。西洋建築輸入の明治初期よりこの方，建築の設計の権威は充分満足な地位を与えられずに今日に至つています。設計権の尊重が尊重されねばならぬことは昔も今も変りません。けれども今日ではさらに重要で複雑な課題――建築生産の生産性の向上，そのための建設産業の近代化，設計活動の改善，公共共同住宅などにおける規格化，標準化の問題などなどに直面しています。しかもこれらはデザインと工学技術との密接な協力を必要としているのです。建築教育や，建築学研究はこういう課題を前にしてそのあり方を考慮する必要に迫られているのではないでしようか。とんでもない大きな問題にまで発展してしまいましたが，これも大学卒業生の職場分布の最近の動向に関連して，建設産業の構造，建築教育の問題にまで諸兄姉の注意を促したかつたからに外ならないのです。

（筆者　京都大学建築学大学院）

17 中層アパートの各住戸の損失熱量はどれほど違うか

1. 建物について

計算例としてアパートを住宅公団の 56–4N–2K 型をとる。この建物は4階建共通階段式の壁構造の R.C. アパートで，その平面図と断面図をそれぞれ **図1** および **図2** に示す。ただし本建物の1階床は木造束建て床となつていて一般的でないので，2階以上と同様のコンクリート・転ばし根太床として計算した。

2. 計算の要項

i) 熱移動が定常状態で，各住戸とも同温に暖房するものとする。また壁体の貫流熱量の方位更正率を無視する。

ii) 設計温度は外気 0°C，室内1 8°C とする。ただし風呂・便所を除き各室は同温に暖房するものとし，押入は室内の部に入れる。

iii) 風呂および便所は換気を無視して，その室内温度を計算した。また床下の温度は室内外温度差の½を外気温に加えたものをとる。

iv) 熱伝導率および熱貫流率の数値とその計算はすべて建築学会編「住宅の保温設計」による。(註)

3. 各壁体の損失熱量計算

各壁体の損失熱量 H_n (Kcal/h) は，壁体の面積を S_n (m²)，両面の温度差を Δt(°C)，熱貫流率を K_n(Kcal/m²h °C) とすれば，次式で示される。

$$H_n = K_n S_n \quad \Delta t \qquad (1)$$

壁体両面の温度差は本例の場合 18°C であるが，中間室（本例では風呂および便所）に面する壁体では別に計算せねばならない。前項でのべたような無換気の場合には中間室の温度 t_M は次式で示される。

$$t_M = \frac{\Sigma K_t S_t t + \Sigma K_m S_m t_o}{\Sigma K_t S_t + \Sigma K_m S_m} \qquad (2)$$

ここに K_t，K_m はそれぞれ間仕切壁（室内と中間室の間）および中間室の外気側壁の熱貫流率，S_t，S_m はそれぞれ同壁の面積，t_o，t はそれぞれ室内および外気の気温である。

また床下気温は，理論的に解析するのが困難であるの

註：建築学会篇:住宅の保温設計，本年11月発行。

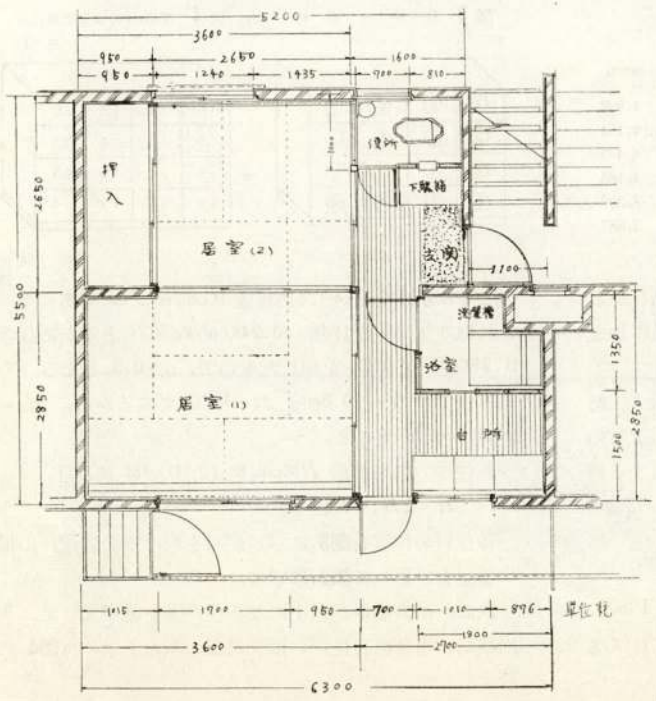


図1　公団住宅平面図・フラット型

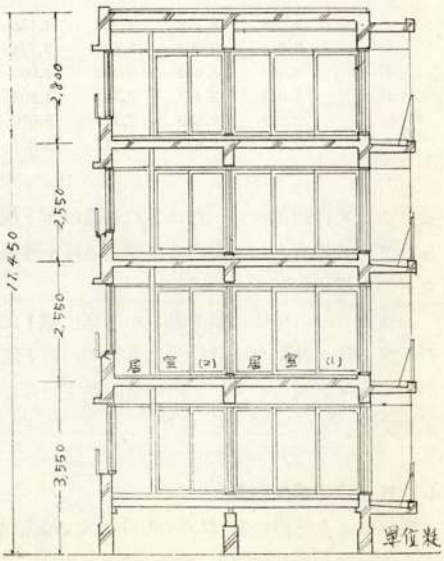


図2　断　面　図

表1　壁体の損失熱量計算表

	方位	室名	種類	材料	面積 S (m²)	温度差 Δt (°C) I階	II階	III階	熱貫流率 K (Kcal/m²h°C)	損失熱量 Hn(Kcal/h) I階	II階	III階
各階各室共通	N	居室(2)	壁	コンクリート	7.60		18		3.0		411.0	
	〃	〃	窓	ガラス窓紙障子	1.56		18		2.7		75.5	
	E	玄関	壁	コンクリート	2.76		18		3.0		149.0	
	〃	〃	扉	スチールベニヤ内張	1.44		18		4.0		103.5	
	S	台所	扉	ガラス	1.22		18		6.0		239.0	
	〃	〃	窓	ガラス	0.68		18		6.0		73.0	
	〃	〃	壁	コンクリート	5.11		18		3.0		276.0	
	S	居室(1)	窓	ガラス	2.95		18		6.0		318.0	
	〃	〃	壁	コンクリート	6.23		18		3.0		336.0	
最端	W	居室	壁	コンクリート	14.00		18		3.0		755.0	
最上階及び最下階	N	便所	壁	木造大壁	3.12	10.5	10.4	10.8	2.4	78.5	78.0	80.8
	〃	〃	戸	ベニヤ戸	0.96	10.5	10.4	10.8	2.0	20.1	19.9	20.7
	E	〃	壁	木造大壁	2.55	10.5	10.4	10.8	2.4	64.1	63.5	66.0
	S	浴室	壁	木造大壁	4.58	4.8	4.0	5.2	2.4	52.7	43.9	57.0
	E	〃	壁	木造大壁	2.25	4.8	4.0	5.2	2.4	25.9	21.6	28.0
	〃	〃	戸	板戸ガラス付	1.20	4.8	4.0	5.2	2.4	34.4	28.7	47.3
	N	〃	壁	コンクリート	1.83	4.8	4.0	5.2	3.0	26.3	21.9	28.6
		居室	床	タタミ敷	19.80	12			0.7	166.0*		
		台所	床	板張	6.75	12			1.5	121.0*		
		玄関	床	コンクリート	1.15	12			3.1	42.6*		
		天井・屋根		コンクリートボード	27.70			18	1.4			695.0**

*の数値には 0.8 をかけ，**には 1.2 をかける。

表2　換気回数別各住戸の損失熱量 (Kcal/h)

住戸	住戸の損失熱量 (Kcal/h) $n=0$	$n=2$	$n=3$	$n=4$	$n=6$
①	3,798	4,178	4,368	4,558	4,938
②	3,014	3,394	3,584	3,774	4,154
③	3,302	3,682	3,872	4,062	4,442
④	3,043	3,423	3,613	3,803	4,183
⑤	2,259	2,639	2,829	3,019	3,399
⑥	2,547	2,927	3,117	3,307	3,687

図3　住戸の番号

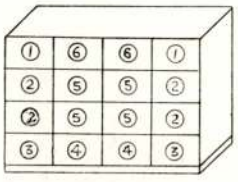
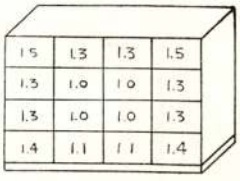


図4　各住戸の損失熱量比率 ($n=3$)



で，ここでは前項にのべたように普通の床下換気孔がとられている場合として室内外温度差の½を外気温に加えたものを採用した。

以上より，各壁体の損失熱量を計算し**表1**に示す。ただし最上階天井よりの熱損失は2割増，最下階床よりの熱損失は2割減として，室内の垂直温度分布に対する補正をする。

4. 各住戸の損失熱量

換気による熱損失量 H_a(Kcal/h) は室の気積を V(m³)，室内外温度差を Δt(°C)，換気回数を n(/h) とすれば次式で示される。

$$H_a = qnV\ \Delta t \qquad (3)$$

ここに q は空気1m³の熱容量 (Kcal/m³.°C) であつて，これは空気の定圧比熱 (0.24Kcal/Kg°C) と空気の比重 (1.29Kg/m³, 0°C) を乗じたもので，$q \fallingdotseq 0.3$ となる。

本例では $V=70.8$m³, $\Delta t=18$°C であるから，$H_a = n190$(Kcal/h) となる。

各住戸の損失熱量 H(Kcal/h) は (1), (3) 式より

$$H = \Sigma H_n + H_a$$

各住戸の位置を**図3.**に示し記号を附ける。各住戸の損失熱量を計算して**表2.**に示す。

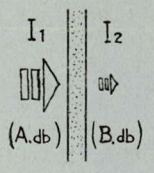
次に，損失熱量が最小になる住戸⑤を基準として，3回換気の場合に各住戸の損失熱量の割合を求めて**図4.**に示す。

(1957—12　関西設備原論研究会　上林　博雄)

18 壁体遮音の重量則とは何か

1. 透過損失 (T.L)

壁体の遮音能力は一般に透過損失 (Transmission Loss) で表わされる。今壁体の一方から入射する音の強さ（エネルギー）を I_1 とし，他方へ透過する音の強さを I_2 とすると，透過損失 (T.L) は



図−1

$$T.L = 10 \log_{10} \frac{I_1}{I_2} \text{ (db)} \qquad (1)$$

で定義される。ここで I_1 を A デシベル (db)，I_2 を B (db) で表わすと $T.L = A - B$ (db) となるから，例えば 80 (db) の入射音が透過損失30 (db) の壁にぶつかると，透過音は50 (db) になる。

この透過損失の値は材料により，また同じ材料でも音の周波数によつて異るものである。

2. 透過損失と壁体の重量

2.1 理論による重量則

理論的に，壁の単位面積当りの重量が m(kg/m²)であれば，周波数 f(c/s) の音に対する透過損失は近似として

$$T.L \fallingdotseq 10 \log_{10} \left\{ 1 + \left(\frac{\pi f m}{\rho c} \right)^2 \right\}$$

$$\fallingdotseq 20 \log_{10} m + 20 \log_{10} f - 43 \qquad \text{(db)} \qquad (2)$$

ただし　$\rho = 1.2$(kg/m³)，空気の密度

$c = 340$(m/s)，空気中の音の伝播速度

で表わされる。ここである周波数，または周波数範囲を限つて考えると，透過損失 T.L は壁の重量 m によつて変化することになるが，この T.L と m の関係を表わすのが壁体遮音の重量則である。(2) 式によれば mを２倍にすると，T.L はもとの値より 6 db 増加することがわかる。

ところがこの式を導くには，つぎのように単純化した仮定がおかれていることを注意せねばならない。

仮定 1) 壁の材料は気密で，均一な材質でできている。

2) 壁の広さは無限大で，厚さが非常に薄く入射音と同じ振動数で一板の膜のように振動する。

3) 入射する音は平面波で，壁面に直角にぶつかる。

現実にはこの三つの条件がいづれも満足されないのが普通で，そのため (2) 式の値より低くなるものである。

2.2 実験による遮音の重量則

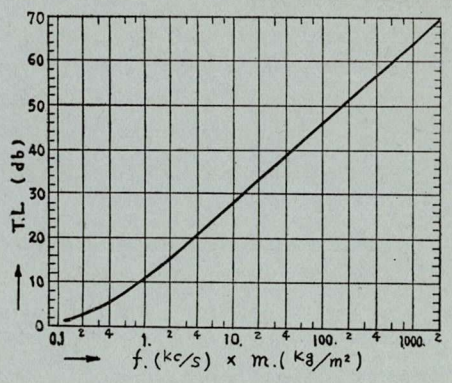
実際の壁は非常に複雑な振動をするので，実験値が相当ちらばり，多くの実験公式が発表されている。

i) Berger [1] によれば

$$T.L = 18 \log m + 12 \log f - 25 \text{ (db)} \qquad (3)$$

であり，mが２倍になれば T.L は 5.4db 増加する。

ii) Beranek [2] は，音があらゆる方向から壁面に入射する場合の実験から，図−2 の関係を示している。これも m が２倍になれば，T.L が 5.4db 増加する。



図−2　Beranek の実験による。f はキロサイクル

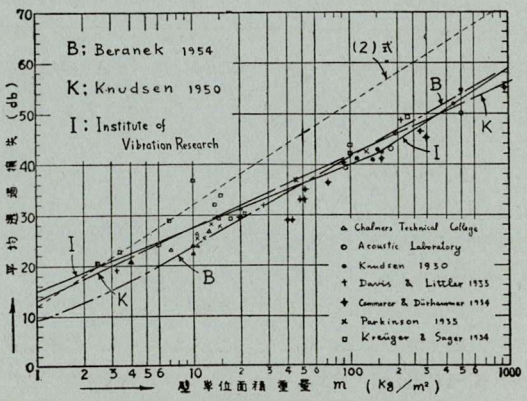
iii) Ingerslev [3] は周波数 100〜3,000(c/s)の範囲の平均値として　$m < 200$(kg/m²) の場合

$$T.L = 12.5 \log m + 15 \text{ (db)} \qquad (4)$$

すなわち，mが２倍になると T.L が 3.8db 増加する関係を示し，$m > 200$(kg/m²) の重い壁に対しては

$$T.L = 20 \log m - 1 \text{ (db)} \qquad (5)$$

すなわち，mが２倍になると T.L が 6db 増加する関係を示している。これは 図−3 I曲線となる。



図−3　平均透過損失，曲線 K のみ 128〜2,048 (c/s) の平均，他は100〜3,000 (c/s) の平均，各点は実験値

iv) Knudsen[4]は諸家の実験から，fが128～2,048(c/s)の範囲の平均として，**図-3** K曲線を示しており，これを式で表わすと

$$T.L = 14.3 \log m + 13 \quad (db) \qquad (6)$$

となる。これはmが2倍になると，T.Lが4.3db増加する関係である。

なお，**図-3** B曲線は図-2の値から100～3,000(c/s)の平均をとつて比較したものである。

以上のごとく実験公式は少しづつ違つているが，いづれも実験値のちらばりによるもので，mが2倍になればT.Lは理論式による6dbよりは少く，4～5db増大するものと考えてよかろう。これが実際の壁体遮音の重量則である。

3. 透過損失と音の周波数

以上壁体の重量のみを考えたが，壁の透過損失は(2)式も示すように周波数fにも関係している。したがつてT.Lの周波数に対する性質をよく理解しておく必要がある。

今一つの壁体で重量mがきまれば，T.Lは周波数fによつて変化し，(2)式でfが2倍になるとT.Lは6db増加することになる。これは前記の仮定から導かれているために現実の状態ではない。実際には壁が板振動をするとき，その大きさ，重量，材料，壁厚l(m)，周辺の条件などできまる固有振動数f_0(c/s)を持つている。また壁厚が薄くなければ，壁体内を伝播する固体音の波長λ_1(m)の影響も考えなければならない。これらを考慮して理論式を導くと[5]

$$T.L \fallingdotseq 10 \log_{10}\left[1+\left(\frac{\rho_1 c_1}{2\rho c}\right)^2\left\{1-\left(\frac{f_0}{f}\right)^2\right\}\sin^2\left(\frac{2\pi}{\lambda_1}l\right)\right] \quad (db) \qquad (7)$$

ただし　ρ_1：壁体の密度 (kg/m³)

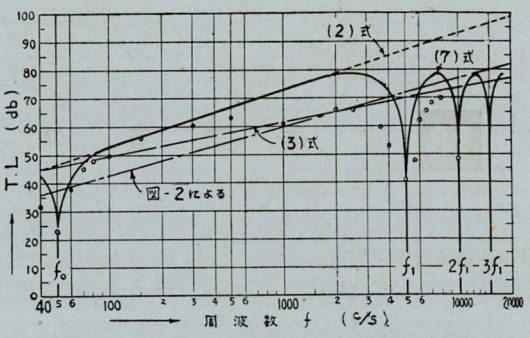
c_1：壁体内固体音の伝播速度 (m/s)

$\therefore\ \lambda_1 = \frac{c_1}{f}$：壁体内固体音の波長 (m)

これによると，音の周波数fが壁の固有振動数f_0に一致すると，$T.L = 10\log[1] = 0$となる。すなわちf_0と同じ周波数の音は，まつたく遮音できないということである。またsinの項があるから$(2\pi l/\lambda_1)$がπの整数倍のとき，やはりT.L=0となる。これは壁厚lが丁度$\lambda_1/2$に当る周波数

$$f_1 = c_1/\lambda_1 = c_1/2l \quad (c/s) \qquad (8)$$

のとき，および$2f_1$，$3f_1$，……，のときに壁の遮音能力が無くなることである。〔また(2)式は(7)式において$f_0 \to 0$，$\sin^2(2\pi l/\lambda_1) \to (2\pi l/\lambda_1)^2$ とした特殊の場合であることがわかる。〕実際には抵抗による壁の内部損失などがあつて，これらの周波数でT.Lが0になることはないが，非常に減少し**図-4**の実験例[5]のごとく，T.Lの周波数曲線に谷を生じる。図-4には参考のため(3)式および図-2によつて得た直線をいれた。



図—4　コンクリート壁，巾5m，高2.7m，厚l=27cm，の実験値(○点)。曲線はρ_1=2,300 (kg/m³) c_1=2,700 (m/s)として各式を計算。f_0=50 (c/s)は実験により定められた。

4. 透過損失と壁の厚さ

T.Lを大きくするためには重量則からmを大きくすればよい。同じ材料では当然壁を厚くすることになる。ところが壁が板振動をするときの固有振動数は周辺支持として[6]

$$f_r = \left(\frac{q_1^2}{a^2}+\frac{q_2^2}{b^2}\right)\sqrt{\frac{\pi^2 E l^3}{48m(1-\sigma^2)}} \quad (c/s) \qquad (9)$$

ただし壁の大きさ$(a \times b)$，q_1，q_2：整数で$q_1=q_2=1$.の場合がf_0に相当する。E；壁材料のヤング率，σ；同ポアソン比

で表されるから，ほかのものが同じなら壁厚lに正比例してf_0が高くなることがわかる。〔q_1，q_2が2以上の値をとるに従つて固有振動数は高くなり無数に存在している。これがT.Lの実験値が理論値より低くなる原因の一つと考えられている。[1]〕

また一方，(8)式により壁が厚くなればf_1は低くなり同時に**図—4**で谷を生じる$2f_1$，$3f_1$，……，は間隔が狭く数多くならぶことになる。f_0の谷も高い方に移動するから，重要な周波数範囲でT.Lを低下させる結果となり，重量則のみで考えられるような大きな値は期待できなくなる。従つて壁厚を増加してT.Lを増大させる方法には限度があるといえよう。普通にはそれほど厚い壁を用いることはなく，f_1，$2f_1$…… の低下も支障のない程度のことが多いが，遮音を要する音の周波数が低い場合は，壁のf_0をその周波数から遠ざけるよう充分注意することが大切である。

---

1) Brüel "Sound Insulation and Room Acoustics" P.140 (1951)
2) Beranek "Acoustics" P.328 (1954)
3) Ingerslev "Acoustics in Modern Building Practice" P.198 (1952)
4) Knudsen & Harris "Acoustical Designing in Architecture" P.230 (1950)
5) 川島定雄 "壁体の遮音に就いて" 建，論，17.112 (昭15)
6) たとえば松平精 "基礎振動学" P.267 (昭25.共立) その他

(1957—12　関西設備原論研究会　前川　純一)

投稿歓迎

かいいんの声

「会員の声」欄にどしどし御投稿下さい。自由な討論の場として御利用下さい。内容は自由。字数は 400字～1,000字。

住宅施策評論に一言

住宅政策に関するいろいろの施策については，も早や耳新しいものもないほどに全く「出つくした」の感がある。借家組合会長さんのつきつめた現実論から，赤い論客の革命的理想論にいたるまで枚挙するにいとまもないほどである。しかしわれわれはここで注意しなければならないことは，それらの現実論にしても理想論にしても住宅政策の本質と限界を……さらに住宅そのものの人生あるいは社会に占める位置を……客観的に知ることを忘れてはいないだろうかということである。現代人は職業人である。人は各々職業をもつが故に何事についても，その職業という立場からはなれることはまずできない。家主は金もうけのために借家を考え，都合のよい法律をのぞみ，学者は研究の一データーとしてその研究業績をつみかさねてゆく。しかし住宅問題の解決それ自身はそのような個々の願望や努力や見とほしとは別のものである。もちろん，われわれは各分野における真しな努力は大いに意味のあることで，私はその非力をことさらにことあげするようなことは毫も思つてもいない。住宅行政の末端にたずさわる私自身もこれを天職と心得ているのである。であるにもかかわらず住宅問題に注がれる努力とその住宅問題の解決とは別である。

住宅政策は他の政策全般の中での一節であり，けつして住宅政策が他の重要政策をリードするものではないし，個々の生活においても住宅はなるほど快適であるのにこしたことはないが，それに支出される家賃は収入によつて絶対的に決定される。生活様式においても社会の客観的段階がそれを定めるのであり，いかに天才的建築家といえどもその新しいスタイルを頭の中から生み出すのではなくて，その客観的な可能性の中から一つの組合せを取り出すにすぎないのである。さらにいうならば，そのような組合せにその天才が必要なのであり，住宅の客観的段階と現実とのずれをなくすること，あるいはちぢめることにこそ住宅建築家としての真剣な職業の場があるのである。そこには不断の勉強による客観状勢の把握と将来への深い洞察と積極的な意欲が必須である。

そして住宅施策の立案なり遂行の前に横たわる障害はそれをぶつこわすのでなしにそれを避けてできるだけ前へしんとうしてゆくのである。あるいは悪施策への進路に障害をもうけることによつてその進路を望ましい方向へ変えさすのである。

資金や労力を大きく注げばその障害がのぞかれるというのではない。量と質とは別な問題で，社会の客観的段階が別なものになればそのときはあるいは住宅施策はその障害をつきやぶる質に改変するかも知れないけれども。

そこでわれわれは「住宅問題を解決するには」なんてきついことはいわずに，現下の住宅問題を少しでも緩和するということのために各人がその職場で協力するにはどうすればよいかということに共通の足場をもてば，住宅を語る際にその立場々々にもかかわらずその結論は非常に接近するのではなかろうか。

（正会員　大阪府住宅建設課　**山地英雄**）

本誌の表紙デザインに寄せて

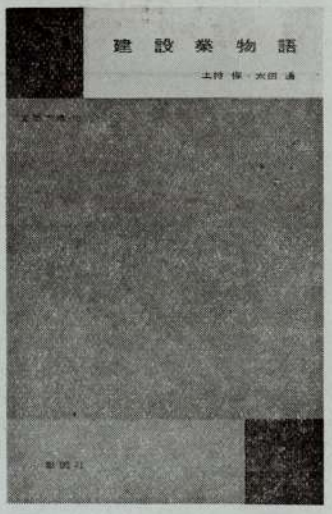
最近本誌の面目はたしかに一新しました。表紙デザインがこれに一役買つていることは事実です。以前のようなナゲヤリな貧寒なものとちがい毎号々々新しい線をねらつた意欲的な試みが表紙をゆたかに生き生きとしたものにしています。色彩一つを例にとつて見ても各号とりどりにアザヤカなものとなつてきています。だが私がここで指テキしたいのは，こうしたデザイン意欲のオーセイさがかえつて一つの欠陥をみちびいているということです。それは要するに，少くとも雑誌と名のつくものには基本的に要求されるべき表紙のデザインの一貫性が欠けてしまい，各号バラバラの趣好をこらしているように見えることです。一年12カ月各号の表紙デザインは，たとえていえば，同じ人間にそれぞれ別々のジヤケツを着せるようなものでしよう。ところが本誌はむしろ反対に別々の人間にそれぞれ勝手な好みのジヤケツを着せているというわけです。「建築雑誌」の表紙のような「着のみ着のまま」の味気なさも困りますが，さりとてこう前後の見さかいもなしに突ピな衣裳を着せるのもどうかと思います。これでは「建築と社会」というレッキとした雑誌の個性＝かおの方が喪われてしまいます。だがこの原因は着せる衣裳の多様性にあるだけではありません。「建築と社会」という誌名の文字の表紙面での扱い方にも問題があります。文字はまず何よりもある程度の大きさと，マッスによつて表紙のスペースの一画にデンと腰をすえ，その存在を十分明かにしていてほしいものです。ところが本誌の場合この文字はかつてはそれほど貧弱でなかつたのが年を追うて次第に縮んで行くとともに肉もだんだん薄くなり，本年に入るや全く見るかげもないものとなつてしまつています。これは，もはや「表紙」用の文字というよりはむしろ「扉」に用うべき文字といえましよう。だが問題はこだけに止りません。本誌の表紙における誌名の文字は上記のような「大きさ」をふくめて全体として，そのスタイルがほとんど毎年ネコの眼のように変つてきていますが，これはまことにどうかと思われます。こうした文字のスタイルはちようど商標や商標文字と同じ性質のもので決してみだりに変えるべきではありません。このことは今日一流の大雑誌がこうした文字のスタイルを戦前のままに踏襲している事実を見てもわかるでしよう。一般にあらゆるデザイれンの根本は，たえず易り行くもの（流行性）と，変らざるもの（伝統性）とを微妙な調和関係に置こうしとするところに発するのではないでようか。　57.10.17

（正会員 京都美術大学助教授 **向井正也**）

書　評

「建設業物語」

土持保・太田通共著
彰国社発行 建築文庫15 P.168 ¥170



「短軀・赤ら顔の鼻の下にひげを貯え，毛虫眉毛にいかり肩，それでニッカーにハンチングという出でたちで．おまけに胸高に金鎖を張りめぐらしている。することが粗野で．成金趣味で．金使いが荒い……」こうした最近までの世間のいわゆる土建屋に対する認識から始まり．建設業者の生い立ちから．明治・大正・昭和と各時代における業界の発達を辿り．戦後に起つた新しい諸問題にまで触れて稿を閉じている。

明治維新．文明開化とともに急速に産業界にデビューした建設業は．鉄道の布設に．新政府の樹立による官衛や兵舎の建設に．また民間における一流商社や銀行の建築によつて．まず順調なスタートを切つた。その後．戦争の度び毎に大きく飛躍を続けた経過を述べ．組合の結成およびその発達史を説きながら．その間における業界の地位の向上や入札制度の今昔などを語つている。

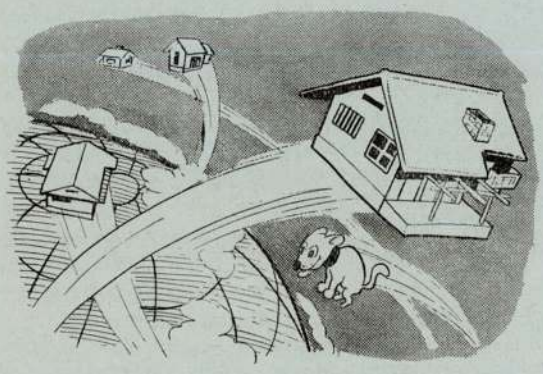
前後2編に別れ．前編は土持氏の受持つところで　上記発達史の外に丹那トンネルの逸話などを交え．今後に役立つであろう貴重な資料を提供しつつ．しかも肩のこらない読みやすいものに纏めている。後編は太田氏の遺稿で前編よりは．やや重みを増し．記録を基にして若干の考証が加えられたものになつている。一つの論文のために準備しかけた資料が．この遺稿となつたものであろうが．それだけに．これが完結されずに終つたことは残念である。

建設業の発達は明治初年以来のことであつて．それが．ついこの間始まつたばかりであるために．かえつて纏つた文献は少い。しかし．その殆んど初めからのことを記憶している業界の長老が今なお健在である。口で話されることは何か文献になつているものよりも軽んぜられることがあるが．この場合はそれが体験から生み出されているものだけに正確無比のものである。古事記が日本の歴史の記録として最初のものであるように．この種口述を十分取り入れた書き物は将来重要な資料になることは疑いない。

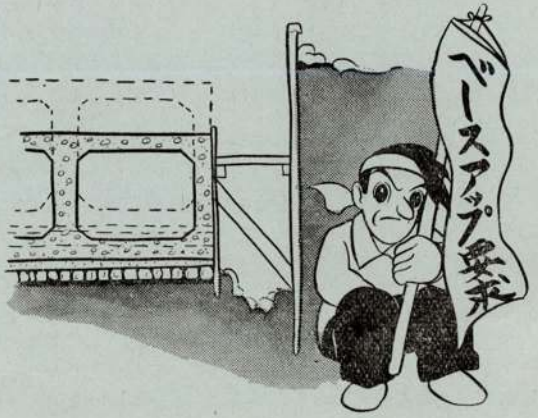
戦後．近代産業として．さらに一段の脱皮と飛躍をしなければならない建設業．その過去の実態を要領よく．かつ気軽にとりまとめたものとして．業界人へは自己反省と将来への発展の足がかりを供するとともに一般の読者へは業界のありのままの姿を具体的に興味深く認識させることに役立つものであろう。

（KK松村組　政岡　基次）

建築漫画　山口ゆうこう



衛星住宅「土地代不要」



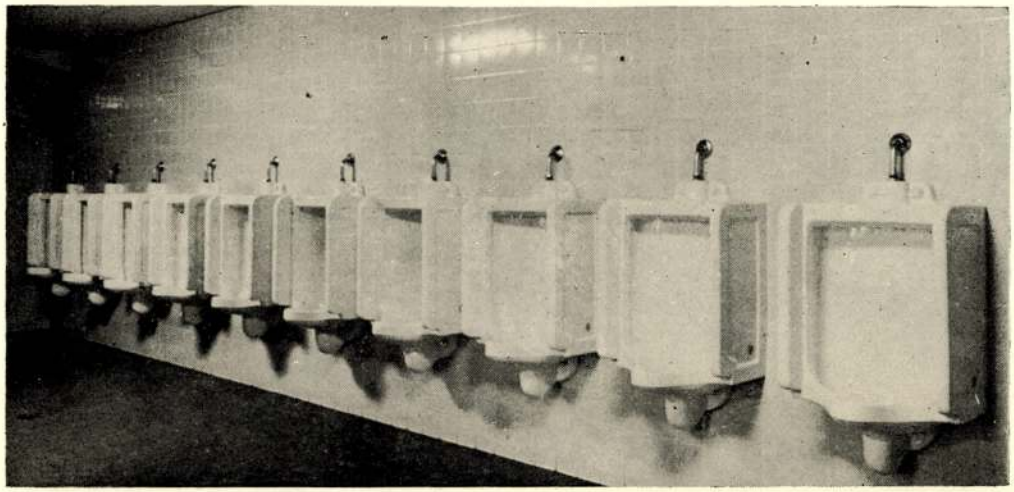
ベース
スト「オイオイ，基礎が図面より30センチ低いぞ」

最高の品質・最大の生産を誇る！

伊奈の
タイル・衛生陶器

Inaseito 印 附属金具

伊奈の鳩印衛生陶器には Inaseito 印附属金具をセットで御利用下さいます様おすゝめ申上げます。



本誌で見たと御報知次第カタログ進呈

IS 伊奈製陶株式會社

本社及工場　愛知県常滑市扇面新田　電話常滑(代表)700
東京事務所　中央区西八丁堀2－8　電話築地㊺5261・5262

一枚一枚が最高級の規格品！

ブライト クラウンタイル



本社製品を御採用頂いた帝國ホテル新館

帝国ホテル、東京国際空港ビル、合同庁舎、鉄道会館、殆んどの全国郵便局、電話局等国内外の多数のビルの内装又は外装にはクラウンタイルを多量に御使用戴き大変好評を得て居ります。

六ツの魅力

1. **モダンなカラー** 絶対にムラのない、上品で美しい、ハーモニーカラーで48色も用意しております。
2. **完全なブライト** ブライト(光沢品)はマット（艶無し）に比べて張り上りが優美で清潔感に溢れ、汚濁せず技術的にも完全焼成品です。
3. **衛生的で耐久性** 何時までも衛生的で、半磁器ですからクラック、剝裂はありません。
4. **容易な施工** 寸法は機械施工のため正確で，素晴らしく早く仕上ります。
5. **薬品には不浸蝕** 特に耐酸、耐アルカリ性に優れております。
6. **納期の正確** 本邦最大の月産100,000ヘーベに達する生産量は、如何なる御需要にも短期に正しく納入出来ます。

詳細は国内全域にある特約店、販売店又は直接会社に御照会下さい。

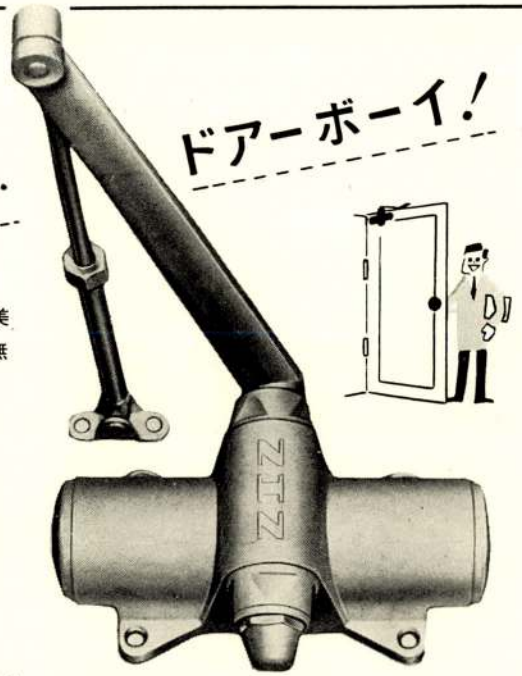
上山製陶所

多治見市上山町
TEL 2151～5

NHN

あなたの忠実な…

ドアーボーイ！



型状優美
故障絶無

日・米・英・独、各国特許

ニッカナ ドアーチエック

日本金具製作所

製造元 ダイハツ工業株式會社

会 合 便 り（10月分）

臨時総会

24日　4時——4時半　　於会館集会室

出席者　竹腰会長．中西監事外13名．委任状401名

議　事　(1)　定款変更の件

(2)　昭和31年度中（1月—3月）事業報告の件

(3)　昭和31年度決算承認の件

(4)　昭和32年度予算承認の件

以上．各議事とも原案の通り承認議決された。

臨時評議員会

24日　3時——4時　　於会館集会室

出席者　奥島副議長外７名．委任状42名

議　事　(1)　定款変更の件

(2)　昭和31年度中（1月—3月）事業報告の件

(3)　昭和31年度決算報告の件

(4)　常務理事重任承認の件

奥島副議長が議長となつて審議し．各議事とも原案の通り承認議決された。

理　事　会

10日　2時——3時　　於会館会議室

出席者　竹腰会長外11理事　　事務局2名

議　事　(1)左官工事講習会開催の件　(2)名古屋市に於て講演会開催の件　(3)学会主催講習会後援の件　(4)台湾省建築技師公会赴日参観団歓迎の件　以上審議の上．何れも実施のことに決議した。(5)入退会者詮衡の件　(6)報告事項

事業委員会

7日　5時——6時　　於南区松山旅館

出席者　鷲尾委員長．岩崎副委員長外11委員　事務局2名

議　事　(1)10月事業について　予定の通り実施を決定。(2)11月の事業企画　建材工場の見学会を予定した。(3)忘年懇親会について　小委員会に於て検討することとしてその主査を委嘱。(4)その他。(5)報告事項。審議終了後．山本委員作成の沖縄の米軍工事及び風物のカラースライドを鑑賞し．委員懇親会を催した。

教育委員会

設備講習会準備懇談会

9日　3時——5時　　於会館会議室

出席者　竹内委員長外小委員4氏　招待者石黒氏外8氏　　事務局2名

設備工事講習会の企画検討の参考とするため．講習の対象となるクラスの人々に参集を願つて．本講習会の実施に関しての意見や希望を聞いた。

設備講習会小委員会

23日　3時半——4時半　　於会館会議室

出席者　浅田主査外3委員　　事務局1名

先日の懇談会の結果について意見を交換し協議の結果．更に講師予定者の意見を聞くこととし．その候補者として．管工事に須賀工業の三村氏．電気工事に近畿電気工事の真砂野氏を推薦した。

工高生設計コンクール審査会

19日　2時半——6時半　　於会館会議室

出席者　鳥田審査委員長外5審査員　教育小委員浅田主査．乾委員　事務局2名

北海道から九州に至る全国に亘つての応募25校69点を審査して．入選10点．準入選３点を決定した。

出版委員会

床工事塗り物分科会懇談会

東洋レーヨンのナイロン絨氈・緞通
モケツト・レツプ
室内装飾設計施工
代理店
美工装飾株式会社
代表取締役　小早川美武
大阪市西成区姫松通１の30　電話㊿2564

強くて優雅な
リグノイド床
テックス
フローリング
気光式通風器
責任施工
田辺工業株式会社
大阪市西区江戸堀上通一丁目五　電話土佐堀㊹7437～9

4日　2時半——5時半　　於会館集会室
出席者　竹内主査外6委員　招待者 森畑左官組合理事長外3氏　　事務局1名

床仕上工事のうち左官工事に関するものについて話を聞くため．左官業者を招いて懇談会を開催し．委員との間に質疑応答意見の交換が行われた。

災害委員会

鉄骨計算便覧小委員会

11日　5時半——7時半　　於会館会議室
出席者　馬場委員長外6委員　　事務局1名

実際に役立つ鉄骨の計算便覧を編集発刊して説明会を開催するとともに．主として地方の構造関係実務家の参考書とすることを企画し．これに取り上げる項目について検討協議を重ねた。

31日　3時半——5時　　於会館集会室
出席者　馬場委員長外3委員　　事務局2名

前回一応決定した内容の項目について再検討を加えてこれを整理し．各項目の執筆依頼者を選定した。なお書名．発刊予定日などについても協議決定した。

編集委員会

12日　2時—4時　　於会館会議室
出席者　佐野委員長外3委員　　事務局3名

議　事　(1)11月「建材特集」号経過報告。(2)12月「建築生産」号経過報告。(3)正月「関西の建築」特集号の報告及び追加企画の決定。(4)2月「構造」特集号の企画次回幹事会に於て企画することとし．横尾．鬼武の両氏に出席をお願いすることに決定。(5)その他　広告改善小委員会の結果報告その他。

広告改善小委員会

10日　3時——5時　　於会館会議室
出席者　佐野委員長外3委員　　事務局5名

編集委員と事業委員会及び建材協会からの出席委員に事務局広告関係者も加わつて協議した。広告が一層会員へのサービスとなるよう．読者の利用できる広告内容に改善することについて．カタログの挿入．広告デザイン．記載事項の改善などについて意見の交換を行つた。

法規委員会

14日　3時半——5時　　於会館会議室
出席者　恒岡委員長外7委員　　事務局1名

建築基準法の改正に関して建設省から提示された問題点について逐次意見の交換を行い．確認及び検査に関するもの5項目について意見の取纏めをした。

名簿委員会

19日　5時半——7時半　　於会館談話室
出席者　谷口主査外4委員　　事務局3名

経過報告の後．名簿表紙のデザイン．業者案内欄の業種区分などについて更に検討審議した。

若い会員の集い

17日　6時——8時　　於会館談話室

第4回の集会を開催。出席者14名で．ゲストとして竹中工務店の中出定夫氏を招き．鷲尾委員長も特に出席された。「土と基礎のあれこれ」をテーマとして．中出氏の永年の経験による興味深い談話を中心に．出席者一同自由に話し合つた。

講　演　会

建築技術者のための原子力講座

12日　1時——5時　　於大阪建設会館

東海村原子力研究所の建設．原子力発電会社の設立と原子力関係建築の建設機運増進に伴い．建築家としてもこれに重大な関心を持たねばならぬ時節が来た。本会では右に鑑みて下記の講演会を開催した。

原子力について　　阪大教授理博　浅田常三郎氏
原子力と建築技術について　　京大教授工博　横尾　義貫氏
原子力建築の施工について　　大林組研究室長　菅田　豊重氏
映　画（英国総領事館提供）
コールダー・ホール建設　イーストマンカラー
英国の原子力発電の発展　　同　　上

浅田博士は．原子力の理論よりは．その応用面について語られ．なかなか興味のあるお話であつた。横尾博士

杭
株式会社　武智工務所
取締役社長　福留並喜
大阪市西区西長堀北通四丁目一〇細野ビル三六号
電話新町㊾九九五〜九九八

間仕切天井・
には軽量鉄骨
・軽量鉄骨
は日進式を御
採用下さい・
耐震・耐火・軽量・堅牢
防錆完全・中空防音
合理的工法・責任施工
株式会社　奥村重兵衛商店
大阪市北区木幡町五六番地
電話北㉞四一三一〜四

は今夏欧米を廻られ．特に米国における原子力関係の建築を主として視察され最近に帰朝されたもので．スライドを使用して最新の技術につき述べられた。菅田氏もまた今春米国の原子力建築について視察研究のうえ帰朝されたもので．その施工関係の講演は大変参考になるものであつた。当日の聴衆は約70名で予期より淋しかつたのは残念であつたが．それだけまた熱心な聴衆で．遠く名古屋・京都からの参会者があつた。

講　習　会

現場管理実務講習会

本月は引き続き下記の講習を行つた。

10月 1日 4日	機械器具．工具類の管理	竹中工務店　楠瀬　泰雄氏
8日10日	石工事．タイル工事の施工と管理	藤木工務店　矢野　豊作氏
15日18日	材料の検収とその管理	鴻池組　土屋　史郎氏
22日25日	鉄筋コンクリート工事．鉄骨工事．防水工事の施工と管理	清水建設　鬼頭　寿郎氏
29日 11月1日	木工事．屋根工事．金属工事．雑工事の施工と管理	鹿島建設　岩下　久哉氏

鉄筋コンクリート技能講座

毎年開催の本講習会も．本年は第4回を算えることとなり．広く当地方の初等技術者に期待を持たれるに到つた。今回も申込者は予定数を超えて105名に上り．下記の通り講習を行つた。

会場　大阪建設会館　6時——8時

10月14日	材　料	都島工高教諭　益尾　辰雄氏
16日	試験法	阪大教授工博　奥島　正一氏
18日	水，混和剤，調合	大林組　谷口　尚武氏
21日	工　法	大林組　寺沢　一夫氏
23日	工　法	清水建設　金子　豊氏
25日	特殊工法	竹中工務店　中出　定夫氏

実習　28日 29日 30日（各人1日のみ）
於大阪生コンクリートK.K.佃工場

見　学　会

南海会館見学会

15日　2時——4時　　参加者 135名

坂倉準三建築研究所の設計．清水建設施工で．鉄筋コンクリート造．地下2階．地上8階．総延坪約15,000坪に近い大建築である。建物は．南海電鉄事務室．高島屋．劇場3館の3ブロックに分れているが．外部仕上に陶管ブロックが多数使用されているのが珍しい。黒．黄を主とした色調で．各所仕上も簡素であるが仲々立派であり．5階の結婚式場は大変華やかなうちにも落着いた感を受けた。近来暫くなかつた大建築の見学会であつた。

毎日会館基礎電気固結工法見学会

18日　3時——4時半　　参加者 103名

建築工事には前例の少い地盤の電気固結工法の見学会であるが．現場は一時的短時間の視察では充分に状況を知り難い憾があるも．先ず日建設計工務の宮川技師から当現場における同工法の施設並びに経過について詳細説明を受け．大林組係員の案内により地下の現場に赴いて施設の状況を見学した。なお現場に於ても係員から詳細な説明を聞くと共に質疑応答が交わされて．実例の少い工法のこととて大変参考になつた見学会であつた。

離宮見学会

恒例による離宮見学会を下記の通り行つた。

桂離宮見学会			修学院離宮見学会		
10月29日	11時	10名	10月30日	9時	19名
30日	〃	10〃	31日	〃	11〃
31日	〃	10〃	11月 2日	〃	7〃
11月 1日	1時半	10〃	4日	〃	11〃
2日	11時	10〃	4日	〃	10〃



午　餐　会

10日　11時半——1時半　　於会館集会室

10日は会館の開館1周年の日に当り．また元理事の京大横尾教授が欧米視察の旅から最近に帰られたので歓迎を兼ねて．狭くはあるが会館4階集会室で記念の午餐会を開催した。竹腰会長が用務で少し遅れられるので．定刻東畑副会長が．会館設立についての関係者の協力に対する謝辞と会館の利用状況を述べ．開館記念と横尾教授の帰朝歓迎を兼ねて午餐会開催の旨の挨拶をされて会食に入り．一同ビールで乾盃祝意を表して歓談裡に会食を終つた。その後．横尾教授の欧米視察のお話を伺い．同教授の撮影されたカラー映画を鑑賞して散会したが．出席者は30名であつた。

台湾省建築技師公会赴日参観団歓迎会

25日　11時半——1時　　於大阪建設会館

台湾省建築技師公会の赴日参観団々長関頌声氏外5氏の一行が来阪されたので．関係団体5会共催で歓迎の午餐会を開催した。学会政岡幹事が共催団体を代表して歓迎の挨拶を述べたのに対し．関団長が流暢な英語で熱弁を振い．日台文化交流の必要を説かれ．来日以来の歓迎に対して謝意を表された。団員中には日本の大学の卒業者も居られて．出席の同窓と久濶を敍する風景もあり．一同和やかに歓談を交えた。幕ノ内弁当の食事も珍しいのか大変喜ばれたようであつた。行程の都合で短時間の会合ではあつたが．甚だ有意義な催しであつた。なお当日は各会から15名が出席した。

支部主催講習会

兵庫及び京都支部に於ては．夫々下記の通り講習会を開催した。

兵庫支部

10月21日　左官工事講習会　　於姫路市
　日本壁について　大市大講師　山田　幸一氏
　洋壁について　大林組　谷口　尚武氏
10月22日　左官工事講習会　　於豊岡市
　姫路市と同一
10月23日　コンクリート講習会　　於豊岡市
　調合　大林組　寺沢　一夫氏
　施工　竹中工務店　永山　豊二氏

京都支部

10月　左官工事講習会　　於京都市
28日　日本壁について　大市大講師　山田　幸一氏
29日　洋壁について　大林組　谷口　尚武氏

コペンハーゲンリブ
商月報無料送呈
井田ベニヤ
井田商事株式会社
大阪市浪速区西円手町一〇一七番地 湊町駅貨物八号門前
電話　(53) 4890・(26) 4809

会員名簿　昭和33年版
附録：業者案内欄
日本建築協会
A5版・約400頁

近代感覚と安くて丈夫な異型鋼管
デザインパイプ

建築．家具．装飾．スズラン塔．柱
HOSHI PIPE
▷軽さと精度と美しさに優る
▷丸型に較べて縦，横の力が強力である
▷材質は引抜鋼管，電縫管，瓦斯管
▷自⅜～至6吋迄製作在庫豊富
星金属株式会社
大阪市西区立売堀北通二丁目二〇
電話　㊿ 5563・2469

昭和31年度決算報告　　社団法人 日本建築協会

昭和31年度収支決算は昭和32年10月24日開催の臨時総会において承認されました。ここに御報告申し上げます。

一般勘定

貸借対照表

昭和32年3月31日現在

借方之部		貸方之部	
科目	金額	科目	金額
現金	12,630	什器償却準備金	28,839
当座預金	162,318	未払金	873,198
普通預金	27,029	仮受金	38,485
郵便振替貯金	15,352	未経過収入金	168,125
定期預金	20,000	基本金	47,672
未収入金	359,310	事業準備金	347,300
仮払金	7,374	故日高胖氏事業資金	232,554
未経過支払金	148,389	借入金	400,000
什器	197,299		
会館出資金	1,000,000		
本期収支勘定	186.472		
合計	2,136,173	合計	2,136,173

財産目録

昭和32年3月31日現在

資産之部			負債之部		
摘要	金額		摘要	金額	
固定資産		197,299	引当勘定		656,365
什器			基本金	47,672	
流動資産		237,329	事業準備金	347,300	
当座預金	162,318		什器償却準備金	28,839	
普通預金	27,029		故日高胖氏事業資金	232,554	
定期預金	20,000		流動負債		1,479,808
郵便振替貯金	15,352		借入金	400,000	
現金	12,630		仮受金	38.485	
雑勘定		515,073	未払金	873,198	
仮払金	7,374		未経過収入金	168,125	
未収入金	359,310				
未経過支払金	148,389				
近畿建築会館出資金		1,000,000			
近畿建築会館出資金					
本年度収支勘定		186,472			
本年度収支勘定					
合計		2,136,173	合計		2,136,173

昭和31年度収支内訳表

自昭和31年4月1日
至昭和32年3月31日

収入之部

科目	金額	費目	金額
会費収入	5,360,410	正会費 団体会費 地方会費	2,470,290 2,651,200 148,460 90,460
事業収入	9,010,295	雑収入 誌講習収入 講演会収入 集会審査料入 建材売上収入 請負款売上収入 一般書雑入	6,890,832 116,450 443,060 95,000 161,570 750,765 552,618
後援会費	36,000	後援会費	36,000
雑収入	469,330	雑収入	469,330
合計	14,876,035	合計	14,876,035

支出之部

科目	金額	費目	実支出
事業費	9,327,792	会議費 部会費 委員会費 雑誌費 講習会費 演会発行費 集雑費	96,597 179,812 6,645,688 159,802 533,880 960,353 751,660
支部費	270,341	支部交付金 支部補助金	241,510 28,831
事務所費	1,039,610	事務所費	1,039,610
事務費	846,487	通信費 旅費交通費 集金刷費 印文房具費 雑費	22,057 186,098 381,116 71,565 49,283 136,368
諸給与	3,195,000	給料 超勤手当 賞与	2,515,100 99,900 580,000
厚生費	187,463	健康保険料 厚生年金保険料 失業保険料 労災保険料 職員福利費	102,289 39,120 23,991 220 21,843
諸賦課金	29,780	諸賦課金	29,780
予備費	166,034	予備費	166,034
合計	15,062,507	合計	15,062,507

本期総収入 14,876,035　〃 総支出 15,062,507　差引次期繰越不足金 186,472

近畿建築会舘特別勘定貸借対照表

昭和32年3月31日現在

借方之部		貸方之部	
科目	金額	費目	金額
建物	16,368,945	一般会計繰入金	1,000,000
電話設備	319,400	寄附金	309,415
什器	862,850	借入金	16,955,000
銀行勘定	780,862	未払利息	498,014
現金	148,844		
未収入金	1,500		
本期収支勘定	280,028		
合計	18,762,429	合計	18,762,429

近畿建築会舘特別勘定損益計算書

自昭和31年10月10日
至昭和32年3月31日

支出之部		収入之部	
科目	金額	費目	金額
電気料	44,089	第二一般会計繰入金	485,000
瓦斯代	112,891	貸室料	450,000
水道代	2,314	雑収入	67,127
火災保険料	28,243	本期不足金	280,028
人件費	52,105		
借地料	40,715		
公課	107,370		
雑費	271,414		
支払利息	623,014		
合計	1,282,155	合計	1,282,155

昭和32年度収支予算　　社団法人 日本建築協会

昭和32年度収支予算は昭和32年10月24日開催の臨時総会において承認されました。ここに報告申し上げます。

一般勘定

昭和32年度収入予算

料目	金額	項	金額
会費収入	5,805,600	個人会費	2,700,000
		団体会費	2,880,000
		地方会費	153,600
		準会費	72,000
事業収入	9,475,000	雑誌収入	6,400,000
		講演講習会収入	245,000
		集会収入	450,000
		建材審査料	100,000
		物款売上収入	150,000
		図書出版収入	830,000
		雑	1,300,000
雑収入	569,400	雑収入	569,400
合計	15,850,000		15,850,000

昭和32年度支出予算

料目	金額	項	金額
事業費	9,110,000	会議費	100,000
		部会費	20,000
		委員会費	150,000
		雑誌費	6,400,000
		講演講習会費	320,000
		集会費	500,000
		図書発行費	330,000
		雑	1,290,000
支部費	370,000	支部交附金	270,000
		支部補助金	100,000
事務費	1,036,000	電話費	180,000
		通信費	30,000
		旅費交通費	220,000
		集金費	384,000
		印刷物費	60,000
		文房具費	42,000
		雑費	120,000
諸給与	3,390,000	給料	2,720,000
		超勤手当	100,000
		賞与	570,000
厚生費	210,000	健康保険料	114,000
		厚生年金保険料	44,000
		失業保険料	28,000
		労災保険料	4,000
		職員福利費	20,000
賦課金	30,000	賦課金	30,000
会館勘定繰入金	1,080,000	会館勘定繰入金	1,080,000
予備費	624,000	予備費	624,000
合計	15,850,000	合計	15,850,000

会館特別勘定

近畿建築会館昭和32年度収支予算

収入之部		支出之部	
費目	金額	費目	金額
貸室料	1,020,000	借入金利子	850,000
一般会計繰入金	1,080,000	借地料	49,000
雑収入	50,000	火災保険料	22,100
		公課	151,520
		電気料	84,000
		瓦斯代	171,000
		水道代	12,000
		人件費	114,000
		雑費	50,000
		償却費	306,000
		31年度繰越不足金補塡	280,000
		剰余金	60,380
合計	2,150,000		2,150,000

吸音サンライト

厚さ	大きさ	孔	ピッチ	孔数
1.3分 1.5分	1尺角	5 ㎜	15 ㎜	18×18
1.3分 1.5分	1.5尺角	9 ㎜	23.8㎜	18×18

1.3分厚¥1,400（坪）1.5分厚¥1,600（坪）

接着剤はセメダインKKの
サンライトセメダイン

- ○ 硬　　度　大
- ○ 強　　靱
- ○ 耐　　水
- ○ 難　　燃
- ○ 施工簡易
- ○ 美　　麗
- ○ 塗装容易

硬質繊維板（ハードボード）

サンライト

厚さ	標準サイズ	重量(枚)	価格(枚)
1.3分（4㎜）	3尺×6尺	6.0kg	¥ 390
	4尺×8尺	10.7kg	¥ 850
1.5分（5㎜）	3尺×6尺	7.7kg	¥ 620
	4尺×8尺	13.5kg	¥ 990
2.0分(6.5㎜)	3尺×6尺	10.5kg	¥ 800
	4尺×8尺	18.5kg	¥1,300

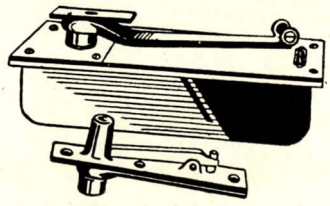
製造元　日本レイヨン株式会社

厚さ	大きさ	凸部	凹部	価格(枚)
1.5分	3尺×6尺	30.5㎜ 62.5㎜	20㎜	¥ 750
2.0分	2尺×8尺	56.5㎜ 30.3㎜	30㎜	¥ 750

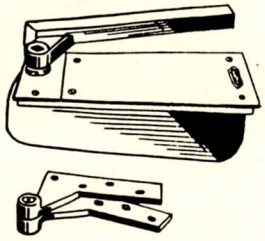
リブサンライト

NEW★STAR

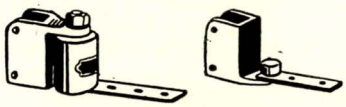
ドアーチエック



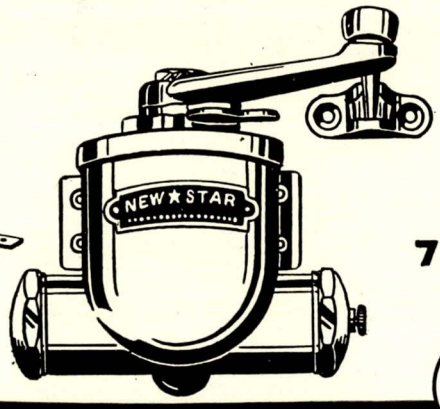
フロアーヒンヂ



フロアーヒンヂ



ラバトリーヒンヂ



輸出　好評

ニューヨーク・ロスアンゼルス・マニラ・台湾

日本ドアーチエック製造株式会社

取締役社長　出向井啓蔵

本社工場　布施市横沼町三丁目十一番地　電話 大阪 (72) 代表6666—9
東京支店　東京都千代田区神田錦町一丁目二十三　電話 東京 (29) 1920・4920

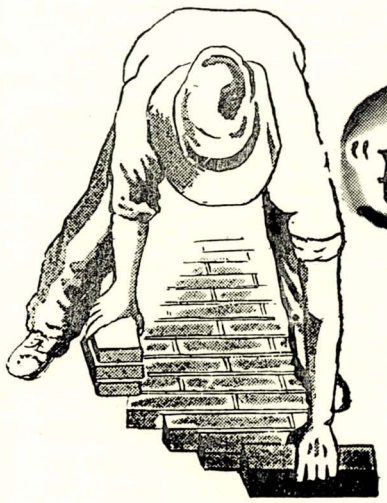
ORIENTAL

ORIENTAL METAL MFG. CO. LTD.

ASPHALT BLOCK

アスファルトブロック

"For Heavy Duty Floors & Pavements"



用途…橋梁用・プラットフオーム用及耐酸床用

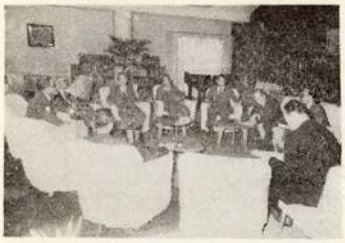
厚サ20-25-38-50粍　巾 120粍 × 長サ 240粍

オリエンタルメタル製造株式会社

本社及工場	尼崎市長洲字稲川新田44番地	電話	大阪㊟4947～4949
東京支店及工場	埼玉県北足立郡蕨町駅前	電話	川口5978　蕨252
九州支店及工場	福岡県八幡市東浜町16番地	電話	八幡723・2512
東北支店及工場	福島県郡山市外冨久山町久保田142	電話	郡山267
名古屋営業所	名古屋市熱田区三本松町2の35	電話	名古屋㊟7674
延岡作業所	宮崎県延岡市北町45番地	電話	延岡3632
岩国作業所	山口県岩国市今津川口	電話	岩国776
宇部作業所	宇部市浜通り2丁目	電話	宇部511

ORIENTAL

関西建材協会・10月分会報



各顧問との懇親

顧問会（第1回）

15日　正午——2時　於クラブ関西

竹腰．宮脇．置塩．奥島．布施各顧問出席

中村会長．戸田副会長．室谷理事長．鈴木．志垣．大和理事．会の近情と事業企画等報告後．大要下記意見を開陳された。

会の基礎を一層固めること．有力新会員を募ること

常設展示場の活用に努めること．特に新材料展示に重点をおき古い資料は代謝し常に清新の気を漂よわせよ

材料に関するカタログを拡く集め一般に便益を与えよ

いかなるものでも問合せに満足できるよう努めよ

等々。

理事会　16日　2時——4時　於会館地下室

室谷．金光．太田．若井．井場．村石．田村．中山．村田．外委任状9通。

総会掲案事項並びに開催打合せ．入退会承認．会員募集．諸報告等。



講演中の中務弁護士

講演会　16日

3時——5時　於会館4階

弁護士中務平吉氏を招じ手形取引について実例の話を聞き．実際取引についてのトラブル等．質疑応答を行い盛会裡に終了．来会するもの室谷理事長以下60余名。



総会々場風景の一部

総会　29日

3時——7時　於東天閣

中村会長以下会員90名．尾崎博士外新聞社来賓10名．事務局7名．合計107名参加

2時関係理事並びに事務局出場準備．3時10分大和理事司会で開会．室谷理事長議長となり評議員選挙後．会長．副会長決定の旨報告し中村会長議長となる。

法人前昭和32年収支決算．法人後32年度収支予算．事業企画．顧問推薦等議決した。

なお休憩中．河野氏．保田氏の講演並びに余興を催した。

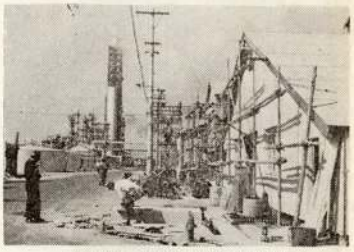
建物保全部会

22日——23日

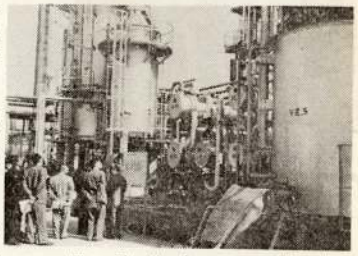
四日市．湯の山出席．山崎産業K.K.浦谷商店当番幹事．外ケントク．水島．沢田．山下．田島マルシン商会並びに大和常務理事．22日午後上六発湯の山一泊協議と懇親会催し．24日四日市大協石油K.K.工場視察．大沼製品課長案内にて見学後．部会解散自由行動。



湯の山，建物保全部会　朝食前協議風景



保全部会　四日市大協石油見学



同　見学中の一行

評議員会（第1回）

29日　4時　於東天閣

横田喜一郎君外26名出席．室谷理事長仮議長となり議長．副議長互選の結果．横田喜一郎君議長に．菅敬一君副議長に選任．両君挨拶後．横田君議長となり．会長中村文夫．副会長戸田賢一．青木友一君を決定。

32年度法人前決算．法人後収支予算．決議．事業企画顧問等承認。

第1回評議員当選者

（議長）横田喜一郎．（副議長）菅敬一．脇山静夫．中野寅次郎．山崎達夫．柏原国光．佐々木広．安井邦三．佐々木通次．和田友一．松本六郎．山本武雄．依田忠和．藤本権四郎．蟷川智造．栗山芳雄．村上一郎中島勇．戸谷周円．田辺将実．若井伝次郎．大谷昭次郎．臼井良吉．高田良．井下菊一．丹司奈良一．福井外吉．藤本三郎．三宮欣一郎．細谷四郎．安田善四郎井田泰玄．尾崎博一．伊藤長太郎．日比昌一．仲野梅太郎．松井邦彦．福頼圭蔵．伊丹甚一．石井一信

（計40名）

入会復活

三舟建材商会（代表者　舩津　稔）所在　大阪市住吉区上住吉町31　電話㊇2420　営業種目　陶管．大正便所

退会者

三田工業株式会社（代表者　三田繁雄）所在　大阪市東成区宮林町5

関西建材協会日誌10月分

7日　於大阪ホテル　旭硝子株式会社50周年祝賀パーティ開催．室谷理事長参列。

9日　青木副会長．大和常務理事は大林組．宮脇建築部長．田中商工次長．東畑事務所．日建設計．竹中工務店等．顧問会の件にて廻訪。

10日　建築会館一周年記念午餐会．大和常務理事参列。

11日　室谷理事長．大和常務理事．中村会長に面会．総会外会務打合せ。

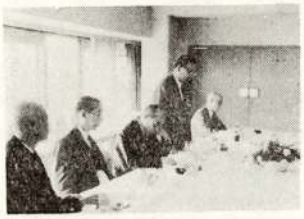
24日　岡山県建築士会総会に際し同会の需めに応じ田島応用化工K.K.並びに積水化学工業K.K.2社出張それぞれ製品説明。

25日　午前．大和理事は二葉屋装備工業K.K.を訪ね同社岩崎重役の急逝につき弔問。

26日　奈良女子大学文化祭に際し．求めに応じ約15社建材出品した。



顧問会　中村会長挨拶



同　室谷理事長の会状報告



顧　問　と　対　談



総　会　中村会長挨拶



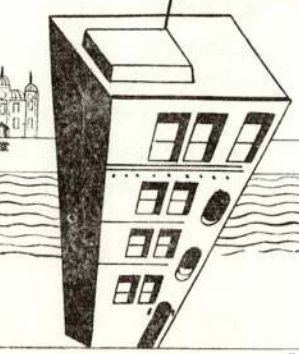
余　興　の　一　時



休憩中余興に興ず

信用と誠実をモットーとする・建材１００社の見本が一目で見られる

建材展示場



設計・施行・管理には
まずお気軽にお越し下さい。

関西建材協会

大阪市東区北浜三丁目三七
（近畿建築会館内）

事務室専用電話を増設しました。

TEL ㉓9908
TEL ㉓7172 展示場専用

建築と社会　第34集　1953年　1月号—12月号　総　目　録

特集号

号
一般号……1
一般号……2
一般号……3
一般号……4
スポーツ建築特集……5
建築と美術特集……6
一般号……7
変遷と見通し特集……8
支部特集……9
水害特集……10—11
創立35年記念史号……12

作品作風

公共建築

京都地方検察庁庁舎……9
　設計・監理　建設省近畿地方建設局
　施　　工　大成建設（株）

学校・養成所・幼稚園

大阪市教育会館……7
　設計　大阪市建築局
　施工　大鉄工業株式会社
鳥取市立西中学校……9
　設計　京都大学生活科学研究所
　施工　（株）松村組
　監理　鳥取市復興局建築課
京都府立医科大学綜合講堂……9
　設計・監理　京都府建築部営繕課
　施　　工　（株）松村組
京都市日吉ケ丘高等学校……9
　設計　工学博士　堀口捨己
　施工　（株）槙田組

図書館・美術館

THEATER ARTS CENTER
　設計　MARCEL BREUER……3
広島児童図書館……9
　設計　丹下　健三

研究所

米国科学院原子爆弾傷害研究所……9
　設計・監理　前川建築事務所
　施　　工　清水建設（株）広島支店

病院・診療所・医院

大阪府立結核療養所羽曳野病院……2
　設計　大阪府建築部営繕課
　施工　（株）藤木工務店

体育館・競技場

リオ・スポーツセンター
　スタジアム・体育館……5
大阪府立体育館……〃
　設計　大阪府建築部営繕課
アサヒ・アリーナ……〃
　設計・施工　（株）竹中工務店
国営阪神競馬場第2馬見所……〃
　設計　中西六郎建築事務所
　施工　（株）和田組
TWO-FACED STADIUM ……〃
　設計　Smith, Hegner & Moore

事務所・銀行

室町物産（株）大阪支店……3
　設計　山下寿郎設計事務所
　施工　（株）竹中工務店
三和銀行京都支店……4
　設計　三和銀行建築家
　施工　（株）大林組
住友信託銀行難波支店……6
　設計　日建設計工務（株）
　施工　（株）竹中工務店
神戸銀行船場ビル……7
　設計　（株）渡部建築設計事務所
　施工　（株）大林組
富士フイルムビルデイング……8
　設計　東畑建築事務所
　施工　（株）大林組
新阪神ビルデイング……8
　監　　理　阪神電気鉄道（株）工務部
　設計・施工　（株）大林組
福武ビルデイング……8
　設計・施工　清水建設大阪支店
日本真珠会館……9
　設計・監理　兵庫県建築部営繕課
　施　　工　（株）竹中工務店
神戸銀行本店……9
　設計・監理　日建設計工務（株）
　施　　工　（株）竹中工務店
兵庫相互銀行……9
　設計・監理　（株）安井建築設計事務所
　施　　工　清水建設（株）
一宮市商工会議所……9
　設計・監理　日建設計工務（株）
　施　　工　清水建設（株）名古屋支店
不二商事（株）名古屋支店……9
　設計・監理　三菱地所（株）
　　名古屋建設事務所
　施　　工　大成建設（株）
住友銀行名古屋駅前支店……9
　設計・監理　日建設計工務（株）
　施　　工　清水建設（株）名古屋支店
第一生命ビルデイング……12
　設計　第一生命ビルデイング管理部
　施工　（株）竹中工務店

劇場・映画館・会館

浪花座……4
　設計・施工　清水建設（株）
近畿電気通信会館……6
　設計　近畿電通局新営課
　施工　大成建設（株）
八坂女紅場歌舞練場……9
　設計・施工　大成建設（株）

住宅・アパート

THE NEW CASE STUDY HOUSE
　設計　CRAIG ELLWOOD ……3
帝国銀行夙川寮……3
　設計　平田・松田建築事務所
　施工　（株）竹中工務店
HOUSE BY RICHARD NEUTRA…4
京都府営住宅……9

ホテル・旅館・料亭

EL SALVADOR HOTEL ……4
　設計　EDWRD D. STONE
料亭河文……9
　設計・監理　篠田川口建築事務所
　施　　工　清水建設（株）名古屋支店
八勝館中店……9
　設計・監理　堀口捨己
　施工　清水建設（株）名古屋支店

工場・倉庫

名港海運西埠頭倉庫……9
　設計・監理　日建設計工務（株）
　施　　工　大成建設（株）名古屋支店

海外作品

欧米旅行から拾う……岡橋作太郎…7

評論・美学

劇場建築と演劇……
　——劇場は演劇に先立つ…田中　照三…6
最近世界建築界の傾向と日本の建築への提案
　リチ・ウエノ・リックス…6
建築と美術の歴史的展望……大倉　三郎…〃
最近の建築美術……上野伊三郎…〃
近代建築と美術……向井　正也…〃
近代建築と茶道……丸野　澄江…〃
建築と絵画……望月　信成…〃
MOSAIC について ……辻合喜代太郎…〃
建築と美的感覚……高田　克己…〃
建築への画家の断想……小松　益喜…〃
彫刻家の見た現代建築への寝言……
　池田　遊子…〃
彫刻と建築について……浅野　孟府…〃
建築と美……中井　あい…〃
DESIGN について ……岩本　博行…〃
高層建築（摩天楼）の美……徳田　稟…〃

室内装飾及家具

誰にでも作れる胴縁製家具……政岡　基次…7

都市計画

都市計画から考えるスポーツ・
　センターについて…中沢誠一郎…5
田園都市から近隣計画まで……三輪　雅久…8
国土開発の変せんと見通し
　（その1 アメリカの部）…松井　光夫…8

計画・設計

大阪府立体育会館について……竹内　成夫…5
京大学生結核サナトリウム設計の素描……〃
構造問題　1952～1953年……鷲尾　健三…1
構造　1952～1953年……伴　　潔…〃
構造技術者は何を為すべきか…室井　修…5
近代建築構造の発展……堤尾　義貫…8

構造

基礎の新しい試み……
　（胸壁つき浮函基礎の話）…高橋　慶夫…7

建築材料

建築材料としての新しい合成樹脂……
　井本　　稔…7
杉皮葺について……上田　善一…3

施工

ドライブイットについて……日野　勝好…3
コンクリート床の仕上工法について……
　政岡基次・日野勝好・岡本　弘…5
施工法の変遷に将来の見通し…日野　勝好…8
コンクリート建築の寿命について……
　設楽　貞三…9

建築史

号

私たちの建築史 (1)……林野　全孝… 1
〃　(2)……〃　… 2
〃　(3)……〃　… 3
〃　(4)……〃　… 4
〃　(5)……〃　… 5
〃　(6)……〃　… 7
〃　(7)……〃　… 8
THE RISE OF THE CITY と INTELLECTUAL HISTORY ……
徳田　肇… 4

住宅

家庭台所のあり方……野田　義夫… 2
ヨーロッパの住宅建設と戦災復興……
尾崎　久助… 3
戦後における住宅問題のうつりかわり……
扇田　信… 8
これでよいのか木造アパート・ラッシュ……
越智　隆晴… 9
生活の独立（アパートに住んで）……
山内嘉兵衛… 9
浴衣と日本住宅……野沢幸三郎… 9

建築教育

これからの技術教育はどうあるべきか 1…… 2
〃　2…… 4
〃　3…… 7

建築運動

建築運動の変遷と新しい建築運動
細谷　祐規… 8

災害

水害九州篇……10—11
被害写真—門司市　小倉市　八幡市　久留米市　福岡市　朝倉郡　八女郡　熊本市　長崎県　他
福岡県の水害……宮脇　晴美　〃
門司市の水禍……増井　敏克　〃
熊本県の被害と復興対策……板井　公威　〃
長崎県の地辷り被害と対策…丹羽　漢吉　〃
九州の水害に直面して……松崎　甫　〃
水害和歌山篇……10—11
被害写真—有田川上流，中流，下流　日高川下流部　貴志川中流部　伊都郡　他
和歌山県下の水害……和歌山県建築課
近畿各大学連合水害科学調査団報告よりばつすい
気象，地質，生態，土木，建築，経済からみた水害，その被害原因と対策……〃
農村住宅と水害……〃
和歌山県農村部…崎山　福夫
南近畿の鉄筋コンクリートの水害調査……
大阪市技師…菅　良春
水害京都篇……10—11
被害写真—井手町　中和来村　和束谷　棚倉　他
南山城の水害とその対策　〃
京都府建築課長…森口　清
台風13号による大阪府下建築物被害……〃
大阪府建築部　〃
和歌山県水害について……栗林かづま　〃

外国治水例2点

新中国の水利建設……M　M　生　〃
オランダの堰堤，干拓地，洪水……
ド・ワード　伊藤幸一訳　〃

水害の感想

水害について想う……鷲尾　健三　〃
水害に答えて……薄　脆月　〃
災害に思う……山内嘉兵衛　〃
九州の風水害に想う……岸川　康蔵　〃
木材入札に与えた影響……西田　亀次　〃
和歌山被災者は援助を求めています……
野田　義夫　〃

座談会

第1回 これからの建築技術の学校教育はどうあるべきか……教育委員会… 2
第2回 これからの建築技術の学校教育はどうあるべきか……教育委員会… 4
スタール博士夫人を囲んでの座談会……
——欧米の住宅について——…… 7
第3回 これからの建築技術教育はどうあるべきか…… 7
「学校教育座談会」摘要……鷲尾　健三… 7
35周年記念座談会
第1回 懐旧談……12
第2回 回顧と将来を語る……12
第3回 協会の過去と将来……12

随想

新春所感……竹腰　健造… 1
1953年の建材界を思う……伊藤憲太郎… 1
53年度の建築教育に望む……中野順次郎… 1
工学はどこに問題を求めるか——構造学者の会合に出席した門外漢の弁…西山　卯三… 2
わが半生を回顧して—建材界の変遷—……
井上　民治… 8
作品と作者……松浦勇太郎… 9
神　戸……伴　潔… 9
新建築を見て感あり……中川　初子… 9
随　想……桑田　正一… 9
講義にことよせて……吉田　信武… 9
寺仏と仮托……野地　修左… 9
大正七年頃の思い出など……宮飼　克二… 9
建築界の過去と将来……浅沼猪之吉… 1

紫煙室

社会人として建築界に要求するもの……
鈴木　淳子… 1
社会人として建築家に望むこと……
中井　あい… 1
現在の公営住宅の意味するもの……
山地　英雄… 2
仕事の速さ……若木望太郎… 3
5つの建築的夢 ……三浦　三吉… 7

記事

飛驒白川紀……記念行事業見学部委員… 4
業者から体育会館をみる……赤松　修… 5
Kさんへ（体育会館の管理者からの感想）…
田中　巧… 5
城口君・谷さん・中之島……藪中　一良… 8
8年たつた広島の復興 ……吉田　三郎… 9
神戸市の今昔（明治・大正・昭和）……
置塩　章… 9
建築事務所35年回顧……池田谷久吉… 8
創立35年記念事業概記……12

解説

大阪府建築基準法施行条例1部改正 …… 7

資料・統計

京都市内における建築物の建設状況……
K．M．生… 9
統計数字に現われた愛知県下の建築状況の一断面……原　清… 9
愛知県下の建築事情……X．Y．生… 9

号

建築協会の変遷（創立35年記念史号）……12
沿革
定款
事務所変遷
総会
評議員会
理事会・常務会
役員及び職員
会員動勢
財政状況
寄付金受領調
建議・陳情・意見書
「建築と社会」変遷
委員会
幹事会
講演会
講習会
座談会
博覧会
展覧会
創立15年記念事業
創立25年記念事業
新体制と時局対策委員会
学会・協会合併問題
懸賞及び賞金調
出版図書調
会員海外渡航者調
索引（建築と社会創刊号～昭和27年）…1

建築と社会　第35集　1954年　1月号—12月号　総　目　録

特集号

号
設備特集……1
一般号……2
工場建築特集……3
建築労働問題特集……4
地盤と基礎特集……5
第1回青年建築家特集……6
国際建築学生会議特集……7
高分子系からみた建築材料特集……8
都市とコア特集……9
日本におけるグロピウス特集……10
住宅号……11
クライアントからみた建築特集……12

作品作風

公共建築

岸和田市庁舎……12
　設計　日建設計工務（株）
　施工　清水建設（株）

事務所・銀行

丸一紡績（株）大阪出張所……10
　設計・施工　清水建設（株）大阪支店
日本紡績検査協会新館……10
　設計　渡辺建築事務所
KK松下商店……12
　設計・施工　（株）竹中工務店
興和ビルデイング……12
　設計・施工　清水建設（株）

会館

博多会館……10
　設計（株）竹中工務店

住宅・アパート

長谷部鋭吉氏邸……11
東畑謙三氏邸……〃
竹腰健造氏邸……〃
村野藤吾氏邸……〃
安井武雄氏邸……〃
村田治郎氏邸……〃
増田友也氏邸……〃
佐藤重夫氏邸……〃
倉敷レイヨン岡山アパート……12
　設計　倉敷レイヨン（株）
　施工　（株）藤木工務店

設計計画案

上野市慰霊塔懸賞競技設計当選案……10
　小倉伝治案

評論

住居の国民線……戸田嘉秋・長　享…11
ROMANESQUE REVIVAL　とリチヤードソン……2
日本の現代建築における伝統の問題……7
日本における建築教育……7

作家論

建築家と環境……グロピウス…10
東京におけるグロピウス……野生司義章…〃
近畿地方におけるグロピウス
その日々の足どりについて……川上　貢…〃
グロピウス氏と遊んだ話……白石　博三…〃
中国地方でのグロピウス……佐藤　重夫…10
ドイツ時代のグロピウス……蔵田　周忠…〃
紫煙室・倉敷のグロピウス教授……
浦辺鎮太郎…〃

青年建築家

青年建築家特集号に寄せて……中村　綱…6
青年建築家への挨拶……浦辺鎮太郎…〃
富家　宏泰
　作品　「祗園富美代」・旅館「大女字家」〃
坂田　美郎
　作品　岐阜県立岐阜高等学校……〃
　論説　機能主義と云う護符……〃
今西　茂雄
　作品　尼崎文化会館計画案・千草グリル・他……〃
　想感　建築開眼……〃
三田　一男
　作品　古賀の井旅館・他……〃
渡辺禎己　外2名
　作品　相生住宅……〃
　説明　相生住宅について……〃
森下　裕良
　作品　帝国人絹絲株式会社名古屋工場講堂……〃
　論説　建築に於ける構想力について……〃
平生　舜一
　作品　丸善石油肥後橋給油所・他……〃
　論説　無窓人工環境の事務所建築の可能性……〃
長谷川元耶・吉田隆一
　作品　N社甲子園寮・他……〃
　感想　感ありとせば・他……〃
松村　慶三
　作品　倉敷レイヨン西条病院……〃
　感想　四つの断想……〃
稲葉　歳明
　作品　羽衣展示住宅・青屋Y氏邸……〃
　説明　住宅二題……〃
片山　光生
　作品　関西労災病院……〃
　説明　関西労災病院に関係して……〃
宮武　保義
　作品　ロビテル（熱海病院ホテル計画案）……〃
　説明　ロビテルに就いて……〃
小林　章
　論説　新しい世代の為に……〃
小林　盛太
　論説　新現実主義への試み（序論）……〃
近藤　正志
　感想　懐疑……〃
太田伝一郎……〃

都市計画

コアという考え方……高山　英華…9
古代ギリシ都市ヤのコア……森田　慶一…〃
わが国におけるCommunity建設に関する課題……日笠　端…〃
大阪市改造計画の抱負……伊東　五郎…〃
大阪市上町改造計画試案……
大阪市大中沢研究室…〃
大阪市の地域構成……吉田安三郎…〃
大阪における住宅地計画……西山　卯三…〃
30年後の大阪……中村　綱…〃
中小都市の都心の造成……楠瀬正太郎…〃
都心の設計実例について……秀島　乾…〃
海外都市計画紹介
「パリー及びパリー圏」に関する研究報告書……吉阪　隆正…〃
アメリカの都市計画——特に都市再開発事業に関連して……本城　和彦…〃
ソ連都市の工業の配置と人口の配分について……高谷　義重…〃

工場計画・施工

欧米の製鉄工場見学の記……高橋　慶夫…3
紡績工場から合成繊維工場まで……
浦辺鎮太郎…〃
紡績工場建築雑感……若木望太郎…〃
サイロについて…大阪製粉サイロ……
陶浪　貞彦…〃
神戸港第7突堤上屋倉庫建設工事について…
東　寿・田賀秀和…〃
大日本製糖株式会社堺工場
設計者のことば……山口　文象…〃
建設工事施工面について……桑山　音吉…〃
「大関」醸造工場について……太田　達…〃
タイガー計算器株式会社大阪工場について…
紺谷　繁信…〃
工場計画雑観……塚本　猛次…〃
資料　工場労務者のための福利施設……
EDWARD D. MILLS
室井修訳…〃

設備原論

建築の音響設計と吸音材料の使い方……
船越　義房…7
　Ⅰ　室の形の設計……
　Ⅱ　室の残響設計……
　Ⅲ　吸音材料の使い方……
夏季の戸外風速・風向について……
石原　正雄…8

設備

建築設備に就て……山根正次郎…1
建築設備の問題……田中良太郎…〃
住宅の設備改善について……竹内　さく…〃
交通計算によるエレベータ及びエスカレータの台数の選び方……木村　武雄…〃
電話設備について……杉浦　春二…〃
銀行の設備について……高橋　誠義…〃
電力事情に対応すべき建築電気設備に就いて
牛田信次郎…〃
消火設備談義……小川　誠耳…〃
衛生設備雑文……大路清一郎…〃
設備外論……石原　正雄…〃

構造

外壁帳壁の耐火構造について…法規委員会…11

建築材料

最近の塗装材料について……伊藤　幸一…2
高分子というもの……井本　稔…8
プラスチックスと建築……田中良太郎…〃
建築用合成高分子材料一覧表…編集委員会…〃
現代建築とガラス……大野　正巳…〃
「アンチサン」防熱ガラスに就て……
木村　喬夫…〃

地盤と基礎

号

地盤と基礎……伊東　五郎… 5
大阪の地盤……森田　紀元…〃
最近の土質調査法……村山　朔郎…〃
WELL POINT 工法 ……瀬古　新助…〃
続脚壁つき浮函基礎……高橋　慶夫…〃
建物の不同沈下問題……横尾　義貫…〃
大阪合同庁舎の基礎工並びに基礎地盤……
角田　栄…〃
広島ビルデイング基礎決定について……
宮川　達郎…〃
大阪古図雑記……中沢誠一郎…〃

施　主

クライアントからみた建築
巻 頭 言……竹腰　健造…12
建設界に対する私の希望……井口竹次郎…〃
デフレ経済下の建設界……大島　堅造…〃
オフイスビルのなかより……中橋　武一…〃
デパートと私の建築観……北沢敬二郎…〃
ホテルのあり方……郡司　茂…〃
門外漢建築を語る……大原総一郎…〃

施　工

打放しコンクリート床仕上げ工事報告……
―尼崎駐留米軍倉庫工事―…多屋　幹夫… 2
アスファルト防水工事の歩み…横田喜一郎… 2

建 築 史

私達の建築史 (8)……林野　全孝… 1
〃　(9)……〃　3
〃　(10)……〃　4
〃　(11)……〃　7

法　規

建築基準法一部改正他……法規委員会…10

建 築 経 済

米国の景気と建築の役割……大島　堅造… 3
ILO 会議に出席して
使用者側代表として……松村　雄吉… 4
労働者側代表として……早川　方行…〃
建設省全建労の実態と活動について……
清水　等…〃
日本における建設産業職員労働組合の現状…〃
左官協同組合の実状……播磨谷松次郎…〃
建設職員座談会
――土建界の労働問題を誠る……〃
土建労働者の実態とその活動…菅野　勇利…〃
土建労働者はめざめている……M. M. 記…〃
建築労務者の状態……相沢喜久太郎…〃
日本建設産業職員労働組合協議会
第2回東西合同幹事会議事録……〃

号

建築労働問題メモ……X. Y. Z.… 4

建 築 教 育

現職教育に関する調査結果について……
岩下　久哉… 2

建 築 運 動

国際建築学生会議…… 7
紹介と所感……滝沢　真弓…〃
リポート「国民的伝統」によせて……
西山　卯三…〃
〃会議の意義を自覚して地道な努力を〃……
北野　幾造…〃
国際建築学生会議報告（Rome 1954年）…
片桐　泉…〃
国際建築学生会議への参加にあたつて経過報告……〃
卒業後の就職……〃

防　災

建築家は保険の規則も識つているべきだ……
中村　絢… 1
スプリンクラーと建築火災の実験レポート…
竹口　信夫… 2

座 談 会

設備座談会…… 1
欧米建築の変遷……
村野藤吾・岡橋作太郎・
小川　正・三氏　テイ談…… 7

紫 煙 室

新春随想……吉田寅之助… 1
虫を無思できたら――キルコートと
B.H.C に寄せて……竹内　孝… 2
二つのこと……堀口　捨吉… 4
つれづれの記……横田喜一郎… 5
法隆寺鴟尾問題と建築家の自覚……
小山　連一… 6
村野「さん」……竹内　孝… 7
永遠の青年村野……X Y Z…〃
作家と作品……浦辺鎮太郎…〃
材料の使い方について……安井　武雄… 8
材料の感触……岩本　博行…〃
わが街の私記……元良　勲… 9
鉄筋住宅余話……元吉勇太郎…12
欧米建築こぼればなし……尾崎　久助… 2
見学記　倉紡本社・尼崎キリンビール……10

建 築 の 眼

小川　正・西山卯三・船越義房・堀口捨吉・
増尾義貫……12

建築と社会　第36集　1955年　1月号—12月号　総　目　録

特集号

号
日本における建築的伝統特集…… 1
コンクリート特集…… 2
住宅問題と住宅経営特集…… 3
劇場特集…… 4
設計システム特集…… 5
第2回 青年建築家特集…… 6
国際号…… 7
安井武雄記念号…… 8
建材特集…… 9
工場建築特集……10
設備特集……11—12

作品作風

公共建築

船岡町役場庁舎…… 1
　設計・監理　NAU鳥取建築研究所
　施　　工　八千代建設（株）
大阪北電話局…… 2
　設計・監理　日本電信電話公社建築部
　施　　工　（株）松村組
愛知県市町村会館…… 2
　設計・監理　日建設計工務（株）名古屋事務所
　施　　工　（株）安藤組名古屋支店
西成区役所…… 2
　設計　大阪市建築局
　施工　（株）奥村組
下関市庁舎…… 5
　設計　田中　誠　崎谷小三郎　進来　廉
　施工　大林組広島支店
伊丹市庁舎……11—12
　設　　計　（株）久米建築事務所
　設計・監理　伊丹市建設部建築課　久米建築事務所
　施　　工　（株）鴻池組
国際電々株式会社東京局舎…… 9
　設計・施工　清水建設株式会社
愛知県文化会館・美術館…… 5
　設計監理指導　小坂秀雄
　設計・監理　愛知県建築部営繕課
　施　　工　（株）大林組

病院・診療所・医院

京都市五条保健所…… 2
　設計　京都市建設局営繕課
　施工　大東土建（株）

事務所・銀行

グリーンビル…… 1
　設計・施工　（株）竹中工務店
梅田ビルデイング…… 8
　設計・施工　（株）竹中工務店
双星社・竹腰建築事務所ビル…… 9
　設計　竹腰建造
　施工
三和銀行本店……11—12
　設計・監理　山下寿郎設計事務所
　施　　工　（株）大林組
扶桑相互銀行鳥取本店…… 8
　設計　大成建設（株）設計部
　施工　大成建設（株）広島支店

劇場・映画館

兵庫県水産会館…… 1
　設計　兵庫県営繕課
　施工　（株）竹中工務店
近鉄会館…… 4
　設計　村野・森建築事務所
　施工　（株）大林組
近映会館（近畿映画劇場）…… 4
　設計　林野・森建築
　施工　（株）大林組
OS Theatre …… 4
　設計・施工　（株）竹中工務店
アシベ劇場…… 4
　設計・施工　清水建設（株）大阪支店
愛知県農民文化館…… 5
　設計・監理　愛知県建築部営繕課
　施　　工　小原建築（株）
梅田大映……11—12
　設計・監理　丹堂建築設計事務所
　施　　工　清水建設（株）大阪支店

住宅・アパート

大阪府高層アパート計画…… 3
　設計　大阪府住宅課
大阪古市団地計画…… 3
　設計　久米建築事務所
　監理　大阪市建築局住宅課
　施工　今西組・勝呂組・大末組・木村工務所
芦屋高層都市計画…… 3
　設計　日建設計工務（株）
代官山東急高層アパート計画…… 3
　設計　久米建築事務所
　施工　大成建設（株）
日本電信電話公社甲子園宿舎…… 3
　設計・監理　近畿電気通信局建築部
　施　　工　（株）井上組

百貨店・商店

（株）大沢商会名古屋支店…… 1
　設計・施工　清水建設（株）名古屋支店
オプトンカメラ店…… 8
　設計　足立　孝
　施工　北村工務店
喫茶店・レストラン・バー
食堂ビル「ドウトン」…… 9
　設計　村野・森建築事務所
　施工　清水建設（株）大阪支店
クラブ・キヤバレー
トルコセンター…… 8
　設計　今西建築デザインルーム
　施工　（株）あめりか屋

工　場

明治製菓株式会社大阪工場……10
　設計・監理　阿部事務所　阿部美樹志
　施　　工　（株）大林組
松下電子工業株式会社高槻工場……10
　設計・監理　日建設計工務（株）
　施　　工　（株）鍍高組
姫路発電所……10
　設計・施工　（株）大林組
富士製鉄広畑薄板工場……10
　大阪建築事務所　高橋慶夫
　日建設計工務　坂永金重
　東畑建築事務所　佐々木保
川崎製鉄株式会社　千葉製鉄所……10
大阪瓦斯株式会社　岩崎工場……10
　設計　大阪瓦斯（株）施設部
　施工　（株）大林組
大阪港サイロ施設について……10
　（株）東畑建築事務所
大東紡鈴鹿工場……10
　設計・監理　日建設計工務（株）
　施　　工　工場（株）大林組
　　寄宿舎及食堂（株）鍍高組

懸賞・設計計画案

近畿大学工高卒業設計コンクール入選案
1955年…… 6
築後市庁舎指名競技設計当選案…… 8
　日建設計工務（株）

評　論

西洋の建築的伝統について……森田　慶一…… 1
民家史の一課題……白木小三郎…… 1
桂離宮と農家……外村吉之介…… 1
民族的伝統と国民的伝統……西山　卯三…… 1
商業建築における Advertising Value…
　小川　正…… 4
建築家ピユウギンの言葉…… 8
木材のある解釈と表現について……
　小川　正…… 8
設計システムの諸問題……編集委員会…… 5
分業設計システム……山根正次郎…… 5
協同設計について……京大AKT…… 5
構造家からみた設計のあり方…坪井　善勝…… 5
構造家からみた設計のあり方…横山　不学…… 5
日本の建築——過去と現在…… 7
Japanese Architecture——Old & New …… 7
日本建築のある相……森田　慶一…… 7
Some Aspects of Japanese Architecture by MORITA keiichi…… 7
日本庭園について……森　　蘊…… 7
Japanese Gardens
　by MORI Osamu…… 7
アメリカ現在建築概観……
　ウイリアム・アレツクス…… 7
General Surveys on The American Modern Architecture
　by William Alex…… 7

作家論・評伝

村野藤吾評伝…… 7
　作品　そごう茶室
　　広島世界平和記念聖堂
MURANO Togo, Architect …… 7
前川國男評伝…… 7
　作品　神奈川県立図書館・音楽堂
MAYEKAWA Kunio, Architect … 7
安井武雄作品…… 8
安井君の想い出……渡江　悌夫…… 8
安井君……長谷部鋭吉…… 8
安井先生……村野　藤吾…… 8
安井先生追想……川村種三郎…… 8

第2期 青年建築家

鈴木　英夫　甲南高校校舎・甲友会館…… 6
梅田　孝治　伊丹基地士官クラブ・他……〃
浜田　和夫　神戸石屋川独身寮・他……〃
富田三樹夫　与多呂本店・他6点 ……〃
薬袋　公明　府中市庁舎・F邸・他……〃

号

佐久間 宏　O 氏 邸……6
高橋 則夫　石原産業四日市工場……〃
　塩浜共同住宅
栄木 一成　姫路発電所……〃
加藤 啓治　大沢商会名古屋支店……〃

都市計画

青屋高層都市の建設計画……船越 義房…3

計画・設計

近鉄会館が生れ出るまで……竹内 孝…4
明治製菓株式会社大阪工場について……
　細川 正…10
松下電子工業KK高槻工場設計のみそ……
　坂永 金重…〃
姫路発電所……関西電力KK建設部…〃
富士鉄広畑薄板工場……
　高橋慶夫・坂永金重・佐々木保…〃
川鉄千葉製鉄所製鋼工場・分塊工場について
　高橋 慶夫…〃
大阪ガスKK岩崎工場増熱水性瓦斯プラント
建設について……大阪瓦斯KK施設部…〃
大阪港サイロ施設について……佐々木 保…〃
大阪港安治川サイロの施工について……
　中川 貞雄…〃
無窓か有窓か……
　日建設計工務KK名古屋事務所…〃
ガラス幅壁の解説……浦辺鎮太郎…8
窓……中野 吉弥…8

設備

最近のアパート用エレベータ…公文 一三　3
三和銀行本店建築設備について……
　宮川 清…11—12
三和銀行本店の電気設備について……
　清水靖一郎…〃
建築設備のウエイトについて…富吉志乃武…〃
鉄筋共同住宅の設備について…小寺 保…〃
照明について……笠原 裏…〃
エスカレータについて……公文 一三…〃
塵芥の処理……須貝 栄一…〃
建築衛生工業とプラスチックス製品……
　小川 誠耳…〃
建築設備工事分離発注問題
　綜合建設業の立場から……高橋 誠義…〃
　官庁側の立場から……諫早 信夫…〃
　第三者の立場から……田中良太郎…〃
　管工事請負契約に関する陳情……〃
　梅田ビルデイングのクーリングタワーについ
　て……鈴木俊男・竹原義昭…11—12

施工

プレストレスドコンクリートの設計……
　坂 静雄…2
ピアノ線について……荻田 英二…〃
コンクリート簡易試験法……奥島 正一…〃
鉄製型枠について……政岡 基次…〃
スライデイングフオームについて……
　菅田 豊重…〃
水と土……河田 明雄…〃

建材

優良証明発行建材について……9
優良証明発行製品……〃

住宅・アパート

大阪府高層アパート計画……元吉勇太郎…3
代官山東急アパートの計画と経営……
　増田 誠一…〃
住宅団地と生活環境　特に大阪古市団地につ
いて……日本建築協会 住宅委員会…〃

号

住宅の経営……政岡 基次…3
公営住宅の家賃と建設費……住宅研究会…〃
台所設備と住居費……住宅研究会…〃
イギリスにおける住宅政策の成果……〃

建築経済

建築工事と生産性向上運動……渡部 圭吾…10

建築教育

これからの技術教育はどうあるべきか 4……5
　〃 5……8

座談会

ソヴエト建築を語る……4
　——村野藤吾氏を囲んで——
第4回 これからの技術教育はどうあるべきか 5
第5回 これからの建築技術教育はどうあるべ
きか……8
商都かたぎ・主都かたぎ……8

紫煙室

建築・音楽……竹内 成夫…1
「武」の神と「文」の神……波江 悌夫…2
続相川音頭……佐藤 重夫…〃
シネマスコープのぐち……高橋 慶夫…〃
数のおもしろさ……中村 韶…〃
住宅談義いろいろ……小林 三造…3
医者と建築家……伴 潔…4
住宅難と建築家の立場……山本 茂…〃
学会書記長・佐藤君を憶う……大和 栄衛…〃
住宅と結核病……田中 文雄…5
老人よ，しばらく御遠慮を！…浦辺鎮太郎…6
構造と法則……棚橋 諒…6
家と生活と女性……竹久虹之助…8
住と水……塚田喜一郎…9

技術講座

シャーレの応力の話…塚尾義貫・北村 修…1
現代建築のエアコンデイショニングにおける
二・三の問題点……井上 宇市…2
アパートにおける共通の諸施設並びに設備の
改善について……伊藤 幸一…3
劇場を主とした室内音響……船越 義房…4
劇場を主とした照明……梁瀬 正男…〃
観覧席床勾配の算出について…鷲尾 九郎…〃
不規則ラーメンの1つの実用解法……
　鷲尾 健三…5
建築のモデユールシステムについて……
　会勢委員会編…7
　——ノイフエルト教授講演要旨——
リミツトデザインについて……坂 静雄…8
建材のテキスチユアーと色彩…布施忠司編…9
シャーレの常識　—主として経済性の問題—
　構造研究会（K.K.K）…10

建築の眼

小川 正・西山卯三・船越義房・堀口捨吉・
塚尾義貫　1,3,5,6,8,9,10,11—12

Sketch Book

大阪市東住吉区役所……5
日綿実業本村ビル……〃
箕定株式会社大阪支店ビル……〃
松江国際映画劇場……〃
大崎町役場……〃
岡三証券ビル……〃
福井地方裁判所庁舎……〃
名古屋学院名古屋高校校舎……〃
大阪府営住宅……8
中小工場……10

号

第1回 工高生デザインコンクール・設計課題
住宅入選作品……11—12

記事

前会長片岡博士追悼会と五月午餐会……6
梅田ビル批判会記……会勢委員会編…8
委員会活動の連絡と協力について……
　鷲尾 健三…8

資料・統計

仕上別による建築材料名の索引……
　伊藤幸一・森正信…9

建築と社会　第37集　1956年　1月号—12月号　総　目　録

特集号　　号

一般号……1
〃……2
住宅　特集……3
構造　〃……4
作品一般　〃……5
第3回青年建築家　〃……6
都心の団地計画　〃……7
小住宅・小店舗　〃……8
設備　〃……9
設計・施工　〃……10
建材　〃……11
地方建築　〃……12

作品作風

公共建築

延岡市庁舎・野口記念館……2
設計　日建設計工務（株）
施工　（株）大林組
府中市庁舎……5
設計・監理　日建設計工務（株）
施工　（株）大林組広島支店
天理市庁舎……5
設計　内藤建築事務所
施工　（株）浅沼組
島根県警察本部庁舎……12
設計・監理　島根県土木部建築課
施工　（株）鴻池組山陰出張所

学校・養成所・幼稚園

大阪市立東中本小学校給食施設……5
設計　中野順次郎
施工　（株）奥村組
ノートルダム清心学園マリア科学館……11
設計・施工　（株）大林組
兵庫県立姫路南高校体育館兼講堂……12
設計　兵庫県土木建築部建築課
施工　（株）永井組

病院・診療所・医院

大阪市立大学医学部附属病院……5
設計　山田守建築事務所
監理　大阪市建築局営繕課
施工　（株）奥村組
公立学校共済組合近畿中央病院……5
設計　日建設計工務（株）
監理　文部省大阪工事事務所
施工　（株）大林組
国立大阪病院新病棟……11
設計・監理　厚生省医務局整備課・他
施工　（株）戸田組
日本専売公社京都病院本館……11
設計　（株）山下寿郎設計事務所
監理　日本専売公社
施工　（株）浅沼組
中国支部　地御前通信病院……12
設計・監理　日本電信電話公社中国電気通信局建築部
施工　（株）銭高組

体育館・競技場

天理大学プールスタンド……5
設計・施工　（株）竹中工務店
設計担当者　北村隆夫・小島一丸
施工担当者　犬飼保介
勝山中学校兼雨天体操場……5
設計・監理　アルス建築事務所　乾　馨

事務所・銀行　　号

早川電機工業（株）……9
設計・施工　清水建設（株）

会館

大阪府教育会館……2
設計・監理　大阪府建築部営繕課
施工　（株）銭高組
毎日大阪会館……9
設計　日建設計工務（株）
施工　（株）大林組
毎日名古屋会館……9
監理　日建設計工務（株）
設計・施工　（株）竹中工務店
神戸新聞会館……10
設計・監理　村野・森建築事務所
施工　（株）竹中工務店
裏千家茶道会館……12
設計　茶道裏千家家元（施主）
施工　（株）竹中工務店
石橋文化センター……12
美術館　設計　菊竹建築計画研究所
施工　八千代建設（株）
体育館　設計　菊竹建築計画研究所
施工　（株）高松組

宗教建築

天理教おやさとやかた東棟……5
設計・監理　おやさとふしん方技術部
施工　（株）竹中工務店，おやさとふしん方実施部及ひのきしん部
天理教教会本部炊事場……5
設計・施工　（株）竹中工務店
設計担当者　今井浩一郎
施工担当者　犬飼保介
清風寺本堂……7
設計　岸田日出刀
施工　清水建設（株）大阪支店

住宅・アパート

H邸……3
設計・施工　（株）竹中工務店
平生舜一
逆瀬川コンクリート住宅……3
設計・施工　日建設計工務（株）
竹中重太郎
甲東園団地住宅……3
設計　日建設計工務（株）
施工　（株）奥村組
日本住宅公団中宮第一団地……3
日本住宅団公共同住宅標準設計プラン……3
東洋綿花（株）西宮社宅……5
設計・施工　清水建設（株）大阪支店
堀内邸……5
設計　田中良太郎
施工　大西工務店
鉄筋住宅・楽しい生活と住宅博・入選作……F4 グループ…8
鉄筋住宅・楽しい生活と住宅博・入選作……北原　武文…〃
鉄筋住宅・楽しい生活と住宅博・入選作……池田　忠彦…〃
鉄筋住宅・楽しい生活と住宅博・出品作……山口　文象…〃
豊輪閣（大阪府自転車振興会宿舎）……11
設計・監理　日建設計工務（株）
施工　（株）戸田組大阪支店

工場・倉庫

多奈川発電所……9
基本設計　米国ギルバートアソシエート社
設計　関西電力（株）土木建築課
施工　（株）間組
国際電信電話（株）大阪局舎……10
設計・施工　清水建設（株）
大阪テレビ放送（株）社屋……12
設計・施工　清水建設（株）
文化財建造物・古建築
正倉院双倉……古建築分科委員会撮影…6

設計計画案・懸賞

第2回 工高生デザインコンクール入選作品…12
課題　観光案内所
都心における高層アパート群団地計画試案…7
中村勝郎・田中清吾（渡辺建築事務所）…〃
増田多郎・RIAグループ（建築綜合研究所）……〃
井上　滉・赤崎尚信（大阪建築事務所）…〃
黒川　洋・岡村多市（久米建築事務所）…〃
山本純孝・神出津嶺雄（安井建築事務所）〃
江川好己・今中　靖・沢井　洋・後藤重男（山下寿郎設計事務所）……〃

Skech Book

沖縄の新建築……山本　義樹…2
生国魂神社本殿……5
河内銀行本店……5
日本専売公社広島地方局食堂……5
三稜中学校独立図書館……5
ドミニカ国トルヒヨ大統領モニユメント国際応募作品……佐藤　重夫…6
「住みよい街と住宅」のために　日本建築学生会議……7
大阪府立図書館新館……8
殖産住宅相互（株）大阪支店……9
ある若い USONIAN の建てた自分の家…10
白浜ゴルフクラブ……11

評論

建築のデザインに関するアンケート……10
建築家に望む……中島　健蔵…5
竹山・浜口論争についてのアンケート……4
当代建築と不安感に関し浜口君の反論を読む　竹山謙三郎…4
現代建築の不安と危険……浜口　隆一…〃
東京1955年グリンプス……浦辺鎮太郎…2
モスクワの建築瞥見……土田　光夫…〃
フルシチヨフ論文（工業的方法をひろくとり入れ，建設の質を改善し，コストをひきさげよ）……2
温故知新　——京鮭の話——…池田総一郎…12

第3期 青年建築家

住田栄次郎　M会館……6
石中　達夫　伊藤忠商事KK 第2浦和荘…〃
井上　滉　大阪港湾病院……〃
鴨村　隆次　東天閣……〃
小西　敏哲　愛媛労災病院　他……〃
八木　彰　岡山労災病院　他……〃
吉岡　吉雄　帝人松山工場クラブハウス…〃

号

内藤　薫男　ウエスト電気KK大阪工場… 6
倉石　秀夫　宝塚映画撮影所……〃
力武　利夫　東燃工業KK和歌山工場ハイドロフオーミング装置　他…〃

設　備

事務所建築の Air Conditioning の効果
石堂正三郎… 9

設備の眼

設備管理の問題：冷却塔と川の水：
設備のリミットデザイン：ダクトの汚損：
冷暖房の季節：冷房のほてり：便所と大衆… 9

設備技術トピックス

アース工事について…… 9
Air Curtain：水中モーターポンプ……〃
コペンハーゲンリブ：螢光灯の演色性……〃
太陽エネルギーの利用：夜間輻射……〃
温湿度調整のオートメーション：火災報知装置と消化設備……〃

構　造

古典建築の秩序と構造……元良　勲… 4
構造の秩序のために……樋尾　義貫…〃
ライトゲーヂ構造について……棚橋　諒…〃

材　料

対談　建築材料はどう発展するか……
竹腰健造・中村文夫…11
サンドウイッチパネルの強さと断熱性……
飯塚五郎蔵…〃
異形鉄筋・とくに高張力の異形鉄筋について
小倉弘一郎…〃
新しい塗料……川合　繁昌…〃
新しいガラスとその特性……村上　義雄…〃
仕上別による建材名の索引……
伊藤幸一・森　正信…〃
関西建材協会会員の建材（誌上出品）……〃

施　工

米国における建築産業の概況…藤阪捨治郎…10
米国建設業の経営管理について……
井上鴻太朗…〃
アメリカの施工の現況について……
中出　定夫…〃
鼎　談…東畑謙三・浦辺鎮太郎・西山卯三
施主・設計者・施工者をめぐる諸問題……〃
工事契約の変遷について……大林組庶務課…〃

建　築　史

石に柄がつき道具となるまで…芹沢　長介… 1
——石器時代の道具——
写実より抽象（アブストラクト）への移行
——石器時代の絵画——……芹沢　長介… 1
書写山円教寺の古建築……野地　修左…12

住宅・アパート・団地

建てよ　殖せよ　不燃住宅……諫早　信夫… 3
老人アパートの問題……竹腰　健造…〃
甲東園一団地の住宅経営……噠　勇一……〃
都心のアパート団地について…諫早　信夫… 7
高層アパートの設計企画……諫早　信夫…〃
都心の団地計画の特質と問題点……
住宅委員会…〃
都心団地成立の史的根拠とその性格……
中沢誠一郎…〃

号

大規模住宅団地の開発……
西山卯三・細谷裕規… 7
市街地のアパート団地調査より……
上林　博雄…〃
関西の住宅について—上野伊三郎氏と語る…
伊藤幸一・増田友也… 8
ローコスト住宅…日本建築協会住宅委員会…〃
関西の住宅に……清家　清…〃

建築経済

最近の鉄鋼需給事情……手島　雄二…11

技術講座

工事施工に関する基準について……
岩下　久哉… 2
アパートのダストシュート……石原　正雄… 3
住宅の暖房について……石原　正雄…〃
住宅・アパートの水と排水……石堂正三郎…〃
建築施工技術の教育に対する一考察……
犬束　徳郎…〃
プレストレストコンクリートの建築への応用
坂　静雄・六車　熙・前田米穂… 4
水族館計画に関する資料……加藤　大雄… 6
現代のアパート建築から「設計管理」の裏窓をのぞく……越智　隆晴… 7
住宅の通風と換気……石原　正雄… 8
ダクトの消音……前川　純一…… 9
工事契約について……田辺　信…10
軽金属の加工と応用……小林藤次郎…11
禅家の伽藍配置……北尾　嘉弘…12
和歌山市における襖材……竹本　説夫…〃
畳表について……佐藤　重夫…〃

座　談　会

構造とデザイン座談会…… 4
座談会—小住宅…日本建築協会編集委員会… 8
店舗と建築……日本建築協会編集委員会…〃
設備と建築　座談会　—設備界の当面の課題と建築界への希望—…… 9
地下堀鑿工法について……災害委員会…10

記　事

長崎の建築今昔……丹羽　漢吉…12
郷土色の建築漫談……薄　抱月…〃
京都の最近の建築について……井手　正雄…〃
兵庫県における戦後の建築活動……
森田　康次…〃
中国地方における戦後の建築情勢……
葛西　重男…〃
広島の建築点描……曽根田　彰…〃
大阪府教育会館合評会記…… 2

紫　煙　室

J氏にお答えする……薬師寺　厚… 2
私の書架より……浦辺鎮太郎…〃
ヨセフ・ホフマン教授を憶う…上野伊三郎… 7

建築の眼

小川　正・西山卯三・船越義房・堀口甚吉・樋尾義貫…… 2
〃 …… 3
〃 …… 7
足立孝・岡橋作太郎・佐野正一・深尾実郎・陶浪貞彦…… 8
〃 …… 9
〃 ……10
〃 ……11
〃 ……12

建築と社会　第38集　1957年　1月号—12月号　総　目　録

特集号

号
歴史特集…… 1
構造上の諸問題特集…… 2
住宅特集…… 3
建築の life 特集…… 4
構造特集…… 5
(第4回) 新人特集…… 6
設備特集…… 7
防災特集…… 8
施工特集…… 9
住宅特集……10
建材特集……11
建築生産特集……12

作品作風

公共建築

神戸米国総領事館…… 1
　設計　山崎実建設事務所 (米国)
　施工　(株) 大林組
兵庫県警察本部庁舎別館…… 4
　設計・監理　兵庫県土木建築部建築課
　施　　工　鹿島建設 (株)
下関市立外浦水族館…… 5
　設計　坪井善勝・建設工学研究会・下関市役所建築課
　施工　(株) 大林組
神戸市庁舎…… 7
　設計　日建設計工務 (株)
　施工　(株) 竹中工務店
岡山県庁舎…… 7
　設計　前川国男建築設計事務所
　　積山建築構造設計事務所
　施工　(株) 竹中工務店
倉吉市庁舎…… 7
　設計　岸田日出刀・丹下　健三
　施工　(株) 大林組岡山支店
南淡町庁舎……11
　設計　坂　　静雄・増田　友也
　施工　オリエンタルコンクリート (株)

学校・養成所・幼稚園

小出美容専門学校…… 9
　設計　(株) 大阪建築事務所
　施工　(株) 奥村組

研究所

通産省大阪工業技術試験所…… 9
　設計　近畿地方建設局営繕部
　施工　(株) 神崎組大阪支店

病院・診療所・医院

兵庫県立医大附属病院精神科病棟…… 4
　設計・監理　兵庫県土木建築部建築課
　施　　工　福井建設工業 (株)

事務所・銀行

小林製薬株式会社…… 4
　設計・監理　ヴオーリズ建築事務所
　施　　工　(株) 大林組
株式会社大沢商会大阪支店…… 4
　設計・監理　KK松田平田設計事務所
　施　　工　(株) 大林組
木下商店大阪支店…… 4
　設計　久米建築事務所
　施工　(株) 松村組
大阪建設会館…… 4
　設計・施工　(株) 大林組
丸紅飯田株式会社…… 8
　設計・監理　大阪建築事務所
　施　　工　(株) 竹中工務店
京都ガスビル…… 9
　設計　安井建築設計事務所
　施工　(株) 大林組
徳島ビルデイング…… 9
　設計・監理　(株) 東畑建築事務所
　施　　工　(株) 奥村組
住友ビルデイング別館…… 9
　設計・監理　日建設計工務 (株)
　施　　工　(株) 大林組
中庭のある社屋 (KK竹中工務店本店) ……11
　設計・施工　(株) 竹中工務店
(株) 大阪吉川商店……11
　設計・施工　大成建設 (株) 大阪支店
新桜橋ビルデイング……12
　設計　日建設計工務 (株)
　施工　(株) 大林組

会館・劇場

神戸国際会館…… 1
　設計　(株) 竹中工務店
　監理　(株) 東畑建築事務所
　施工　(株) 竹中工務店
梅田コマ・スタジアム…… 2
　設計・施工　(株) 竹中工務店
梅田グランド劇場・花月劇場…… 8
　設計　村野・森建築事務所
　施工　大成建設 (株)
関西大学教育会館……12
　設計・施工　(株) 大林組

住宅

北畑邸…… 3
　設計　増田　友也
　施工　(株) 林工務店
日本住宅公団千里山団地…… 3
　設計　日本住宅公団大阪支所
　　株式会社久米建築事務所
　監理　日本住宅公団大阪支所
　施工　株式会社大林組・株式会社戸田組
　　株式会社奥村組・株式会社熊谷組
　　鍵仲建設株式会社・三井建設株式会社
日本住宅公団中宮第一団地…… 3
　設計・監理　日本住宅公団
　　大阪建築事務所
　施　　工　浅沼組・神崎組
日本住宅公団出来島団地…… 3
　設計・監理　日本住宅公団・日建設計工務株式会社
　施　　工　株式会社銭高組・大成建設株式会社・清水建設株式会社・株式会社鴻池組
電々公社高槻アパート…… 3
　設計　電々公社建築部新営課
　施工　大日本土木 (株)
神戸銀行呉川町家族寮…… 3
　設計・監理　吉村悟郎建築設計事務所
　施　　工　兵庫県住宅建設 (株)
旭硝子高樹町アパート…… 3
　設計　梶　　元成
　施工　(株) 信和工務所
三田東急アパート……10
　設計・監理　東急不動産 (株)
　施　　工　大成建設 (株)
切戸町施設付住宅……10
　設計　神戸市建築局営繕課
　監理　日本住宅公団大阪支所
　施工　林建設工業 (株)
兵庫県の併存住宅「Sビル」……10
　設計・施工　清水建設 (株)
横浜市内共同ビル紹介
住吉町6丁目第3共同ビル……10
　設計　神奈川県住宅公社・大阪建築事務所
　施工　鹿島建設株式会社
翁町1丁目共同ビル……10
　設計　神奈川県住宅公社・建設工学研究会
　施工　青　柳　組
長者町4丁目第2共同ビル……10
　設計　神奈川県住宅公社・柳建事務所
　施工　関工務店
扇町2丁目共同ビル……10
　設計　神奈川県住宅公社　久米建築事務所
　施工　加　藤　組

クラブ

西宮カントリークラブ…… 8
　設計　双星社・竹腰建築事務所
　施工　(株) 竹中工務店

百貨店・商店・マーケット

そごう神戸店 (増改築)…… 4
　設計・施工　大成建設 (株) 大阪支店
近鉄百貨店阿倍野店新館…… 8
　設計　近畿日本鉄道 (株) 建築部
　　意匠　村野・森建築事務所
　　構造　神足建築事務所
　施工　(株) 大林組

工場・倉庫

三井土佐堀倉庫…… 4
　設計・監理　三井倉庫 (株) 管理部
　施　　工　(株) 竹中工務店
竜田紡績姫路工場…… 5
　設計　入江設計事務所
　施工　(株) 神崎組
(株) 播磨造船所相生工場綜合事務所……12
　設計・施工　清水建設 (株)

古建築

吉村邸　古建築分科委員会撮影…… 1

Skech Book

ディーゼル博士記念苑の感想…光安　義光… 3
第1回建築写真コンクール入選発表 …… 5
近畿・大学・工高卒業設計コンクール入選作 1957年…… 6
第2回建築写真コンクール入選・佳作作品 …11
第3回工高生建築デザインコンクール入選作 12

評論

1957年と1857年 (新ゴシック論時代) ……
　　鳥田　家弘… 1
戦前・戦中・戦後と世代を異にする建築家は学窓をでたとき何を考えていたか (アンケート)…… 1
　執筆者　竹腰健造・村野藤吾・滝沢真弓・

号

東畑謙三・鴻池藤一・小川　正・
足立　孝・光安義光・菊竹清訓・
羽藤文男・葉袋公明

C.M.デューク氏講演要旨
建設工事の計画と管理の進歩……
五十嵐定義… 5

建築のライフ

ライフとは？　――問題の提起――……
浦辺鎮太郎… 4
「ライフ」の古さと新しさ……鳥田　家弘…〃
ライトのいう建築のライフ……増田　友也…〃
耐久的消費財説について……足立　孝…〃
Air Conditioning のライフについて……
畔柳健太郎…〃
衛生工事の耐用年数について…小川　誠耳…〃
電気工事のライフについて……白庄司秀三…〃
環境調整より見た建築のライフ……
関西設備原論研究会…〃
スチールサッシュの耐久性について……
斎藤　祐義…〃
アスファルト防水の耐久性……市川　良正…〃
鉄筋コンクリートの耐久性……谷口　尚武…〃
人造石について……伊藤　幸一…〃
アンケート（ライフのある建築について）…〃

第4期 青年建築家

市川　宏　富士写真フイルム研究所…… 6
三川　栄吉　灘高等学校記念館……〃
山本　智雄　三菱石油給油所3点 ……〃
陶村　功　興服産業株式会社大阪支店…〃
北田　正利　神戸大映……〃
山本　俊介　播磨造船所相生工場整合事務所……〃
宮川　達郎　広島県庁議事堂・坂出市庁舎他……〃
松浦直一・鍛治延男　びわ湖観光センター（仮称）……〃
TDグループ　共同施設を中心にして，棟の群構成を追求した団地計画案……〃
後藤　摂二　小時計店試案……〃
北村　隆夫　…コマ劇場機構設計のアレンジをして……〃
竹原　義昭　設備工事を担当して……〃
坂本勝比古　不安感論争が導くもの――構造とデザインと――……〃

設備の現段階と展望

1．熱環境への新しいアプローチ……
楢崎　正也… 7
2．建物に利用される新しい熱源の展望……
楠町政之助…〃
3．空気調和の新しい傾向……平野彦兵衛…〃
4．空気調整自動化の現状……宗岡　博生…〃
5．換気技術の現状と展望……石原　正雄…〃
6．騒音防止技術の現状……竹内　竜一…〃
7．室内音響の現状と進歩……前川　純一…〃
8．電灯照明技術の現状と将来……
大谷泰之・阪口忠雄…〃
9．日照調節の現状と将来……関原　猛夫…〃
10．新しいビルディングの受配電方式……
真砂野　昭…〃
11．大阪の地下水の現状と展望……
渡辺　知喜…〃

設備技術トピックス

除塵と集塵……田中良太郎…〃
殺菌ランプ……石堂正三郎…〃
Time Lag ……前田　敏男…〃

号

熱対流……金谷　英一… 7
相互反射……松浦　邦男…〃
アパートのガス暖房……上林　博雄…〃
ブレードレス・ポンプ……寺田　進…〃
Building Control Engineers……
須賀　栄一…〃

構造

デザイナーへ――構造の場よりの発言……
構造研究会… 2
構造技術か現場技術か……木村　俊男…〃
――キレツの建物を主題にして――
〃耐震ということ〃雑感……小堀　鐸二…〃
ニューゴシックの夢……小出　泰弘…〃
構造計画について……鷲尾　健三… 5
建物はどこまで高くできるか…構造研究会…〃
大阪市高層アパートの構造計画について……
高橋慶夫・長田正雄・上田宏二…〃
南淡町庁舎の PC 構造について……
坂静雄・増田友也・六車熙・寺沢輝夫…〃
H.P. シエルの設計……坪井　善勝…〃
神仙閣の構造について……板原　弘…〃
竜田紡績姫路工場の構造について……
三宅　晋…〃
毎日大阪会館の沈下実測結果について……
塚本猛次・宮川達郎…〃

建築材料

軽量鉄骨について……鷲尾　健三…11
大阪市鶴町団地軽量鉄骨造テラスハウスについて……竹田　隆次…〃
建築材料としてのプラスチックス……
大島敬治・楠山寿己…〃
二種高炉セメントを使用したコンクリートについて……高野　卓也…〃
関西建材協会々員の建築材料……11

基礎工法

地下工法に関する座談会……森田紀元外… 9
土質安定工法……村山　朔郎…〃
被圧水と施工……谷口　尚武…〃
新大ビル新築工事におけるウエルポイント工法……谷　一郎…〃
新朝日ビルの基礎に応用されたサンドドレーン工法……小泉　昇…〃
阪急ビル増築工事の基礎工法について……
木曽　優吉…〃

施工

ショットクリート工法…… 9
1．ショットクリート工法について……
永本　善三…〃
2．国鉄での実例……
天王寺鉄道管理局建築課…〃
3．大成建設での施工例……山下　暢雄…〃
プレパクトコンクリート……
高橋慶夫・長田正雄…〃
重晶石を骨材とするグラウチング工法……
LEWIS NARROW…室井修（訳）…〃

施工トピックス

堀方の障害……永山　豊二… 9
現場のウマの高さ……七尾　健三…〃
防水失敗談……今林彦太郎…〃
PC 建築対談……河合　三郎…〃
一施主の立場より……元木　貞次…〃
工事の出来栄え……小西　卯…〃
施工精度基準化……岩下　久哉…〃
建築工事施工の成功失敗とその根元……
渡部　圭吾…〃

歴史

号

日本の古建築における基準寸法……
大森　健二… 1
法隆寺再建非再建論争の結末とその後……
山本　栄吾…〃

住宅・アパート

「最小限住居」はどんな意味があるか……
丹下研究室… 3
都市の住宅配分の問題……川名吉衛門…〃
住宅と生活意識……牛田尹久子…〃
あばーと団地の景観……諫早　信夫…〃
住宅問題解決への段階……住宅委員会…〃
三田 TOKYU-APARTMENTS の企画と経営について……増田　誠一…10
堺浜市内共同ビル群建設5年 …石橋　逸吉…〃
併存住宅建設のための手引
金融公庫の中高層耐火建築物の融資について……竹内佐平治…10
住宅公団の市街地施設について……
小西　嘉夫…10
中高層建物への融資について……
増井　敏克… 8
住宅関係の税金の問題
住宅新（増）築に伴い賦課される税と保存登記の登録税について……西嶋徳太郎…10
鹿児島での住宅……扇田　信…10

家具

竹中工務店本社事務用家具について……
村尾　栄…11
これからの住宅と家具について……
住宅委員会… 3

建築生産・建築経済

明治以前における建築生産の諸形態について
川上　貢… 1
建築儀礼について……
――民俗学の立場から――…林　宏…12
建築工事の祭式供について……浅野　繁雄…〃
日本建築の工作や加工の変遷…浅野　清…〃
工匠の用いた用具……相沢喜久太郎…〃
建築生産に関し職人の実態の変遷……
中出　定夫…〃
職人の養成について……早川　嘉行…〃
大学卒業生の職場分布……巽　和夫…〃
大阪での生コンクリートの状況……
柳田発己夫… 9
コンクリートブロックの近畿における生産と需要……〃

災害

風災

構造物に作用する風圧力に関する諸問題……
石崎　澄雄… 8
コ型PLANの鬼門（風と平面）……
光安　義光…〃

火災

消防局より建築家への忠告……空本　吉造…〃
建築物と排煙の問題……空本　吉造…〃
火災保険料率規定について……中村　嗣…〃

労災

根伐山留工事の災害防止としてのウエルポイント工法……大阪建設業協会労務研究会…〃
足場によつて生じる災害の防止について……
大阪建設業協会労務研究会…〃
建設機械と災害について……　同　…〃
アメリカの建築工事安全規則について……
五十嵐定義…〃

虫　　災　　号

木造建築物の白蟻被害について……
真宮　透… 8

老　　朽

大阪市内の老朽住宅とその現状……
斧出　正隆… 8

防災トピックス

電気と火災……黒本　勝夫… 8
スプリンクラーとドレンチヤー……
竹口　信夫…〃
国宝および重要文化財の防火措置の現状……
大滝　正雄…〃
工事用の電源……中島　弘…〃
1.0より大きい風力係数 ……石原　正雄…〃

設備原論Q・A

関西設備原論研究会

1. 壁の結露や湿りを防ぐにはどうすればよいか…… 1
2. 風があれば寒く感ずるが，その温感に及ぼす影響はどれ程か？……〃
3. 建物各面の受ける日射量を簡単に知る方法…… 2
4. 騒音を防ぐには建物配置を如何にすべきか……〃
5. 住宅内の空気中にはどの程度の塵埃があるか…… 3
6. 昼光照明で間接照度を簡単に求める方法は……〃
7. 日照日射図表の応用性…… 4
8. 夜間ふく射とは何か，建物とどんな関係があるか…… 5
9. コアープランにおける浴室・便所・厨房の換気はどうしたらよいか…… 5
10. 同時使用率はどのようにして決められているか…… 6
11. ルーバーの遮日効果を簡単に知る方法… 7
12. Air Washer で除塵できる水温と水量はどの位か……〃
13. ルーバーの日射に対する遮蔽効果はどうして検討すればよいか…… 8
14. Air Curtain…… 9
15. デイグリーデーとはなにか，燃料消費量はいかにして求めるか……10
16. 天井面を保温すると暖房上どれ程有利か……11
17. 中層アパートの各住戸の損失熱量はどれ程違うか……12
18. 壁体遮音の重量則とは何か……〃

書　　評

「住居の歴史」後藤守一著……西川　幸治… 3
「住居の科学」吉田守著……巽　和夫…〃
「みんなの住い」谷口吉郎編…前川　道郎…〃
「アパートの暮し」重松敬一編……
絹谷　祐規…〃
空気調和法・空気調和ハンドブック
空気調整の基本計画……田中良太郎… 7
Lighting Design ……松浦　邦男…〃
し尿浄化そう……上林　博雄…〃
米国の建設工業生産性視察報告書を読んでの所感…… 9
町大工――東京の職人おぼえがき……
藤田　邦昭…10
商店街と高層建築……渡辺　禎己…〃

号

住宅総覧……絹谷　祐規…10
住宅年報……絹谷　祐規…〃
建設業物語……政岡　基次…12

技術講座　　号

姫路城天主閣群の振動実験……石崎　瀧雄… 1
デフォルマされた建築……越智　隆晴… 2
公団住宅の電気設備について…仲井　喜作… 3
耐用年数について……井上　英彦… 4
耐震壁の話……鬼武　信夫… 5
伝熱の理論（防火被ふく計算を例として）…
前田　敏男… 8
金額を基準とした工程表 …大成建設ILU… 9
住宅団地植栽の問題点……中村　――…10
改良木材……後藤　輝男…11

座　談　会

青年建築家座談会…… 6
住宅政策の当面の諸問題…… 3
当面の住宅政策のポイントをつく
（併存住宅・都市再開発・公団住宅と家賃等）……10
婦人と住宅　大阪の婦人団体と語る
（住宅環境・規模・造築・住宅政策）……10
婦人と住宅について
（日本間と洋間・子供の部屋・家相）……10

原子力問題

原子力実験室における建築の問題……
A.D. Mackintosh…室井修（訳）… 5
原子力発電と建設技術……室井　修… 6
原子炉建造用高密度コンクリート……
HAROLD S.DAVIS 室井修（訳）…11

統計・資料

仕上別による建築材料名の索引……
伊藤幸一・森　正信…11
現場実習に対する調査……本会教育委員会… 7
現場実習指導要領……教育委員会… 8
貸事務所と駐車場施設について……
日本建築協会・
大阪府建築士会合同法規委員会… 8

紫煙室・巷の声

小野薫さんを悼む……坪井　善勝… 2
羽藤文男君を憶う……西沢　文隆…〃
二上山をあるく……室井　修…10
市民は建築家に何を望むか……〃

会員の声

流行住宅を攻撃する……浜田　和夫… 7
実務に役立つ便覧を！……川村　統之…〃
本誌に対する注文……
泉佐野市役所建築係グループ…〃
「誌相」というもの……向井　正也… 8
堅実という名の退歩……山田あつし…〃
ある覚え書……X. Y. Z.… 9
設計の Standardization …森　正信…〃
公営住宅団地と住宅の随想……光安　義光…10
裏返しの百聞，一見に如かず…鷲尾　健三…〃
住宅問題のある先輩にあてて…金沢　弘真…11
住宅施策評論に一言……山地　英雄…12
本誌の表紙デザインに寄せて…向井　正也…〃

建築の眼

足立　孝・岡橋作太郎・佐野正一・深見実郎
陶浪貞彦 ……1,2,3,4,5
浦辺鎮太郎・佐野正一・政岡基次・増田友也
鷲尾健三……7,8,9,10,11,12

彰国社新刊案内

新刊 **31.百貨店・商店・ホテル・レストラン**
建築学大系 全40巻
建築学大系編集委員会編　執筆—塩川旭・吉阪隆正・滝浦潤・二階堂辰彦・福永満八・中村登一
A 5 判470頁前後 特製 予定価¥1,180 〒120

1. 製図
建築講座 全10巻
執筆：安藤勝男・菊竹清訓　工高の参考書として又，2級建築士受験の原動力として最適
A 5 判　200頁　上製　定価 ¥ 350　〒 40

対立と調和
ブロイヤー建築論
芦原義信訳編　ブロイヤーの建築論を，氏の作品と対応させながら述べた一大著作です。
A判変形144頁 総アート 定価¥1,250 〒130

63.クラブ
建築写真文庫3期 全30巻
彰国社編　クラブ建築を写真と図面により網羅した新築改装にすぐに役立つ好適な参考書
B 6 判 80頁 総アート　定価 ¥ 300　〒 30

28.トラス
建築文庫
鷹部屋福平著　構造力学では世界的権威の著者が，簡明にこの問題にのみしぼつた好資料
B 6 判 変形 152頁 上製　定価 ¥190　〒20

29.商店照明とディスプレイ
建築文庫
柳瀬　駿著　この方面の権威である著者が，多数の図版を用いて具体的に述べた好資料。
B 6 判 変形 184頁 上製　定価 ¥200　〒20

初等境界値問題の解法
応用フーリェ級数
R・V・チャーチル著　洪四方次訳　物理学と工学に密接な関係を有する世界的な著作。
A 5 判　260頁　上製　定価 ¥ 650　〒 70

建築文化臨時増刊133号
彰国社編　協同設計の新しいゆきかたを，連合設計社の作品群の中にとらえてあります。
B 4変形 100頁 全グラビヤ 定価¥250 〒20

重版 **日本の新建築**
小池新二・浜口隆一編　1953〜55年の代表作
B 4変形142頁 総アート 定価¥1,500 〒150

図集 あたらしい商店
西川驍著　新鮮な独創的デザインの集成です
B 5 判76頁総アート(原色3頁)定価¥380〒40

21.建築防火論
建築学大系 全40巻
建築学大系編集委員会編　権威17名の集大成
A 5 判 398頁 特製　定価 ¥ 1,000　〒 100

3.材料・一般構造
建築士技術全書 全6巻
森　徹編　一級建築士の実力養成と受験用。
A 5 判　524頁　特製　定価 ¥ 850　〒 90

6.床の間
建築写真文庫
彰国社編　具体的な写真により多数例を集録
B 6 判 96頁　総アート　定価 ¥300　〒 30

東京都千代田区平河町2—11・電話(33)営業—0293・2851　編集—1745・4523　振替東京173401

広告目次 (50音順)

浅海電気kk …… 2
アスファルト同業会関西支部…… 9
伊奈製陶kk ……中挟
泉石綿工業kk …… 6
井田商事kk ……56
kk岩住鉄工所 …… 7
岩元工業kk …… 8
靱興産kk建材部 ……10
上山製陶所……中挟
kk栄興商会 …… 4
kk荏原製作所 ……表紙 4
オリエンタルメタル製造kk …中挟
大阪建材工業kk ……20
kk大阪城口研究所 …… 3
kk大阪電気暖房商会 …… 3
大阪耐酸工業所……10
大島応用化学工業kk …… 6
kk奥村重兵衛商店 ……54
奥山化工業kk ……18
織本特殊構造研究所……14
樫野石灰工業kk …… 4
kk川岸窯業 ……15
関西ペイントkk ……表 3
川口ゴム工業kk ……前付
近畿建材工業kk …… 4
工藤電気kk …… 2
kk久保商店 …… 1
kkケントク ……20
kk建材社 …… 3
神戸材料kk ……表紙 3
kk金剛商会 …… 7
kk工英社 ……表紙 2
斎久工業kk …… 3
kk斎藤省三商店 …… 3
坂本商会……15
三機工業kk …… 3
kk三幸商会 …… 4
kk三興社 …… 2
kk三晃商会 …… 3
三宝電機kk …… 2
彰国社……74
新興建材工業所……16
新鋼建設工業kk ……76
須賀工業kk …… 3
鈴木シヤタア商会…… 4
住友商事kk ……12
セメダインkk ……前付
田島応用化工kk ……17
田中工業kk …… 1
田中風呂製作所…… 6
田辺工業kk ……53
田村商会建材部…… 6
谷山製作所…… 6
大信ペイントkk ……10
大日本硝子工業kk ……13
大仏組…… 4
大和ハウス工業kk ……11
高砂熱学工業kk …… 4
kk武智工務所 ……54
kk立花商会 …… 2
耐酸化学工業kk ……19
中央電気工業kk …… 2
朝陽電気kk …… 2
東邦商会…… 5
東京鋼板工業kk …… 8
東洋キヤリア工業kk …… 4
東洋陶器kk ……前付
東洋リノリュームkk ……前付
東洋レーヨンkk ……目次対抗面
中之島製鋼……前付
ナニワ瓦kk …… 7
内外工業kk ……13
内外土木建材社…… 7
浪速合板…… 5
浪速建材工業kk ……19
日本エヤーブレーキkk ……15
日本金具製作所……中挟
kk日本ンヤッター製作所 …… 8
日本セメント防水剤製造所…表紙 3
日本ドアーチエック製造KK……中挟
日本レーヨンkk ……中挟
日宝蛭石kk …… 7
kk西原衛生工業所 …… 3
三星西日本アスファルト事業協同組合表紙 4
kk日本動力安全機製作所 ……11
日本ペイント…… 5
日製産業kk …… ……前付
kk野上工業所 …… 2
kk林塗装店 …… 4
kk汎建製作所 ……14
浜岡商店……76
kk日立製作所 ……表紙 2
平田建築構造研究所……13
平川鉄工所……前付
福屋工業kk …… 4
藤森工業kk ……前付
フタバ黒板……76
豊国セメントkk …… 8
星金属kk ……56
kk松重電機商店 …… 2
水谷ペイントkk ……55
kk三高製作所 ……14
kk三谷製作所 ……目次対抗面
三国コンクリート工業kk ……13
峰岸商店……18
美工装飾kk ……53
美素工業所……前付挟込
kk室谷商店 …… 5
山田工業kk …… 3
kkヤマト電気商会 …… 2
油脂化工社……表紙 3
kk吉田芳雄商店 ……15
吉野石膏kk …… 5
kkライト製作所 …… 1

特別広告関係前付アート(順不同)

清水建設kk大阪支店 ……
大阪市西区土佐堀通2−2 電㊃1531〜9

田島応用化工kk ……
大阪市西区京町堀上通1−14 電㊃0809(代)

kk鈴木シヤタア商会 ……
大阪市北区茶屋町33 電㊂0098・5837

三機工業kk大阪支店 ……
大阪市東区高麗橋3−1 電㊃2951・3076

kk大林組 ……
大阪市東区京橋3−75 電㊃0861〜0866

竹林塗装工業kk ……
大阪市北区茶屋町38 電㊂0564

kk矢橋大理石商店大阪出張所 ……
大阪市東区高麗橋2−9 野村ビル5階 電㊃4257・4258

カタログ挿入について

このカタログは業者提供で，内容，刷りとも充分見やすく，利用価値のあるもの（たとえば，色刷で，製品の特徴，規格，値段などの資料として使えるもの）を挿入して誌面を引きたてると同時に読者へのサービスと業者のP.R.とに資していただければ幸いと存じております。

とくに新製品を宣伝される場合，新しくカタログをお造りになる場合，御利用いただければ幸いです。このカタログ挿入に際しては，下記のように「カタログ分類番号」を肩に付して，カタログ自体としてまとめてみても利用できうるようにしていきたいと存じます。

AAJ：日本建築協会略 (the Architectural Association of Japan)

たとえば AAJ $\frac{1}{15}$ は　1：業社番号（掲載順）

15：カタログ分類番号（下記を参照）

本カタログ挿入御希望の向は本会事務局までお連絡下さい。係員が参上して，挟込料，印刷部数，カタログ分類番号，締切日，その他の御相談を申しあげます。

社団法人　日本建築協会
大阪市東区北浜3—37　電話北浜㉓9648.9649.9640

——カタログ分類番号——

1. 仮設工事
2. 土工事
3. コンクリート工事
4. 鉄骨工事・鉄筋工事
5. 木工事
6. 防水防湿工事
7. 屋根工事
8. 金属板金工事
9. 石工事
10. 煉瓦タイル工事
11. 建具工事
12. 硝子工事
13. 左官工事
14. 塗装工事
15. 床敷仕上工事
16. 壁・天井仕上工事
17. 家具・備品
18. 清掃関係
19. 設備工事
20. 雑工事
21. 工事用機器
22. 土木工事・特殊工事
23. 業社関係

絶讃!! 壁材
高尚脱色変色せぬ
趣味の壁砂
富士印
カラーサンド
汚れぬ耐火保温防暑防音
塗るテツクス
カラーサンドの石綿質
ダンネツオール
合名会社
浜岡商店
兵庫県津名郡一宮町郡家港
電話郡家二〇番



Standard Board&Slate
フタバ黒板
大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地 電話天王寺(77)4692番

軽量鉄骨
軽量鋼製窓枠
の
設計・加工・販売
新鋼建設工業株式会社
取締役社長　吉田信武
大阪市西区新町通2丁目25　電話 ㊾ 609・6575
工場 神戸市東灘区本庄町青木古堂町53　電話 神戸 ⑧ 6 1 6
広島県御調郡向島町立花3010　電話尾道2868　向島西19
大阪市西区阿波座中通2丁目　電話 ㊾ 504・6478

AAJ 1/7

三星印

アルミン

特許品

▶ アルミとルーフィングの貼合せ屋根材



田島応用化工株式会社

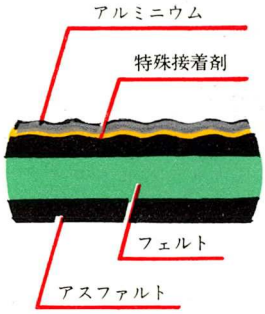
三星アルミンとは……

アルミンは高純度のアルミニウム箔と高級なルーフィングとを特殊な接合法で密着させた銀色の屋根葺材料です。





アルミンの表面



アルミンの断面

三星アルミンの特徴

耐久性耐蝕性が大きい

アルミンは日光（紫外線）や風雨に容易に犯されません。

アルミンは海岸や工場地帯の潮風やガスにも強い抵抗性を発揮します。

耐火性耐熱性である

アルミンは表面が金属被覆のため耐火性にすぐれています。

アルミンは火災の時の火の粉にも安全です。

光や熱を良く反射する

アルミンは日光や輻射熱を90％以上反射します。

アルミンは建物の熱絶縁に優れた性能を示します。

経済的である

アルミンの屋根は軽くて、塗装する必要もなく、トタン葺きや瓦葺きよりはるかに経済的です。

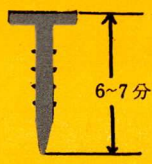
三星アルミンの規格

全幅	1米（3尺3寸）ラップ取
1巻の長さ	36尺
葺上り面積	3坪
1巻の重量	20kg

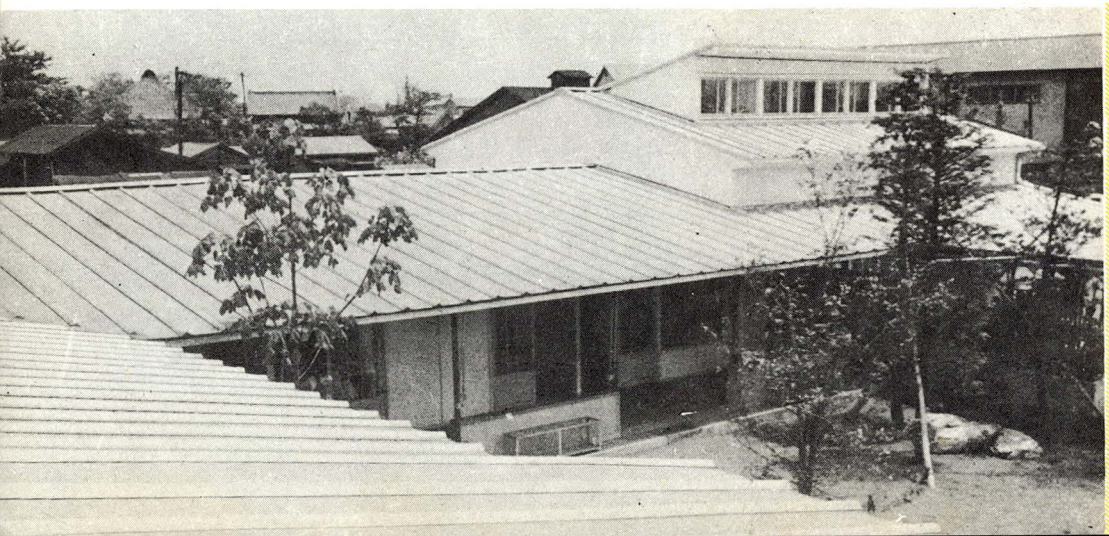
○芯棒の中にアルミン用釘が入れてあります。

1巻につき　200本入　1袋

○釘を打つ重ね目にはアルミン用接着剤を塗布する事。

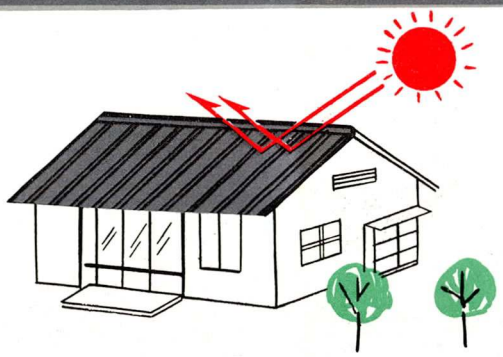


アルミン用釘
（亜鉛引き太釘）



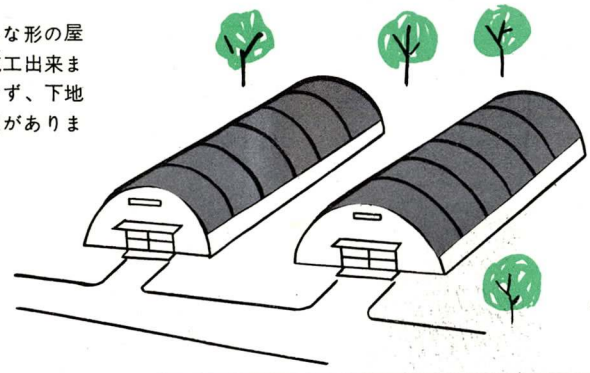
アルミン瓦棒葺きの屋根

ALUMIN ROOFING

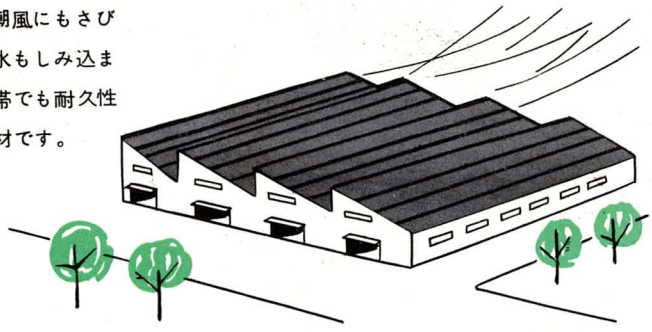


アルミンは99.6%以上の高純度のアルミニウムを表面に使用して居ります太陽光線を反射し、夏季の室内温度を下げます。

アルミンはどんな形の屋根にも容易に施工出来ます。伸び縮みせず、下地から剝れる心配がありません。



アルミンは潮風にもさびません。雨水もしみ込まず、工場地帯でも耐久性のよい屋根材です。



アルミンの施工法

瓦棒葺き（勾配屋根）

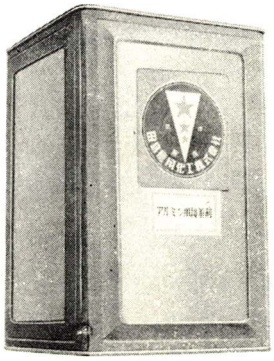


釘打ち法（勾配屋根）



アスファルトで貼る方法
（陸屋根）





施工上の注意

1 釘打ちによる施工法の詳細は1巻毎に入れてある説明書に記してあります。

2 釘は附属している指定品を使用する事。接着剤（ラップセメント）は当社に用意してあります。
（5, 2.5, 1ガロン各罐入）

3 コンクリート又はセメントモルタル面を伝った雨水のかゝる所ではアルミンがいたみますからコンクリート，モルタル面を塗装せねばなりません。

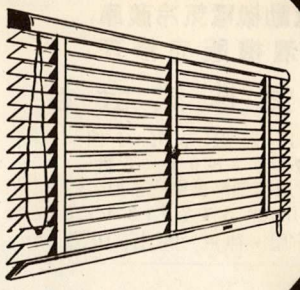
4 此の塗装や仕上げに必要な場合には銀色塗料三星シルバライトを御用命下さい。

三星印ルーフィングの

田島応用化工株式会社

東京都足立区小台町６３３　Tel. 王　子（91）代表１１８１
大阪市西区京町堀上通１～14　Tel. 土佐堀（44）代表０８０９

新しい機構と感覚
ブラインドは
ライト
株式会社 ライト製作所
大阪市城東区野江東之町3－78
TEL (33) 1183・3638
営業所・東京・広島



田中式 スカイライト
スチールサッシュ
スチールシャッター
オペレーター
スチールドアー
ベンチレーター
田中工業㈱大阪出張所
設計施工
大阪出張所 兵庫県尼崎市南竹谷町2ノ89 電話 ㊽0545
本社 東京都墨田区吾嬬町東4ノ122 電話 城東㊽0870・0970
錦糸工場 東京都墨田区錦糸町1ノ25 電話 本所㊽0790・5133
小倉工場 小倉市赤坂上の宿37 電話 小倉0653・2833
川崎出張所 神奈川県川崎市東渡田3ノ43 電話 川崎②4540
札幌出張所 北海道札幌市北三条東7ノ4 電話 札幌③0515
盛岡出張所 岩手県盛岡市木伏179 電話 盛岡2554
名古屋代理店 名古屋市西区西菊井町2ノ12岡田建材店 電話 西㊽0121

信用ある技術と伝統の
アスファルト工事
専業大店
株式会社 久保商店
大阪市北区真砂町5番地 電話大阪(34)207～8・4836～7

電気工事設計施工
変圧器電動機電気冷蔵庫
電気洗濯機販売修理
工藤電気株式会社
大阪市北区太融寺町五四
電話・大阪㊱2891－5番
工場　大阪市西淀川区御幣島東一丁目二〇
電話淀川㊼3477・3478
営業所　東京・名古屋・神戸・岡山・広島

各種電気工事設計施工
淺海電気株式会社
取締役社長　淺海正雄
大阪市東区北浜二丁目六九
電話北浜㉓5273－5275・4241
営業所　東京・神戸・岡山・小倉・札幌

電気設備工事
設計・施工
朝陽電気株式会社
本社　大阪市北区中之島三丁目三　朝日ビル6階
電話　大阪局㉓9531(大代表)
営業所　大阪市西区土佐堀通リ四丁目十一番地
電話　大阪局　㊹5201番(代表)～3

電気工事全般設計施工
中央電気工業株式会社
取締役社長　今村騰
本社　大阪市北区曾根崎上一丁目四一
電話　大阪㉞8131代表～4
営業所　東京・新宮・御坊

電気工事設計施工
株式会社　野上工業所
取締役社長　野上清二郎
本社　大阪市東区北浜三丁目四七　電話北浜㉓770～3
支店　福岡市上東町十五　電話東③5010
支店　松阪市本町電話2480～2
出張所　東京・名古屋・神戸・直方・田川・大分

電気工事設計施工
株式会社　**ヤマト電気商会**
取締役社長　山本龍太郎
本社　大阪市北区西堀川町15番地
電話　㉞代3056
東京営業所　東京都中央区銀座東8丁目4番地
全国燃料会館502号室　電話㊺7464
出張所　名古屋・防府・福岡

電気工事設計施工
三宝電機株式会社
取締役社長　嘉納傳三
本社　大阪市大淀区浦江北二丁目五一
電話㊺5148・6460・6646
営業所　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル八階)
電話㊱3862・1141
出張所　東京・名古屋

電気工事全般設計施工
株式会社　**三興社**
取締役社長　坪井大(タケシ)
本社　大阪市北区絹笠町50番地(堂ビル703号室)
電話　大阪㊱2138代表
支店　東京都中央区日本橋箱崎町三丁目二番地
電話　兜町㊲1478・1479・1470番
出張所　大阪堺・名古屋・下関

電気工事各種設計施工
株式会社　**松重電機商店**
取締役社長　松本芳太郎
大阪市東区今橋二丁目十六番地
電話　北浜㉓6951(代表)～3

三菱電機製
NFノーヒューズ分電盤　NFノーヒューズ配電盤
螢光灯・モーター・変更器・冷暖房・エレベーター
三菱電機株式会社元扱店
株式会社　立花商会
大阪市東区南本町二丁目四三番地
電話本町㉖0323・1575－9

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 **大阪城口研究所**

代表取締役　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話豊崎㊲7575～7
京都市東山区大和大路大仏前・電話祇園⑥4945～6
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話元町④5892

電気・暖冷房・水道・衛生
設計施工

株式会社 **大阪電気商会**
株式会社 **大阪暖房商会**

取締役社長　菅谷三郎

本店　大阪市西区江戸堀南通一丁目三七番地
電話代表土佐堀㊹5231番
東京支店　東京都中央区銀座東二丁目一三番地
電話代表銀座東㊿4391番
名古屋支店　名古屋市中区南武平町二丁目一番地
電話代表中㉔4491番
出張所　京都・神戸・岡山・広島・福岡・熊本
札幌・仙台・新潟・金沢・福井

水道・衛生・煖冷房・其他管工事
設計並施工
特許YM式ルーフドレイン製造販売
(旧斎藤久孝事務所)

齋久工業株式会社大阪支店

大阪市南区順慶町通一丁目四四番地
電話本町局㉙代表4496～8番
本店　東京都千代田区丸ノ内2ノ8仲12号館5号
電話28局6505～8番
金沢営業所　金沢市高岡町三五　電話金沢本局②2074
福井出張所　福井市城之橋下町一〇　電話　福井2436
高松出張所　高松市中新町一〇六ノ三　電話高松5195

創業　大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 **齋藤省三商店**

東京店　東京駅前丸ビル6階676区
電話和田倉⑳3761・3762・3763・3764
大阪店　大阪市西区土佐堀通大同ビル714号
電話土佐堀㊹1568・1569・2594
札幌店　札幌・北四・西四(札幌駅前)
電話札幌②0010・0956③4661
名古屋店　名古屋市中区南大津通一丁目千代田ビル522号　電話中局㉔1766

暖房・冷房・衛生・水道・電気・厨房・築炉
鋼製建具・軽量間仕切・工事設計施工
電縫鋼管・荷役機械・製造販売

三機工業株式会社大阪支店

大阪市東区高麗橋三丁目壱番地・電話代表26局 2951 3076
本社　東京都千代田区有楽町壱丁目十番地
支店・出張所　名古屋・福岡・札幌・広島
工場　川崎・鶴見・中津・六郷

暖房・冷房・水道・衛生工業設備
設計施工

須賀工業株式会社

大阪市福島区堂島浜通4丁目
電話㊺{代表1171番 / 代表1351番}

東京支店　東京都港区芝田村町6丁目　電話㊸代表7151
名古屋支店　名古屋市中区材木町1丁目　電話㉓2780
京都支店　京都市下京区烏丸通松原下ル電話⑤1989
神戸支店　神戸市生田区北長狭通2丁目　電話③代表5101
福岡支店　福岡市千代栄町　電話②代表4735

給水・排水・衛生設備・暖房設備
汚水浄化装置・都市廃物処理装置

株式会社

西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通二丁目五一番地
電話福島㊺3416～8番
東京事務所　東京都港区西芝浦三丁目一番地
電話三田㊺9371番

空気調和装置及衛生設備
設計施工

株式会社 **建材社**

大阪支店

大阪市北区中ノ島三丁目(朝日ビル九階)
電話北浜㉓6041(代)
本社及東京支店　東京都中央区八重洲三丁目七
営業所　名古屋市中区西万町二丁目一

暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

山田工業株式会社

取締役社長　山田文次

本社　大阪市西区京町堀上通一丁目七　㊹代2613・2061
営業所　神戸市灘区福住通二丁目一の五二　⑧4996
出張所　名古屋市中区宮出町四七　㉔5721
〃　東京都北区上十条一丁目一〇　㉛2346
〃　岡山市桜町七六　②295

暖房・冷房・水道・衛生設備
設計施工

株式会社 **三晃商会**

本社　大阪市北区堂島北町一四　㉞代表7031
出張所　東京都港区芝琴平町四〇　㊿9278
名古屋市中区新栄町二丁目一　⑨1820
福井市宝永上町一〇五　1596
広島市石見屋町五五　②1938
福岡市柳原一丁目七　④1158

暖・冷房・空気温湿度調整装置

設 計 施 工

高砂熱学工業株式会社大阪支店

大阪市北区中ノ島3丁目3番地（朝日ビル7階）
電 話 北 浜 ㉓ 7 6 4 1（大 代）
本 社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

空気調和装置、各種冷凍機
設 計・製 作・施 工

東洋キヤリア工業株式会社
大 阪 支 店

大阪市北区堂島船大工町五三番地（毎日大阪会館内）
電 話 大 阪 ㉞ 局 8 3 5 6 （代表）
本 社 東京都中央区日本橋兜町三丁目二四番地
出張所 名 古 屋・九 州 工 場 東京都足立区

媛冷房・水道衛生工事
設 計 施 工

株式会社 **栄 興 商 会**

取締役社長 中 山 俊 人

本 社 大阪市福島区上福島北二丁目一番地
電 話 福 島 ㊺ 3 3 9 1 ～ 4 番
支 店 東京都新宿区荒木町一九番地
電 話 四 谷 1 3 2 4 番
出張所 神戸市生田区下山手通八丁目三三
電 話 元 町 ④ 5 3 7 番

アーマーコート近畿総代理店

近畿建材工業株式会社

営業種目
防水美装塗料……アーマーコート
特殊防水パテ……バルカテックス
ラテックスペイント…スプレッドサテン

販 売 並 責 任 施 工

大阪市北区茶屋町33 電話大阪 ㊲ 3003番

風雨に強く
和瓦より安い

大和洋瓦（だいわ）

発売元

大 仏 組 大仏瓦・各種和洋瓦 工事請負一式

本 店 京都市東山区今熊野池田町九 ⑥3555
大阪営業所 大阪市東区内淡路町一丁目 ㉞ 975

工業用及建築用各種石灰製造販売
小野田セメント特約販売店

樫野石灰工業株式会社
大 阪 支 店

大阪市北区曽根崎新地三丁目五十三ノ一
（市電桜橋停留所前）電話大阪㉞1274～6
支 店・徳 島・神 戸・姫 路・東 京

PAINTING CONTRACTOR

塗 装 工 事 請 負

株式会社 **林 塗 装 店**

TEL. 大阪 ㉕ 1756—7・東京 ㉙ 1335

陶管・ベンチレーター

株式会社 **三 幸 商 会**

大阪市北区曽根崎上一ノ四一
電 話 大 阪 ㉞ 3 1 4 5

ヒ ュ ー ム 管

リグノイド床・床材料

製造・販売・施工

福屋工業株式会社

本 店 大阪市西区南堀江上通一丁目卅一
電 話 新 町 ㊸ 3 4 2 6 ～ 7

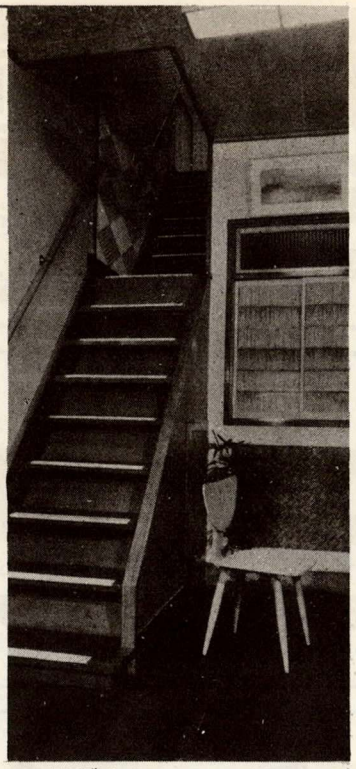
鈴木式防火シヤタア

鈴木シヤタア工業株式会社大阪出張所

株式会社 **鈴木シヤタア商会**

大阪市北区茶屋町三十三番地
電話 豊 崎 ㊲ 98・5837・8729

吸音多孔合板
ベニヤトーン
日楽の繊維板
ヤマハボード
瑞典のハードボード
エロナイト
二重色調浮出塗
カラーボード
ポリエステル化粧板
ポリプライ
防音と色彩調節板
リズムウード
高級接着剤
ポリゾール
九ツの特長を誇る
九徳天井板



モデルルームへどうぞ

一歩でも時代感覚に先駆しようと努力しています

大阪市浪速区幸町通3丁目20 **浪速合板** 電話 新町(53) 2201−3番

工場 大阪市住吉区西加賀屋町4丁目81・電話 住吉(67)5109

燃えない建築資材
耐火ボード
タイガー印
石膏デスボード
タイガートーン
絶対に亀裂を生じない劃期的下塗壁材
Y.N石膏プラスター
キーンスセメント
各種焼石膏
吉野石膏大阪支店
大阪支店 大阪市西区土佐堀通1−1(大同ビル)
電話(44)3694・0131
本社 東京都丸ノ内・三菱東九号館四号
電話千代田(27)0701−2・7482−3
九州営業所 福岡市大字麦野260 電話西(2)7420

吸音テックス
Acoustic Tex
株式会社 **室谷商店**
本社 神戸市生田区長狭通四ノ一地産ビル
TEL 三宮 ③0881〜3
支店 大阪市北区絹笠町五〇 堂ビル5階
TEL大阪 ㊱2021・3486・1141

木毛セメント板



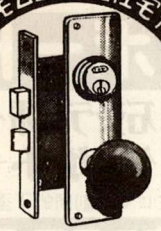
東邦商会
本社 大阪市東住吉区桑津町3丁目59
電話天王寺 ㊼1296
出張所 和歌山市新堀6丁目13
電話和歌山298番

マヂック ペイント
ゼラン ゼリー状壁塗料
JELLUN

特長
- 1回塗りで肉厚仕上げが出来る。
- 刷子，ローラー，スポンヂでも塗装が容易で，垂れたり流れたりしないので衣服を汚すことは殆どない。
- 乾燥が速い（指触30分）ので作業が容易である。
- ゼリー状のため使用前攪拌の必要がない。

大阪 **日本ペイント** 東京
名古屋・福岡・札幌

日本住宅公団・公営住宅御指定



40年の技術の結集、御信頼に応えるゴール製品！

シリンダー扉錠

GOAL

シリンダーレバーハンドル錠
押ボタン式シリンダー錠
アンチ式シリンダー錠
シリンダーナイトラッチ
シリンダー抽斗錠
各種高級彫込錠

谷山製作所

大阪市東淀川区三津屋北通四　電話 豊崎 (37) 3117・7724



清

各種鋼鐵風呂釜一式
箱風呂・ボイラー・ガス風呂

田中風呂製作所

大阪市浪速区元町一丁目七四二　但シ賑橋電停前

田中風呂発売元

電話 戎 ㊹ 5313・8128

ヨツメ アコスボード

日本楽器製 高級合板

タムテキス
ヤハズラス
フローリング

田村商會 建材部

神戸市生田区栄町通2ノ39(安田火災ビル)
電話 神戸 ③ 0591～3番

エバーブライト

アルミニウム ルーフイング

EVER BRIGHT

大島応用化学工業株式会社

本社・大阪市城東区野江東之町4丁目 電話 城東(33) 4481　支店・新居浜出張所・広島四日市

石綿セメント製品の最高水準を行く!!

アスベストバリヤ

(硬質石綿板)

Asbesto. Barrier

建物内外壁、間仕切、天井扉
電気室、発電所、配電室、製鋼
ガラス工場の壁、製糖、製油
製薬工場の床スカート壁など
に最適

泉石綿工業株式会社

呈カタログ

大阪市北区北同心町1丁目11
電話 堀川 ㉟ 3442

焼成

ヒルコン

絶対廉価

耐火・断熱・軽量保温・保冷

吸音・防音・結露防止

大阪市東区高麗橋3－7

日宝蛭石株式会社

TEL (23) 1601・5627・5628

内外式スカイライト

漏らない 破れない 飛ばない

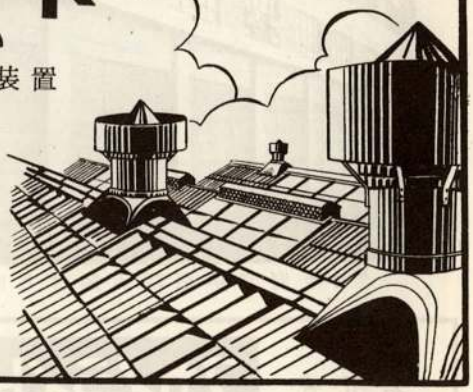
40年の技術と経験により完成された天窓装置

ワイヤ波型硝子完全葺

内外式ベンチレーター

コンチニアス並に筒型（風力換気用）

バーチカル・ベンチレーター（電気扇付）



株式会社 内外土木建材社 設計施工

大阪市西区土佐堀船町23（大阪商工ビル）

電話土佐堀（44）3983番 4396番

優秀機能ヲ誇ル

岩住式 シャッター

ドアー。サッシュ。メタルラス

(JIS 557)

最新ノ機械設備
最高ノ設計ト技術
不撓ノ研究ト改良

株式会社岩住鐵工所

大阪市西淀川区千舟東二丁目三一番地

TEL淀川（47）代表4351・4352・4353・0903・0904

特許植物性 型枠離剥塗料

サンヒット

関西代理店 株式会社 金剛商會

大阪市西淀川区野里町1231 阪神国道電車 野里電停前

製造元 東京 坂巻サンヒット商会 電 淀川㈹0417・4091

雨水浸入剥落防止

耐震耐風

安定軽量



ナニワ瓦株式会社

大阪市浪速区元町一丁目七二番地 電話(64)五六五

ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾配最適軽量 水止付（空葺）瓦

スチールサッシュ
スチールドアー
スチールシャッター

東京鋼板工業株式会社

大阪支店
大阪市北区絹笠町18番地（聚嘻ビル三階）
電話北㉞0621・0628
本社及工場
東京都荒川区尾久町5ノ1.000　電話荒川㊽8131-4


大阪府営堺宿院店舗付共同住宅

戸締ノ改革

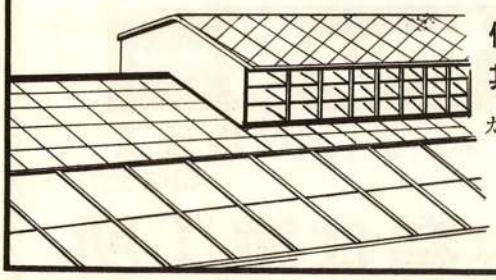
PATENTS No:414855 No:414856 No:35528

店舗、倉庫、ガレージ等ニ最適デス。開閉ハ片手ニテ軽ク揚ゲ降シ致シマス。価格ハ至極低廉デス　御一報係員参上、カタログ進呈

専門製作
株式会社日本シャッター製作所
大阪市東淀川区田川通6丁目38
電話豊崎㉛439

岩元式 スカイライト 並 固定筒型 コンチニアス ベンチレーター

サッシュ、ドアー、シヤッター
伸縮扉、オペレーター、門扉鉄柵
其他金物一式製作施工





カタログ進呈

岩元工業株式会社
本社　大阪市東成区東今里町4の40
電話㊽0616・0617

豊国セメント株式会社

本社　福岡県苅田町
事務所　小倉・大阪・東京

アスファルト防水の材料と工事は

（アイウエオ順）

◀製造業社

協和建材工業 k.k.	大阪市東淀川区田川通5丁目91	(37) 6002・857
k.k. 工英社	大阪市西成区橘通9丁目24	(66) 8861～2
k.k. 工盛社	大阪市城東区西鴫野6丁目43	(33) 4460・8288
大恵工業 k.k.	大阪市西淀川区姫島町1690	(47) 3131～2
田島応用化工 k.k. 大阪出張所	大阪市西区京町堀上通1丁目14	(44) 809～10・1773～5
東亜工業 k.k.	大阪市天王寺区堀越町2丁目1	(77) 915
日瀝化学工業 k.k. 大阪営業所	大阪市東淀川区堀上通3丁目39	(39) 924～5

◀販売業社

浅野物産 k.k. 大阪支店	大阪市東区瓦町2(三和ビル)	(23) 1731代・2931代
池田商事 k.k.	大阪市東区道修町1丁目11(加藤ビル)	(23) 1345・1346・3381
内田商会	大阪市北区万才町47	(36) 900・2841・2966
梅本石油 k.k.	大阪市西区新町北通1丁目52	(53) 9515～6・9585
枝松商会	大阪市北区道本町41	(34) 8643
大阪朝日瀝青 k.k.	大阪市西区南堀江一番町14	(53) 4520・8401
三友アスファルト k.k.	大阪市天王寺区堀越町2	(77) 915
星光商事 k.k. 大阪支店	大阪市北区絹笠町50 (堂ビル二階)	(36) 774
中西瀝青産業 k.k. 大阪営業所	大阪市北区老松町2丁目7	(34) 4305
k.k. 長野商店	大阪市北区中之島6丁目8	(44) 853・5196
日本建設興業 k.k.	大阪市東区北浜4丁目19	(23) 2771～2
前田商店	大阪市西区江戸堀北通5丁目35	(44) 5223～4
山文商事 k.k.	大阪市西区土佐堀1丁目13	(44) 0255代・5392代

◀工事業社

旭化建工業 k.k.	大阪市北区茶屋町38	(37) 6555～7
k.k. 井上浄夫商店	大阪市西区江戸堀下通1丁目7	(44) 3520・4564・1005
k.k. 石田建材店	大阪市東淀川区元今里北通1丁目31	(37) 3340・3505
オリエンタルアスファルト工業 k.k.	大阪市浪速区幸町通2丁目1	(53) 4050・4190
大阪耐酸工業所	大阪市北区浮田町82	(37) 1333
大島応用化学工業 k.k.	大阪市城東区野江東之町4丁目104	(33) 3679・4481・8471
カナヱ商店	大阪市北区空心町1丁目30	(35) 2922
共栄瀝青工業 k.k.	大阪市東区船越町2丁目34	(94) 4255・5727
k.k. 木下謹三商店	大阪市西区江戸堀南通5丁目35	(44) 5408・5486
k.k. 久保商店	大阪市北区真砂町5	(34) 207～8・4836～7
清水興業 k.k.	大阪市北区鶴野町34	(37) 1383・2933・9377
k.k. 新光商店	大阪市南区塩町通2丁目13	(26) 7195～7・4464
高野アスファルト k.k.	大阪市西区江戸堀上通2丁目42	(44) 2148・4164
k.k. 大和商会	大阪市南区高津四番丁73	(64) 1588・1905
内外工業 k.k.	大阪市阿倍野区旭町1丁目51	(64) 3434～6
日新工業 k.k. 大阪支店	大阪市西区新町北通1丁目40	(53) 5281～3
日本瀝青工業 k.k. 大阪営業所	大阪市北区富田町40	(34) 1804
k.k. 双葉商会	大阪市東淀川区木川西ノ町2丁目6	(37) 3375
松本瀝青工業 k.k. 大阪支店	大阪市都島区都島本通7丁目45	(35) 9231
マルヱス工業 k.k.	大阪市福島区上福島南通1丁目152	(45) 2360・2030
k.k. 明正社	大阪市北区樋ノ上町45	(34) 8157～9
米田工業所	大阪市天王寺区南玉造町43	(75) 7271
石井建材有限会社	神戸市兵庫区荒田町1丁目	湊川 (5) 2697
中出商会	神戸市兵庫区上沢通6丁目9	湊川 (5) 4630
三信工業所	神戸市兵庫区神田町439	元町 (4) 6930
有限会社 小野甚商店	岡山市内山下30ノ10	(2) 4272
k.k. 浜原豊商店	尾道市若宮町	尾道2760
青盛建材 k.k.	広島市鉄砲町108	中 (2) 2881～2
古市断熱工業 k.k.	高松市天神前220	高松 4239
正和商事 k.k.	松山市一番町	松山525・1159・2159

▶賛助会員

丸善石油 k.k.	大阪市南区長堀橋筋3丁目	(27) 1251(代)

社団法人 アスファルト同業会関西支部 大阪市西成区橘通9丁目24 電話 (66) 8861・8862

冷蔵庫防熱工事
耐酸モルダル工事

アスファルト専門工事

アスファルト防水工事
アスファルトタイル工事
各種床工事

大阪耐酸工業所

大阪市北区浮田町82番地　**電話豊崎㊲1333番**

UK.S.

プラスチックス建材

登録商標

ウツボライト

ウツボライトM

ポリウレタンスポンジの吸音内装材

ウツボライトS

ポリスチレンスポンジの吸音断熱内装材

材料販売並責任施工

靱興産株式会社建材部

大阪市北区小深町一番地の一　TEL㉞ 0129

新らしい建築には..最も新らしい塗料

合成樹脂製

マスター（調合ペイント）

艶アリ・艶ケシ

建築物（木部・鉄部）
内外部・塗装用

サビコンS（さび止ペイント）

サッシュ鉄骨等凡ゆる
鉄材製品のさび止用

PCL

大信ペイント株式会社

本　社　大阪市東淀川区三津屋中通四ノ四　電話 ㊲ 7371～3
支　店　東京都墨田区竪川四ノ四　電話 ㊸ 1351
出張所　札幌・名古屋・広島

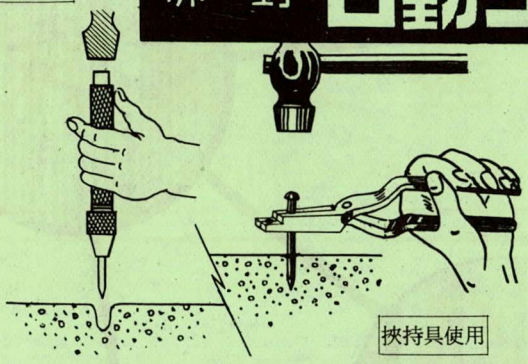
コンクリートに！煉瓦に！

PAT.P 31376 33452
32153 他10数件

ハンマーで簡単に打込める釘

赤い釘 日動コンクリート釘

F式打込チス



挟持具使用

日動コンクリート釘はコンクリートや煉瓦に，木材に打込むと同様にハンマーで簡単に打込めるもので，その能率のよいこと，碇着の確実，そして経済的なことは実に驚嘆の的で正に革命的な釘の出現です。

「詳細については御一報次第カタログを進呈致します」

製造元 株式會社 日本動力安全機製作所

本社工場	大阪市北区東堀川町25（三原ビル内）	電話 大阪 (35) 6331～3
東京事務所	東京都千代田区神田佐久間町3の32（内善ビル内）	電話東京下谷(83)3831・7311・9954
仙台出張所	仙台市元鍛冶町2番地の3（小河原会館）	電話 仙台 (3) 1529・(2)5413
代理店 株式会社日垣本社	大阪市南区安堂寺橋通2の3	電話 大阪 (26) 5091～6
日動電工株式会社	大阪市北区東堀川町15～5	電話 大阪 (35) 6334～5
湯浅金物株式会社	大阪市南区末吉橋通2の10	電話 大阪 (26) 1831～6
太平商事株式会社	大阪市東区北浜3丁目5	電話 大阪 (23) 5831(26)2037

大和式組立 パイプハウス

特許登録弁409476号

軽く・・・
強く・・・
簡単に建つ

特 徴

- 組立解体に特別の技能を必要としない。
- 簡易不燃構造である。
- 軽量鉄骨構造なので費用が低廉で、耐久年数が高い。
- 骨組、外観が美麗である。
- 種々の建築に利用でき工期が短い。

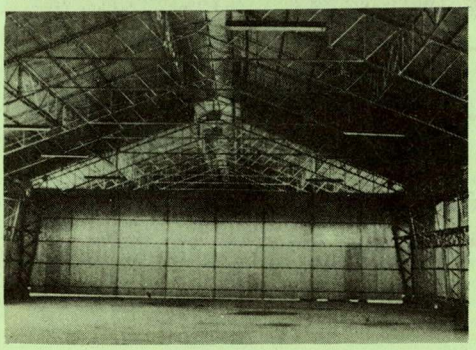
主なる用途

倉庫、ガレージ、工場、事務所、工事現場事務所、飯場、簡易住宅、ビーチハウス、バンガロー

最近の主なる納入先

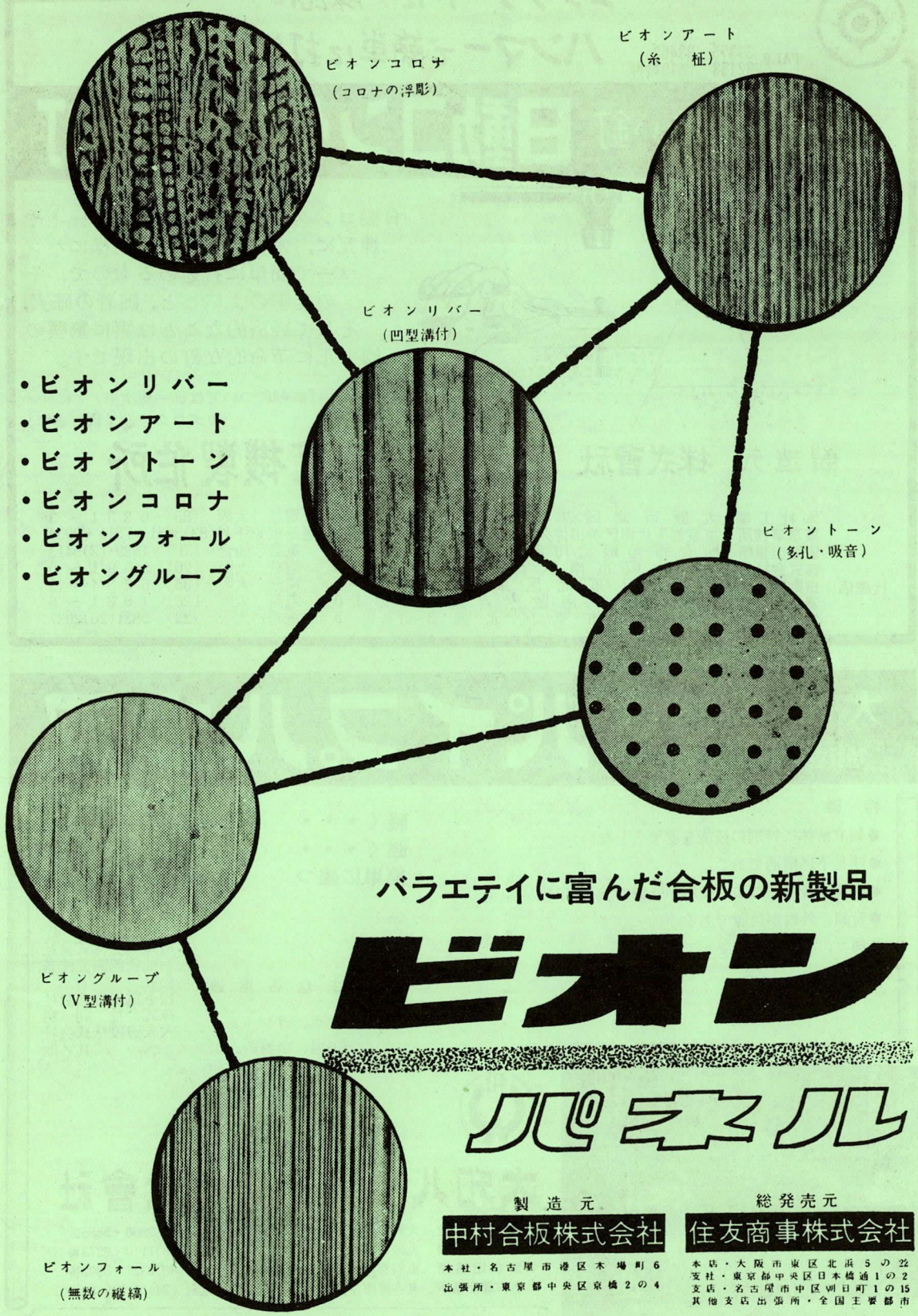
日本国有鉄道公社
日本電信電話公社
建設省
農林省
東京都庁
大阪府庁
電源開発株式会社
石油資源開発株式会社
松下電工株式会社
株式会社間組
大成建設株式会社
其ノ他

本パイプ構造を使用した240坪の倉庫内部



大和ハウス工業株式會社

本社	大阪市南区日本橋筋2丁目39	電話(64)3966・8886番
工場	大阪市都島区中野町1丁目1	電話(35)1140・6373番
東京出張所	東京都港区赤坂青山高樹町6	電話(40)2327・5802番
名古屋出張所	名古屋市中区南久屋町2丁目7	電話 (24) 5508番



- ビオンリバー
- ビオンアート
- ビオントーン
- ビオンコロナ
- ビオンフォール
- ビオングルーブ

バラエテイに富んだ合板の新製品

ビオン

パネル

製造元

中村合板株式会社

本社・名古屋市港区木場町6
出張所・東京都中央区京橋2の4

総発売元

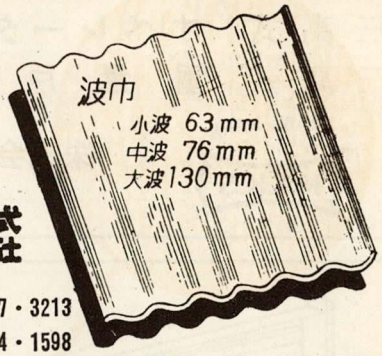
住友商事株式会社

本店・大阪市東区北浜5の22
支社・東京都中央区日本橋通1の2
支店・名古屋市中区丸日町1の15
其他支店出張所・全国主要都市

光り 波型ガラス

ダイニチライト

ポリエステル樹脂
硝子繊維強化板
6尺×2尺4寸(波型)



製造元 **大日本硝子工業株式会社**

大阪支店 大阪市北区玉江町2~4（三菱倉庫ビル）電話土佐堀㊹1597・3213
本　　社 東京都中央区銀座7~3（朝 日 ビ ル）電話銀 座㊲2324・1598

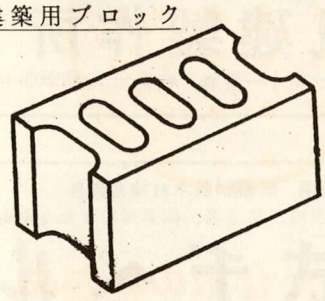
N.G.C式

N.G.インシュライト断熱材製造発売元
メタリヤンメッシュD.M38番責任施工
米国パブコ.コンパウンドアスファルト販売

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルトモルタル工事

内外工業株式会社
脇 山 静 夫
本社 大阪市阿倍野区旭町一ノ五一 電話㊹3434~6
工場 大阪市阿倍野区旭町二ノ六六

建築用ブロック



気泡コンクリート『**マールコン**』

断 熱　冷暖房室の保温壁，床用，パイプ保温用
軽 量　壁用ブロック（水に浮くブロック）
而も 耐 火 と 防 水 の完壁

製造販売 **三国コンクリート工業株式会社**
本社 大阪市北区梅ケ枝町50 電話㊱9187・9188番
工場 大阪市住吉区北加賀屋町3丁目3番地 電話㊼44644番

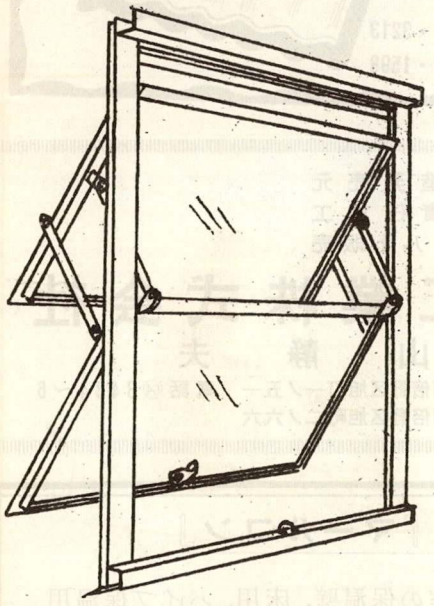
構 造 計 算
特殊構造設計

株式会社 平田建築構造研究所
所長 平 田 定 男
大阪市北区堂島上三丁目十二番地（永和ビル内） TEL㊱5071~4

三高式　ドアーハンガー　　スチールサツシュ
三高式　オペレーター　　スチールドアー
三高式　重量戸車　　スチールシヤッター

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社　三高製作所
本社工場　大阪市東区谷町五丁目二八　電話東㉔2969・0444



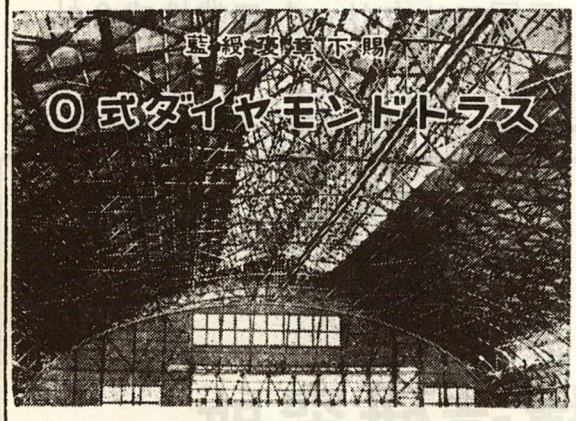
一般製品　スチール　サッシュ
スチール　シャッター
スチール　ドアー

独特製品　汎建型上下げ窓
双脚の四面が摺り合され自然に気密度が高い。
神高型竪形辷出し窓
両開きや片開きに代る堅牢で耐久な構造。
連動突出し辷出し窓
辷出しと上釣りとが完全に平衡連結され操作軽快、開閉確実、体裁優秀な新型。
逓増減分銅付きシャッター
大型シャッターも軽くはやく開閉出来る。

新規製品　普及型上吊り引違い窓
質実堅牢で最も廉価・校舎宿舎などに最適

株式会社　汎建製作所
大阪市此花区恩貴島北之町十一番地　電話　此花㊻2903・4461

鉄材が少くてすみ施工簡易な格納庫・工場・体育館の建築には
"ORIMOTO" DIAMOND TRUSS

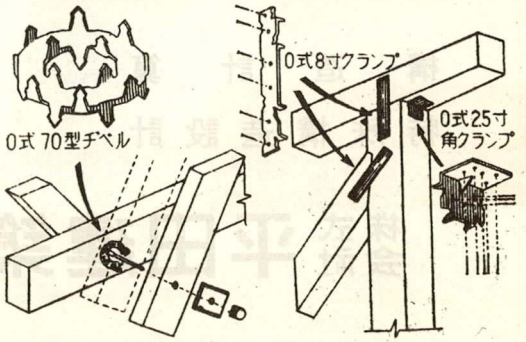


設計の御依頼に応じます（施工は御自由です）
カタログ及び設計参考資料贈呈

考案　織本建築設計計算事務所

官公庁御採用　耐震耐風木材接合金具
住宅、工場、学校、集会場、体育館にまた２階梁に

PAT O式ヂベル
PAT O式クランプ



販売　織本特殊構造研究所
東京都中央区日本橋蠣殻町3～2（水天宮交叉点角）TPL（67）6443・7007・7062

耐酸ツボ各種
天窓瓦福林産地直売
建築陶器の百貨店
株式会社 吉田芳雄商店
大阪市北区南森町交叉点
電話堀川㊱3402・9034



新築移転 電話増設
株式会社 川岸窯業商店
大阪市西区靱南通り2丁目21（市電靱南通り電停前）
電話土佐堀 ㊹ 2571 2764 番

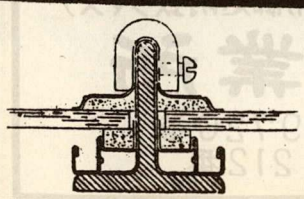
自動扉開閉装置
開けゴマ 扉の前に立つと自動的に扉が開く
マジツクドアー
カタログ進呈
エコノマチツク
ドアーエンジン（空気式）
一般工場向の強力な空気式ドアーエンジンで制御方式は押ボタン式、引張りスイツチ式、踏板式等種々の形式があります。
工場内輸送の合理化、冷媛房の効率保持等のため是非御利用下さい。





スーパーマチツク
ドアーエンジン（油圧式）
百貨店、銀行、病院、ホテルその他一般ビルデイングの出入口ドアーの自動開閉装置であります。ドアーの前に立つと自動的に開き、通り過ぎた後自動的に閉ぢます。一般電灯線に接続して使用出来ます。
日本エヤーブレーキ株式会社
本社・工場 神戸市葺合区脇浜町三丁目二〇五八 TEL②1515～1519
東京事務所 東京都中央区日本橋通三丁目二（広瀬ビル4階） TEL㉗6535～6536

坂本式スカイライト
営業種目
坂本式 スカイライト 坂本式 ベンチレーター
坂本式 連続通風装置 一般建築錺工場
坂本式ベンチレーター
坂本商会大阪出張所
大阪市東区平野町1～4 電話 北浜 ㉓ 4643
本 社 東京都中央区日本橋江戸橋1―11（明治ビル）
電話千代田㉗7266・9859・9918
工 場 東京都墨田区寺島町2―50
電話城東 ㉞ 3918





特殊壁材製造並 右官材料專門卸

セメント防水剤は世界的水準を行く
JIS合格品の御使用を!!



シンケン
防水剤・急結剤

近代建築の和洋室内壁は
防音・保温・落ちぬ・趣味豊かな塗壁材

いすゞかべ

劇場・洋室・学校講堂・公会堂等の内壁には防音・保温の(塗り着けるテックス)

チェリーウオール

(新発売) 純日本趣味の塗り良い優雅な壁

錦壁

セメント・石灰・プラスターの着色剤は純鉱物性・絶対不変色

チェリーカラー

セメントの(アク)で御困りの場合は

シンケン
セメント・アク止剤の御使用を

水溶性特殊接着剤シンケン糊・桜印酸化黄・
ラスヒゲコ・末広布連・其他特殊材料発売元

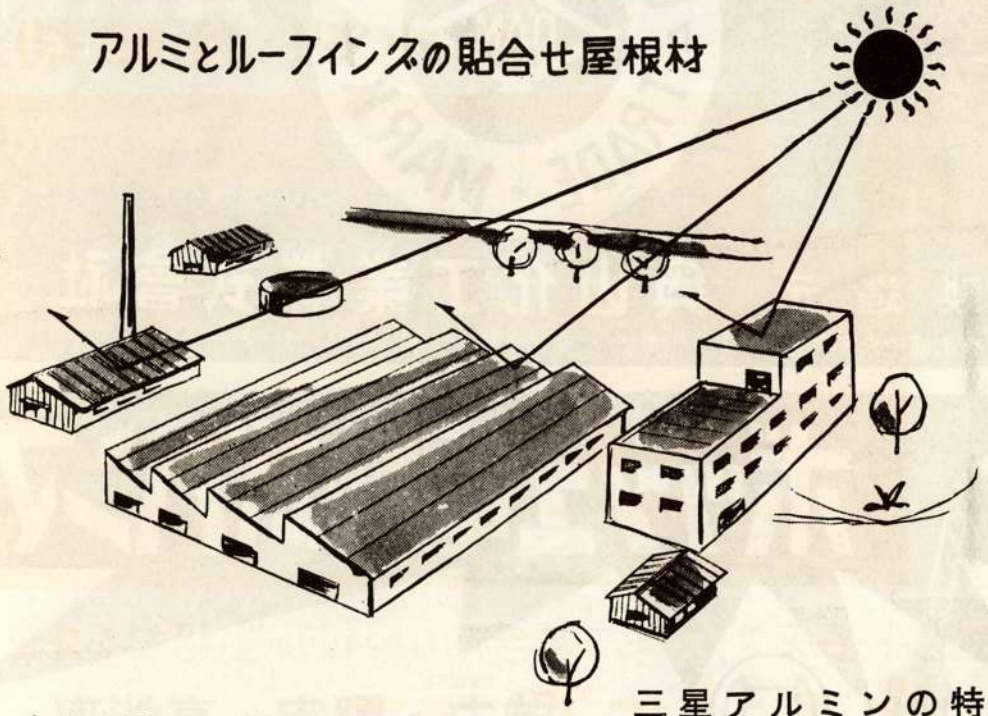
(型録御通知次第御送附致シマス)

株式會社新興建材工業所

大阪市西区四ツ橋・電話新町(53)1988・9720番
工場 大阪市住吉区東長居町36・電話住吉(67)212番

三星印
特許
アルミン

アルミとルーフィングの貼合せ屋根材



巾1ᵐ×長10.9ᵐ（葺上リ3坪）・重量20kg

三星アルミンの特徴

耐久性、耐蝕性が大きい

アルミンは日光（紫外線）や風雨に容易に犯されません。

アルミンは海岸や工場地帯の潮風やガスにも強い抵抗性を発揮します。

耐火性、耐熱性である

アルミンは表面が金属被覆のため耐火性にすぐれています。

アルミンは火災の時の火の粉にも安全です。

光や熱を良く反射する

アルミンは日光や輻射熱を90%以上反射します。

アルミンは建物の熱絶縁に優れた性能を示します。

三星ルーフィングの

田島応用化工K.K.

東京都足立区小台町６３３　ＴＥＬ王子（91）代表1181
大阪市西区京町堀上通１－14　ＴＥＬ土佐堀（44）代表809

黄綬褒章受賞
特許 奥山式熱工法 冷工法 綜合防水層
カッパー防水帯
C.F #38
COPPER-BOSUITAI
OAM
TRADE・MARK
カッパーメッシュ
コーバータイト
耐酸耐油工事
アスファルト工事一般
製造元 奥山化工業株式會社
東京都中央区銀座西8丁目3番地・電話 銀座 57 2703 4・2370・4064・0264

ボッシュ電動式ハンマー

カタログ本誌名記入
お申越次第進呈
強力・堅牢・高能率
穿孔・削切兼用・(電灯線使用)
コンクリートの穿孔，削切
目粗しに高性能を発揮します。
独乙ロバート・ボッシュ会社製
日本総代理店
株式会社 峰岸商店
大阪出張所
大阪市西区江戸堀上通1丁目8番地
電話土佐堀㊹0842・2181

PABCO GRIP-DEK

床には
パブコ
グリップ デック

滑り止・軽量・耐火・防蝕の特質があり
木，鉄，コンクリートに完全密着するマスチック・フローリングです
主なる用途　化学工場床・船舶甲板・プラットホーム・廊下・その他何れの床にも耐久性で調和のとれた色彩に応じられます

TRADE MARK PABCO

耐酸化学工業株式会社
大阪市北区高垣町80　電話大阪㊱0178・4161(代)

(説明書呈上)

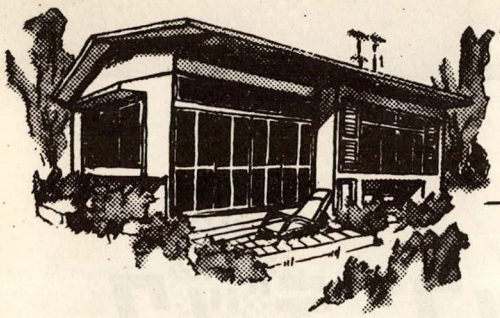
浪建式

スチールサッシュ・ドアー
シッヤター・オペレーター
— 製造販売 —

日満ゴムタイル
全国総代理店
責任施工

大正十四年
創　業
浪速建材工業株式會社

本社・工場・大阪市城東区野江中之町一丁目九番地　電話城東㉝1171～3番
東京営業所・東京都中央区銀座東六丁目木挽館ビル六号館607号室　電話東京㊺4611
福岡営業所・福岡市天神町三番地(サンビル内)　電話福岡④8462番
出張所・大分市栄町下市三一七番地　電話大分1366番



家を建てたら・・
ツヤ出しケントク

——板の間・廊下に——→

新築に
水拭きではすぐに黒ずみニス・ラッカは白木の味をなくし、はげると見苦しくなりますが、すべらぬ白木艶出ケントクを月に一～二回ぬりこめば毎日はカラ拭きで新築そのまゝの美しさを保ちます。



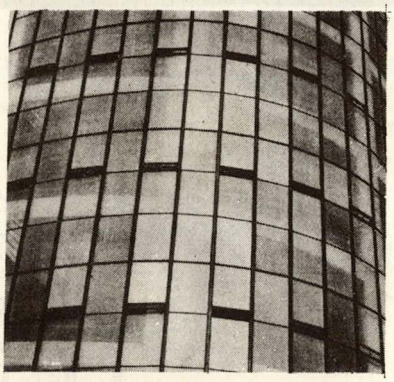
板の間廊下のすべらぬ白木ツヤ出し

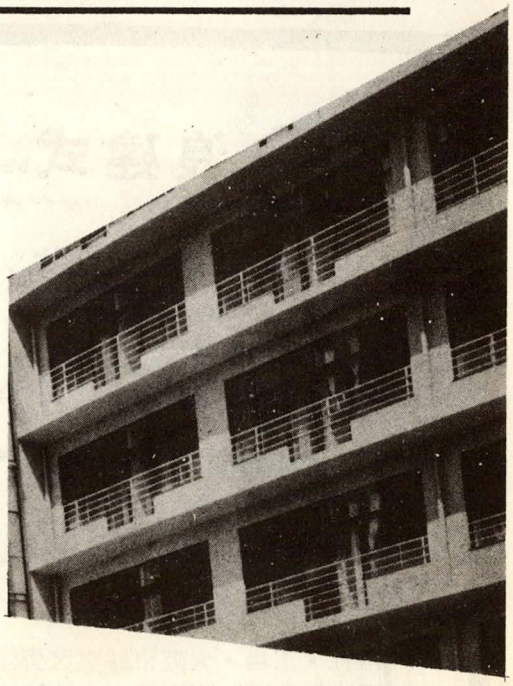
ケントク

白木液体ケントク一升罐四九〇円で約十五坪、丸罐半ボンド二九〇円で約五坪みがけます



大阪市東淀川区新高南通 1—14　KKケントク　電話㊴1658・1416
0864～6





サッシ

ボンデライト

自家設備一貫作業

大阪建材工業株式会社

営業所　大阪市南区九郎右衛門通２１番地　ＴＥＬ．南(75) 507・3137・3138
本社工場　堺市松屋町１丁目６番地　ＴＥＬ．堺　4800・4801・1586
出張所　名古屋　ＴＥＬ．東(9)４８８４　金沢　ＴＥＬ．金沢(3)3427・3428

Zola-Coat

米国特許 No.2591904
日本特許 No.231698
英国特許 No.760605



関西ペイント

新しい塗料から生まれる新しい環境

コンクリート・モルタル・プラスター・木材・
金属・紙・繊維・皮革・その他あらゆる材料に
深さと魅力を与える高分子多彩塗料

ゾラコート

カタログ御希望の方は大阪市東区伏見町5丁目　当社宣伝課へ

セメント分散剤

リグナール

カタログ●見本進呈●

……の使用で セメント節約

リグナールを使用することによって1m³当り材料費が180円節約となり尚且つ強度が10.2%～6.4%増進することにより非常に経済的な施工が期待し得る

神戸市建設局生コンクリート混合所

	W/C	重量配合	スランプ cm	圧縮強度 σ7	圧縮強度 σ28
プレーイン	65%	12.3：3.8	18cm	104	192
リグナール	60%	12.5：4.5	22cm	120	245

10%－15%O.K.

神戸材料株式会社

神戸市長田区西代通四丁目十八番地
TEL ⑦ 3871
工場　神戸・大阪

日本建築協会優良證明

セメント 増強防水剤



ウォータイトB号

御一報次第型録並仕様書進呈

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　社　兵庫県宝塚市高台上の池北28－1　電話宝塚2153
工　場　尼崎市難波本町1－34　電話大阪(48)8544
名古屋出張所　名古屋市中区春日町16(安藤ビル内)　電話南(32)1331

紫綬褒章に輝く

責任・施工・請負

JIS合格モルタルコンクリート用

特許 特マノール防水剤

特許マノール急結剤　特許マノール接着剤

新日本メタルホームKK推奨品

株式会社 油脂化工社

取締役社長　矢中龍太郎

本　社　東京都品川区二葉町1－441　電話荏原㊇1715
大阪営業所　大阪市東成区西今里町2－48　電話㊊4765・0063

昭和二十四年三月十九日第三種郵便物認可　昭和三十二年十二月二十日印刷　昭和三十二年十二月廿五日発行（毎月廿五日発行）

エハラ・ターボ冷凍機
ねのくちポンプ



株式會社
荏原製作所

画期的アスファルト防水

勾配別で―アスタイト（特殊アスファルト100号・85号・80号・75号・25号）使用

年限仕様書進呈　西アス協組責任施工

三星 西日本アスファルト事業協同組合

事務所　大阪市東区淡路町2の53
分室　大阪市西区京町堀上通1の14　TEL㊹1773～5

売価一部金百三十円（送料共）

御入会の御申込は……
「建築と社会」発行所　社団法人日本建築協会大阪市東区北浜3－37　電話北浜㉓9648・9649・9640